



CLUSTERPRO X SingleServerSafe 4.3 for Windows

操作ガイド

リリース 5

日本電気株式会社

2022 年 11 月 04 日

目次:

第 1 章	はじめに	1
1.1	対象読者と目的	1
1.2	本書の構成	2
1.3	本書で記述される用語	3
1.4	CLUSTERPRO X SingleServerSafe マニュアル体系	4
1.5	本書の表記規則	5
1.6	最新情報の入手先	6
第 2 章	CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス	7
2.1	コマンドラインから操作する	9
2.2	コマンド一覧	10
2.3	状態を表示する (clpstat コマンド)	12
2.4	サービスを操作する (clpcl コマンド)	16
2.5	サーバをシャットダウンする (clpstdn コマンド)	21
2.6	グループを操作する (clpgrp コマンド)	22
2.7	ログを収集する (clplogcc コマンド)	26
2.8	構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド)	34
2.9	タイムアウトを一時調整する (clptoratio コマンド)	42
2.10	ログレベル/サイズを変更する (clplogcf コマンド)	45
2.11	ライセンスを管理する (clplnsc コマンド)	50
2.12	メッセージを出力する (clplogcmd コマンド)	57
2.13	モニタリソースを制御する (clpmonctrl コマンド)	60
2.14	グループリソースを制御する (clprsc コマンド)	65
2.15	CPU クロックを制御する (clpcpufreq コマンド)	68
2.16	クラスタ間連携を行う (clptrnreq コマンド)	70
2.17	クラスタサーバに処理を要求する (clprexec コマンド)	73
2.18	再起動回数を制御する (clpregctrl コマンド)	78
2.19	リソース使用量を予測する (clpprer コマンド)	81
2.20	プロセスの健全性を確認する (clphealthchk コマンド)	87
2.21	クラスタ外からの操作による OS シャットダウン時の動作を設定する (clpstdncnf コマンド)	90
2.22	クラスタ統計情報を表示する (clpperfc コマンド)	92
2.23	クラスタ構成情報をチェックする (clpcfchk コマンド)	95

第 3 章	注意制限事項	97
3.1	CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用後	98
第 4 章	エラーメッセージ一覧	103
4.1	セットアップ中のエラーメッセージ	104
4.2	イベントログ、アラートメッセージ	106
4.3	ドライバイベントログメッセージ	204
4.4	グループリソース活性/非活性時の詳細情報	205
4.5	モニタリソース異常時の詳細情報	210
4.6	ディスク RW 監視リソースの STOP コード一覧	250
4.7	JVM 監視リソースのログ出力メッセージ	251
4.8	ユーザ空間監視リソースの STOP コード一覧	279
第 5 章	免責・法的通知	281
5.1	免責事項	281
5.2	商標情報	282
第 6 章	改版履歴	283

第 1 章

はじめに

1.1 対象読者と目的

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 操作ガイド』は、システム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の操作方法について説明します。

1.2 本書の構成

- 「2. *CLUSTERPRO X SingleServerSafe* コマンドリファレンス」: CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用可能なコマンドについて説明します。
- 「3. 注意制限事項」: 既知の問題と制限事項について説明します。
- 「4. エラーメッセージ一覧」: CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用中に表示されるエラーメッセージの一覧について説明します。

1.3 本書で記述される用語

本書で説明する CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和性を高めるために、共通の画面・コマンドを使用しています。そのため、一部、クラスタとしての用語が使用されています。

以下のように用語の意味を解釈して本書を読み進めてください。

クラスタ、クラスタシステム CLUSTERPRO X SingleServerSafe を導入した単サーバのシステム

クラスタシャットダウン/リブート CLUSTERPRO X SingleServerSafe を導入したシステムのシャットダウン、リブート

クラスタリソース CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用されるリソース

クラスタオブジェクト CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用される各種リソースのオブジェクト

フェイルオーバーグループ CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用されるグループリソース（アプリケーション、サービスなど）をまとめたグループ

1.4 CLUSTERPRO X SingleServerSafe マニュアル体系

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のマニュアルは、以下の 4 つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Windows インストールガイド』 (Installation Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe のインストール作業の手順について説明します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Windows 設定ガイド』 (Configuration Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアと、システム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の構築作業の手順について説明します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Windows 操作ガイド』 (Operation Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の操作方法について説明します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Windows 互換機能ガイド』 (Legacy Feature Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 4.0 WebManager および Builder について説明します。

1.5 本書の表記規則

本書では、注意すべき事項、重要な事項および関連情報を以下のように表記します。

注釈: この表記は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

重要: この表記は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

参考:

この表記は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角カッコ	コマンド名の前後 画面に表示される語 (ダイアログ ボックス、メニューなど) の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックス
コマンドライン中の [] 角カッコ	カッコ内の値の指定が省略可能であることを示します。	clpstat -s [-h host_name]
モノスペースフォント	パス名、コマンド ライン、システムからの出力 (メッセージ、プロンプトなど)、ディレクトリ、ファイル名、関数、パラメータ	C:\Program Files\ CLUSTERPRO
太字	ユーザが実際にコマンドプロンプトから入力する値を示します。	以下を入力します。 clpcl -s -a
斜体	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	clpstat -s [-h host_name]



本書の図では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe を表すために このアイコンを使用します。

1.6 最新情報の入手先

最新の製品情報については、以下の Web サイトを参照してください。

<https://jpn.nec.com/clusterpro/>

第 2 章

CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用可能なコマンドについて説明します。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和性を高めるために、共通のコマンドを使用しています。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

- 2.1. コマンドラインから操作する
- 2.2. コマンド一覧
- 2.3. 状態を表示する (*clpstat* コマンド)
- 2.4. サービスを操作する (*clpcl* コマンド)
- 2.5. サーバをシャットダウンする (*clpstdn* コマンド)
- 2.6. グループを操作する (*clpgrp* コマンド)
- 2.7. ログを収集する (*clplogcc* コマンド)
- 2.8. 構成情報の反映、バックアップを実行する (*clpcfctrl* コマンド)
- 2.9. タイムアウトを一時調整する (*clptoratio* コマンド)
- 2.10. ログレベル/サイズを変更する (*clplogcf* コマンド)
- 2.11. ライセンスを管理する (*clplcncs* コマンド)
- 2.12. メッセージを出力する (*clplogcmd* コマンド)
- 2.13. モニタリソースを制御する (*clpmonctrl* コマンド)
- 2.14. グループリソースを制御する (*clprsc* コマンド)

- 2.15. CPU クロックを制御する (*clpcpufreq* コマンド)
- 2.16. クラスタ間連携を行う (*clptrnreq* コマンド)
- 2.17. クラスタサーバに処理を要求する (*clprexec* コマンド)
- 2.18. 再起動回数を制御する (*clpregctrl* コマンド)
- 2.19. リソース使用量を予測する (*clpprer* コマンド)
- 2.20. プロセスの健全性を確認する (*clphealthchk* コマンド)
- 2.21. クラスタ外からの操作による OS シャットダウン時の動作を設定する (*clpstdncnf* コマンド)
- 2.22. クラスタ統計情報を表示する (*clpperfc* コマンド)
- 2.23. クラスタ構成情報をチェックする (*clpcfchk* コマンド)

2.1 コマンドラインから操作する

CLUSTERPRO X SingleServerSafe では、コマンドプロンプトから操作するための多様なコマンドが用意されています。構築時や Cluster WebUI が使用できない状況の場合などに便利です。コマンドラインでは、Cluster WebUI で行える以上の種類の操作を行うことができます。

注釈: モニタリソースの異常検出時の設定で回復対象にグループリソース (アプリケーションリソース、...) を指定し、モニタリソースが異常を検出した場合の回復動作遷移中 (再活性化 → 最終動作) には、以下のコマンドまたは、Cluster WebUI からのサービスおよびグループへの制御は行わないでください。

- サービスの停止/サスペンド
- グループの開始/停止

モニタリソース異常による回復動作遷移中に上記の制御を行うと、そのグループの他のグループリソースが停止しないことがあります。

また、モニタリソース異常状態であっても最終動作実行後であれば上記制御を行うことが可能です。

2.2 コマンド一覧

• 構築関連

コマンド	説明	関連
clpcfctrl.exe	Cluster WebUI で作成した構成情報をサーバに反映します。 Cluster WebUI で使用するために構成情報をバックアップします。	2.8. 構成情報の反映、バックアップを実行する (<i>clpcfctrl</i> コマンド)
clplcncs.exe	本製品の製品版・試用版ライセンスを管理します。	2.11. ライセンスを管理する (<i>clplcncs</i> コマンド)
clpcfchk.exe	クラスタ構成情報をチェックします。	2.23. クラスタ構成情報をチェックする (<i>clpcfchk</i> コマンド)

• 状態表示関連

コマンド	説明	関連
clpstat.exe	CLUSTERPRO X SingleServerSafe の状態や、設定情報を表示します。	2.3. 状態を表示する (<i>clpstat</i> コマンド)
clphealthchk.exe	プロセスの健全性を確認します。	2.20. プロセスの健全性を確認する (<i>clphealthchk</i> コマンド)

• 操作関連

コマンド	説明	関連
clpcl.exe	サービスの起動、停止、サスペンド、リジュームなどを実行します。	2.4. サービスを操作する (<i>clpcl</i> コマンド)
clpstdn.exe	サービスを停止し、サーバをシャットダウンします。	2.5. サーバをシャットダウンする (<i>clpstdn</i> コマンド)
clpgrp.exe	グループの起動、停止を実行します。	2.6. グループを操作する (<i>clpgrp</i> コマンド)
clptoratio.exe	各種タイムアウト値の延長、表示を行います。	2.9. タイムアウトを一時調整する (<i>clptoratio</i> コマンド)
clpmonctrl.exe	モニタリソースの一時停止/再開を行います。	2.13. モニタリソースを制御する (<i>clpmonctrl</i> コマンド)

次のページに続く

表 2.3 – 前のページからの続き

コマンド	説明	関連
clprsc.exe	グループリソースの一時停止/再開を行います。	2.14. グループリソースを制御する (<i>clprsc</i> コマンド)
clpcpufreq.exe	CPU クロックの制御を行います。	2.15. CPU クロックを制御する (<i>clpcpufreq</i> コマンド)
clprexec.exe	サーバへ処理実行を要求します。	2.17. クラスタサーバに処理を要求する (<i>clprexec</i> コマンド)
clpregctrl.exe	再起動回数制限の制御を行います。	2.18. 再起動回数を制御する (<i>clpregctrl</i> コマンド)

- ログ関連

コマンド	説明	ページ
clplogcc.exe	ログ、OS 情報等を収集します。	2.7. ログを収集する (<i>clplogcc</i> コマンド)
clplogcf.exe	ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定の変更、表示を行います。	2.10. ログレベル/サイズを変更する (<i>clplogcf</i> コマンド)
clpperfc.exe	グループ、モニタリソースに関するクラスタ統計情報を表示します。	2.22. クラスタ統計情報を表示する (<i>clpperfc</i> コマンド)

- スクリプト関連

コマンド	説明	関連
clplogcmd.exe	スクリプトリソースのスクリプトに記述し、任意のメッセージを出力先に出力します。	2.12. メッセージを出力する (<i>clplogcmd</i> コマンド)

重要: インストールディレクトリ配下に本マニュアルに記載していない実行形式ファイルやスクリプトファイルがありますが、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以外からの実行はしないでください。実行した場合の影響については、サポート対象外とします。

- システム監視関連 (System Resource Agent を使用している場合のみ)

コマンド	説明	関連
clpper.exe	与えられたリソース使用量データの傾向から将来値を予測します。	2.19. リソース使用量を予測する (<i>clpper</i> コマンド)

2.3 状態を表示する (clpstat コマンド)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe の状態と、設定情報を表示します。

コマンドライン

```
clpstat -s [--long]
clpstat -g
clpstat -m
clpstat -i [--detail]
clpstat --cl [--detail]
clpstat --sv [--detail]
clpstat --grp [<grpname>] [--detail]
clpstat --rsc [<rscname>] [--detail]
clpstat --mon [<monname>] [--detail]
```

説明

CLUSTERPRO X SingleServerSafe の状態や、設定情報を表示します。

パラメータ

-s

オプションなし

状態を表示します。

--long

クラスタ名やリソース名などの名前を最後まで表示します。

-g

グループを表示します。

-m

各モニタリソースの状態を表示します。

-i

全体の設定情報を表示します。

--cl

設定情報を表示します。

--sv

サーバの設定情報を表示します。

--grp [<grpname>]

グループの設定情報を表示します。グループ名を指定することによって、指定したグループ情報のみを表示できます。

--rsc [<rscname>]

グループリソースの設定情報を表示します。グループリソース名を指定することによって、指定したグループリソース情報のみを表示できます。

--mon [<monname>]

モニタリソースの設定情報を表示します。モニタリソース名を指定することによって、指定したモニタリソース情報のみを表示できます。

--detail

このオプションを使用することによって、より詳細な設定情報を表示できます。

戻り値

0	成功
251	二重起動
上記以外	異常

備考

設定情報表示オプションは組み合わせによって、様々な形式で情報表示をすることができます。

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。本コマンドは二重起動できません。
オプションを指定しない場合と -s オプションを指定する場合は、クラスタ名やリソース名などの名前が途中までしか出力されません。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data.	Cluster WebUI で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。

次のページに続く

表 2.7 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Could not connect to the server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO Information Base サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server status.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Invalid heartbeat resource name. Specify a valid heartbeat resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいハートビートリソース名を指定してください。
Invalid network partition resource name. Specify a valid network partition resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいネットワークパーティション解決リソース名を指定してください。
Invalid group name. Specify a valid group name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループ名を指定してください。
Invalid group resource name. Specify a valid group resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループリソース名を指定してください。
Invalid monitor resource name. Specify a valid monitor resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいモニタリソース名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
This command is already run.	本コマンドは既に実行されています。 本コマンドは二重起動できません。
The cluster is not created.	クラスタ構成情報を作成し、反映してください。
Could not connect to the server. Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 2.7 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Cluster is stopped. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。
Cluster is suspended. To display the cluster status, use --local option.	クラスタがサスペンド状態です。 クラスタの状態を表示するには、--local オプションを使用してください。

2.4 サービスを操作する (clpcl コマンド)

CLUSTERPRO サービスを操作します。

コマンドライン

```
clpcl -s  
clpcl -t [-w <timeout>] [--apito timeout]  
clpcl -r [-w <timeout>] [--apito timeout]  
clpcl --return  
clpcl --suspend [--force] [-w <timeout>] [--apito timeout]  
clpcl --resume
```

説明

CLUSTERPRO サービスの起動、停止、復帰、サスペンド、リジュームなどを実行します。

パラメータ

-s
CLUSTERPRO サービスを起動します。

-t
CLUSTERPRO サービスを停止します。

-r
CLUSTERPRO サービスを再起動します。

--return
CLUSTERPRO サービスを復帰します。

--suspend
CLUSTERPRO サービスをサスペンドします。

--resume
CLUSTERPRO サービスをリジュームします。

-w <timeout>

-t、-r、--suspend オプションの場合にのみ clpcl コマンドが CLUSTERPRO サービスの停止またはサスペンドの完了を待ち合わせる時間を秒単位で指定します。

Timeout の指定がない場合、無限に待ち合わせを行います。

Timeout に "0" を指定した場合、待ち合わせを行いません。

-w オプションを指定しない場合（デフォルト）は、
ハートビートタイムアウト× 2 秒の間、待ち合わせを行います。

--force

--suspend オプションと一緒に用いることで、サーバの状態に関わらず強制的にサスペンドを実行します。

--apito timeout

CLUSTERPRO デーモンの停止、再起動、サスペンドを待ち合わせる時間（内部通信タイムアウト）を秒単位で指定します。1-9999 の値が指定できます。

[--apito] オプション指定しない場合は、クラスタプロパティの内部通信タイムアウトに設定された値に従い、待ち合わせを行います。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

本コマンドを -s または --resume オプションで実行した場合、対象のサーバで処理が開始したタイミングで制御を戻します。

-t または --suspend オプションで実行した場合、処理の完了を待ち合わせてから制御を戻します。

-r オプションで実行した場合、対象のサーバで CLUSTERPRO デーモンが一度停止し、起動を開始したタイミングで制御を戻します。

CLUSTERPRO デーモンの起動またはリジュームの状況は clpstat コマンドで確認してください。

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

本コマンドはグループの起動処理中、停止処理中に実行できません。

サスペンドを実行する場合は、CLUSTERPRO サービスが起動した状態で実行してください。

リジュームを実行する場合は、clpstat コマンドを用いて CLUSTERPRO サービスが起動していないかを確認してください。

- サスペンド・リジュームについて

構成情報の更新、CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアップデートなどを行いたい場合に、業務を継続したまま、CLUSTERPRO サービスを停止させることができます。この状態をサスペンドといいます。サスペンド状態から通常の業務状態に戻ることをリジュームといいます。

サスペンド・リジュームはサーバに対して処理を要求します。サスペンドは、CLUSTERPRO サービスが起動した状態で実行してください。

サスペンド状態では、活性していたリソースはそのまま活性した状態で CLUSTERPRO サービスが停止するため以下の機能が停止します。

- 全てのモニタリソースが停止します。
- グループまたはグループリソースの操作ができなくなります。（起動、停止）
- 以下のコマンドが使用不可となります。

* clpcl の --resume 以外のオプション

* clpstdn

* clpgrp

* clprsc

* clptoratio

* clpmonctrl

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data.	Cluster WebUI で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Performed stop processing to the stopped cluster service.	停止している CLUSTERPRO サービスに対して停止処理を実行しました。
Performed startup processing to the active cluster service.	起動している CLUSTERPRO サービスに対して起動処理を実行しました。
Command timeout.	コマンドがタイムアウトしました。

次のページに続く

表 2.8 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Failed to return the server. Check the status of failed server.	サーバの復帰に失敗しました。処理に失敗したサーバの状態を確認してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Could not connect to the data transfer server. Check if the server has started up.	サーバが起動しているか確認してください。
Failed to obtain the list of nodes. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Failed to obtain the service name.	サービス名の取得に失敗しました。
Failed to operate the service.	サービスの制御に失敗しました。
Resumed the cluster service that is not suspended.	サスペンド状態ではない CLUSTERPRO サービスに対して、リジューム処理を実行しました。
Invalid server status.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Server is busy. Check if this command is already run.	既に本コマンドを実行している可能性があります。確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
There is one or more servers of which cluster service is active. If you want to perform resume, check if there is any server whose cluster service is active in the cluster.	リジュームを実行する場合、クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが起動しているサーバがないか確認してください。
All servers must be activated. When suspending the server, the cluster service needs to be active on all servers in the cluster.	サスペンドを実行する場合、クラスタ内の全てのサーバで、CLUSTERPRO サービスが起動している必要があります。
Resume the server because there is one or more suspended servers in the cluster.	クラスタ内にサスペンドしているサーバがあるので、リジュームを実行してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。

次のページに続く

表 2.8 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してみてください。
Processing failed on some servers. Check the status of failed servers.	全サーバ指定で停止処理を実行した場合、処理に失敗したサーバが存在します。 処理に失敗したサーバの状態を確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.5 サーバをシャットダウンする (clpstdn コマンド)

サーバをシャットダウンします。

コマンドライン

clpstdn [-r]

説明

サーバの CLUSTERPRO サービスを停止し、シャットダウンします。

パラメータ

オプションなし

サーバのシャットダウンを実行します。

-r

サーバのシャットダウンリブートを実行します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

本コマンドは、グループ停止処理が完了したタイミングで制御を戻します。

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

本コマンドはグループの起動処理中、停止処理中に実行できません。

エラーメッセージ

「サービスを操作する (clpcl コマンド)」を参照してください。

2.6 グループを操作する (clpgrp コマンド)

グループを操作します。

コマンドライン

```
clpgrp -s [<grpname>] [--apito timeout]
```

```
clpgrp -t [<grpname>] [--apito timeout]
```

説明

グループの起動、停止を実行します。

パラメータ

-s [<grpname>]

グループを起動します。グループ名を指定すると、指定されたグループのみ起動します。グループ名の指定がない場合は、全てのグループが起動されます。

-t [<grpname>]

グループを停止します。グループ名を指定すると、指定されたグループのみ停止します。グループ名の指定がない場合は、全てのグループが停止されます。

--apito timeout

グループの起動、停止を待ち合わせる時間（内部通信タイムアウト）を秒単位で指定します。1-9999の値が指定できます。

[--apito] オプション指定しない場合は、クラスタプロパティの内部通信タイムアウトに設定された値に従い、待ち合わせを行います。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

CLUSTERPRO サービスが起動している必要があります。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration data. Create valid cluster configuration data.	Cluster WebUI で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server status. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。
Invalid server. Specify a server that can run and stop the group, or a server that can be a target when you move the group.	グループを起動、停止、移動する先のサーバが不正です。 正しいサーバを指定してください。
Could not start the group. Try it again after the other server is started, or after the Wait Synchronization time is timed out.	他サーバが起動するのを待つか、起動待ち時間がタイムアウトするのを待って、グループを起動させてください。
No operable group exists in the server.	処理を要求したサーバに処理可能なグループが存在するか確認してください。
The group has already been started on the local server.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。

次のページに続く

表 2.9 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
The group has already been started on the other server. To start/stop the group on the local server, use -f option.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。 他サーバで起動しているグループを自サーバで起動/停止させたい場合は、グループの移動を実行するか、[-f] オプションを加えて実行してください。
The group has already been stopped.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。
Failed to start one or more resources. Check the status of group.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。
Failed to stop one or more resources. Check the status of group.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。
The group is busy. Try again later.	グループが起動処理中、もしくは停止処理中なので、しばらく待ってから実行してください。
An error occurred on one or more groups. Check the status of group.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。
Invalid group name. Specify a valid group name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループ名を指定してください。
Server is isolated.	サーバが保留 (ダウン後再起動) 状態です。
Some invalid status. Check the status of cluster.	何らかの不正な状態です。クラスタの状態を確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to migrate the group.	[-I] オプションの場合は、指定されたグループのタイプが、マイグレーションが可能な、仮想マシンタイプであるか確認してください。
The specified group cannot be migrated.	グループの状態を確認してください。
The specified group is not vm group.	グループのタイプが仮想マシンに設定されているか確認してください。
Migration resource does not exist.	グループに仮想マシンリソースが存在していることを確認してください。
Migration resource is not online.	仮想マシンリソースが起動しているか確認してください。
Server is not in a condition to start group. Critical monitor error is detected.	各サーバの状態を確認してください。

次のページに続く

表 2.9 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
There is no appropriate destination for the group. Critical monitor error is detected.	各サーバの状態を確認してください。

2.7 ログを収集する (clplogcc コマンド)

ログを収集します。

コマンドライン

```
clplogcc [-t collect_type] [-o path] [--local] [--evt event_type ...]
```

説明

ログ、OS 情報等を収集します。

パラメータ

なし

ログを収集します。

-t *collect_type*

ログ収集パターンを指定します。省略した場合のログ収集パターンは **type1** です。

-o *path*

収集ファイルの出力先を指定します。省略した場合は、インストールパスの **tmp** 配下にログが出力されます。

--local

データ転送サーバを経由せずにローカルサーバのログを収集します。

--evt *event_type*

収集するイベントログの種類を指定します。

省略した場合は、アプリケーションログ、システムログ、セキュリティログが収集されます。

none を指定すると、イベントログは収集されません。

[--local] オプション指定時のみ有効です。

詳細については、"[2.7.3. 収集するイベントログの種類の指定 \(--evt オプション\)](#)" で説明します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

ログファイルは **zip** で圧縮されているので、**zip** を解凍可能な アプリケーションを利用して解凍してください。

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

実行結果

本コマンドの結果で表示される処理過程は以下になります。

処理過程	説明
Preparing	初期化中
Connecting	サーバ接続中
Compressing	ログファイル圧縮中
Transmitting	ログファイル送信中
Disconnecting	サーバ切断中
Completion	ログ収集完了

実行結果（サーバ状態）については以下になります。

実行結果（サーバ状態）	説明
Normal	正常終了しました。
Canceled	ユーザによってキャンセルされました。
Invalid Parameters	パラメータ不正です。
Compression Error	圧縮エラーが発生しました。
Communication Error	送信エラーが発生しました。
Timeout	タイムアウトしました。
Busy	サーバがビジー状態です。
No Free Space	ディスクに空き容量がありません。
File I/O Error	ファイル I/O エラーが発生しました。
Unknown Error	その他のエラーによる失敗です。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Collect type must be specified 'type1' or 'type2' or 'type3' or 'type4' or 'type5' or 'type6'. Incorrect collection type is specified.	収集タイプの指定が間違っています。

次のページに続く

表 2.12 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Specifiable number of servers is the max number of servers that can constitute a cluster.	指定可能なサーバ数は、クラスタ構成可能な最大サーバ数です。
Failed to obtain properties.	プロパティの取得に失敗しました。
Failed to obtain the list of nodes. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Failed to collect log.	ログ収集が失敗しました。
Server is busy. Check if this command is already run.	既に本コマンドを実行している可能性があります。確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.7.1 タイプを指定したログの収集 (-t オプション)

指定したタイプのログのみを収集したい場合は、clplogcc コマンドで -t オプションを指定して実行します。

ログの収集タイプは type1 ~ 6 までを指定します。

	type1	type2	type3	type4	type5	type6
(1) デフォルト収集情報	✓	✓	✓	n/a	n/a	n/a
(2) イベントログ	✓	✓	✓	✓	n/a	n/a
(3) Windows エラーレポート	✓	✓	✓	✓	n/a	n/a
(4) ユーザダンプ	✓	✓	n/a	n/a	n/a	n/a
(5) 診断プログラムレポート	✓	✓	n/a	n/a	n/a	n/a

次のページに続く

表 2.13 – 前のページからの続き

	type1	type2	type3	type4	type5	type6
(6) レジストリ	✓	✓	✓	n/a	n/a	n/a
(7) スクリプト	✓	✓	✓	n/a	n/a	n/a
(8) ESM-PRO/AC、ESM-PRO/UPSC のログ	✓	✓	✓	n/a	n/a	n/a
(9) HA ログ	n/a	✓	n/a	n/a	n/a	n/a
(10) ミラー統計情報	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a
(11) クラスタ統計情報	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	✓
(12) システム統計情報	✓	✓	✓	n/a	n/a	✓

コマンドラインからは以下のように実行します。

実行例：収集タイプ **type2** でログ収集を行う場合。

```
# clplogcc -t type2
```

オプションを指定しない場合のログ収集タイプは **type1** です。

デフォルト収集情報

- CLUSTERPRO サーバの各モジュールログ
- CLUSTERPRO サーバの各モジュールの属性情報 (dir)
 - Bin 配下
 - alert\bin、webmgr\bin 配下

– %SystemRoot%\system32\drivers 配下

- CLUSTERPRO X SingleServerSafe のバージョン情報
- OS 情報
- アップデートログ
- ライセンス情報
- 設定ファイル
- ポリシーファイル
- 共有メモリのダンプ
- CLUSTERPRO のステータス (clpstat --local の実行結果)
- ホスト名、ドメイン名情報 (hostname の実行結果)
- ネットワーク情報 (netstat の実行結果)
- IP ルーティングテーブル情報 (route print の実行結果)
- プロセス存在状況 (tasklist の実行結果)
- ipconfig (ipconfig の実行結果)
- ファイルの共有設定 (net share の実行結果)
- セッション情報 (net session の実行結果)
- Windows ファイアウォールの設定 (netsh の実行結果)
- SNP (Scalable Networking Pack) の設定 (netsh の実行結果)
- タスクスケジューラの設定 (schtasks の実行結果)

イベントログ

- アプリケーションログ (AppEvent.Evt, Application.evtx)
- システムログ (SysEvent.Evt, System.evtx)
- セキュリティログ (SecEvent.Evt, Security.evtx)

Windows エラーレポート

- ***.wer

ユーザダンプ

- ***.*dmp

診断プログラムレポート

- msinfo32.exe コマンドの実行結果

レジストリ

- CLUSTERPRO サーバのレジストリ情報
 - HKLM\SOFTWARE\NEC\CLUSTERPRO\Alert
 - HKLM\SOFTWARE\NEC\CLUSTERPRO\MirrorList
 - HKLM\SOFTWARE\NEC\CLUSTERPRO\RC
 - HKLM\SOFTWARE\NEC\CLUSTERPRO\VCOM
 - Diskfltr のレジストリ情報
- OS のレジストリ情報
 - HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Disk
 - HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Session Manager\DOS Devices
 - HKLM\SYSTEM\MountedDevices
 - HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Enum\SCSI
 - HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Enum\STORAGE
 - HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\symc8xx
 - HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\FileSystem

スクリプト

Cluster WebUI で作成されたグループ起動/停止スクリプト

上記以外のユーザ定義スクリプトを指定した場合は、ログ収集の採取情報に含まれないため、別途採取する必要があります。

ESMPRO/AC、ESMPRO/UPSC のログ

acupslog.exe コマンドの実行により収集されるファイル

HA ログ

- システムリソース情報
- JVM モニタログ
- システムモニタログ

ミラー統計情報

このバージョンでは収集されません。

クラスタ統計情報

- クラスタ統計情報
 - perf\cluster 配下

システム統計情報

- システム統計情報
 - perf\system 配下

2.7.2 ログファイルの出力先 (-o オプション)

- ファイル名は、「サーバ名-log.zip」で保存されます。
- ログファイルは zip で圧縮されているので、zip を解凍可能なアプリケーションを利用して解凍してください。

-o オプションを指定しない場合

インストールパスの tmp 配下にログが出力されます。

-o オプションを指定する場合

以下のようにコマンドを実行すると、指定したディレクトリ C:\tmp 配下にログが出力されます。

```
# clplogcc -o C:\tmp
```

2.7.3 収集するイベントログの種類の指定 (--evt オプション)

ログ収集で採取される情報に含まれるイベントログの種類を指定することができます。

[--evt] オプションに続けて、収集するイベントログを示す下記のいずれか、または、一つ以上の組み合わせを指定します。

イベントログの種類	指定文字
アプリケーションログ	app
システムログ	sys
セキュリティログ	sec

例) システムログとセキュリティログを収集する場合

```
# clplogcc --local --evt sys sec
```

- [--local] オプション指定時のみ有効です。

2.7.4 緊急 OS シャットダウン時の情報採取

CLUSTERPRO サービスが、内部ステータス異常による終了などで異常終了した場合に、OS のリソース情報を採取します。

採取する情報は以下です。

- 情報
 - CLUSTERPRO サーバの一部のモジュールログ
- コマンド実行による情報
 - ホスト名、ドメイン名情報 (hostname の実行結果)
 - ネットワーク情報 (netstat の実行結果)
 - プロセス存在状況 (tasklist の実行結果)
 - ipconfig (ipconfig の実行結果)
 - ファイルの共有設定 (net share の実行結果)
 - セッション情報 (net session の実行結果)

この情報はログ収集のデフォルト収集情報として採取されるため、別途採取する必要はありません。

2.8 構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド)

2.8.1 構成情報を反映する (clpcfctrl --push)

構成情報をサーバに反映します。

コマンドライン

```
clpcfctrl --push [-w] [-x <path>] [-p <portnumber>] [--nocheck]
```

説明

Cluster WebUI で作成した構成情報をサーバに反映します。

パラメータ

--push

反映時に指定します。

省略できません。

-x

指定したディレクトリにある構成情報を反映する場合に指定します。

-w

構成情報ファイルの文字コードが SJIS であることを示します。

通常は本オプションを省略可能です。

-p

データ転送ポートのポート番号を指定します。

省略時は初期値を使用します。通常は指定の必要はありません。

--nocheck

変更を反映させるために必要な操作のチェックを行わずに配信します。配信した構成情報を反映させるためには必要に応じた操作を手動で実行する必要があります。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

注意事項

本コマンドは Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

構成情報反映時に、現在の構成情報と反映予定の構成情報を比較します。

構成内容に変更がある場合は、以下のメッセージが出力されます。メッセージの指示に従い、サービス操作 / グループ操作を行ってから、再度本コマンドを実行してください。

メッセージ	対処法
Please stop CLUSTERPRO Server.	サーバを停止してください。
Please suspend CLUSTERPRO Server.	サーバをサスペンドしてください。
Please stop the following groups.	設定を変更したグループを停止してください。
Reboot of a cluster is necessary to reflect setting.	設定を反映するには、クラスタシャットダウン・リブートを実行してください。
To apply the changes you made, restart the CLUSTERPRO Web Alert service.	設定を反映するには、CLUSTERPRO Web Alert サービスを再起動してください。
To apply the changes you made, restart the CLUSTERPRO Manager service.	設定を反映するには、CLUSTERPRO Manager サービスを再起動してください。
To apply the changes you made, restart the CLUSTERPRO Information Base service.	設定を反映するには、CLUSTERPRO Information Base サービスを再起動してください。
To apply the changes you made, restart the CLUSTERPRO API service.	設定を反映するには、CLUSTERPRO API サービスを再起動してください。
To apply the changes you made, restart the CLUSTERPRO Node Manager service.	設定を反映するには、CLUSTERPRO Node Manager サービスを再起動してください。
Start of a cluster is necessary to reflect setting.	初回構築時のメッセージです。クラスタ開始を実行してください。

--nocheck オプションは保守手順などの特別な用途においてのみ使用します。通常の操作では使用しないでください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator ユーザで実行してください。
This command is already run.	本コマンドはすでに起動されています。

次のページに続く

表 2.16 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Invalid option.	オプションが不正です。 オプションを確認してください。
Invalid mode. Check if --push or --pull option is specified.	[--push] を指定しているか確認してください。
Invalid host name. Server specified by -h option is not included in the configuration data	[-h] で指定したサーバが構成情報に含まれていません。指定したサーバ名または IP アドレスが正しいか確認してください。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to load the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to load the all.pol file. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to load the cfctrl.pol file. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to get the install path. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to initialize the trncl library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to connect to trnsv. Check if the other server is active.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
Failed to get the list of node. Check if the server name or ip addresses are correct.	構成情報のサーバ名と IP アドレスが正しく設定されているか確認してください。
File delivery failed. Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Multi file delivery failed. Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。

次のページに続く

表 2.16 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Failed to upload the configuration file. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
Canceled to deliver the configuration file since it failed to connect to one or more server. If you want to deliver the configuration file to servers that can be connected, run the command again with "--force" option.	構成情報の配信を中止しました。接続に失敗したサーバがあります。もし接続可能なサーバのみ構成情報を配信したい場合は、[--force] オプションを用いて再度コマンドを実行してください。
The directory "work" is not found. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to make a working directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The directory does not exist.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
This is not a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The source file does not exist.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The source file is a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The source directory does not exist.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The source file is not a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the character code set (EUC to SJIS).	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the character code set (SJIS to EUC).	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to allocate memory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 2.16 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Failed to make a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to remove the directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to remove the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to open the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to read the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to copy the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to create the mutex.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to check server property. Check if the server name or ip addresses are correct .	構成情報のサーバ名と IP アドレスが正しく設定されているか確認してください。
Please stop the following resources.	設定を変更したリソースを停止してください。

2.8.2 構成情報をバックアップする (clpcfctrl --pull)

構成情報をバックアップします。

コマンドライン

```
clpcfctrl --pull [-w] [-x <path>] [-p <portnumber>]
```

説明

Cluster WebUI で使用するために構成情報をバックアップします。

パラメータ

--pull

バックアップ時に指定します。

省略できません。

-x

指定したディレクトリに構成情報をバックアップします。

-w

構成情報を文字コード SJIS で保存します。

-p

データ転送ポートのポート番号を指定します。

省略時は初期値を使用します。通常は指定の必要はありません。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

注意事項

本コマンドは Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator ユーザで実行してください。
This command is already run.	すでに起動されています。
Invalid option.	オプションが不正です。 オプションを確認してください。
Invalid mode. Check if --push or --pull option is specified.	[--pull] を指定しているか確認してください。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to load the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to load the all.pol file. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。

次のページに続く

表 2.17 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Failed to load the cfctrl.pol file. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to get the install path. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to initialize the trncl library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to connect to trnsv. Check if the other server is active.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
The directory "work" is not found. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to make a working directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The directory does not exist.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
This is not a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The source file does not exist.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The source file is a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The source directory does not exist.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The source file is not a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the character code set (EUC to SJIS).	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the character code set (SJIS to EUC).	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to allocate memory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to make a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to remove the directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 2.17 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Failed to remove the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to open the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to read he file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to write the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to copy the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to create the mutex.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.9 タイムアウトを一時調整する (clptoratio コマンド)

現在のタイムアウト倍率の延長、表示を行います。

コマンドライン

```
clptoratio -r <ratio> -t <time>
```

```
clptoratio -i
```

```
clptoratio -s
```

説明

以下の各種タイムアウト値を一時的に延長します。

- モニタリソース
- アラート同期サービス
- WebManager サービス

現在のタイムアウト倍率を表示します。

パラメータ

-r ratio

タイムアウト倍率を指定します。1 以上の整数値で設定してください。最大タイムアウト倍率は 10000 倍です。

「1」を指定した場合、-i オプションと同様に、変更したタイムアウト倍率を元に戻すことができます。

-t time

延長期間を指定します。

分 m、時間 h、日 d が指定できます。最大延長期間は 30 日です。

例) 2m、3h、4d

-i

変更したタイムアウト倍率を元に戻します。

-s

現在のタイムアウト倍率を参照します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

サーバのシャットダウンを実行すると、設定したタイムアウト倍率は無効になります。

-s オプションで参照できるのは、現在のタイムアウト倍率のみです。延長期間の残り時間などは参照できません。

状態表示コマンドを用いて、元のタイムアウト値を参照できます。

モニタリソースタイムアウト

```
# clpstat --mon モニタリソース名 --detail
```

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

CLUSTERPRO サービスが起動した状態で実行してください。

タイムアウト倍率を設定する場合、延長期間の指定は必ず行ってください。しかし、タイムアウト倍率指定に「1」を指定した場合は、延長期間を指定することはできません。

延長期間指定に、「2m3h」などの組み合わせはできません。

実行例

例 1:タイムアウト倍率を 3 日間 2 倍にする場合

```
# clptoratio -r 2 -t 3d
```

例 2:タイムアウト倍率を元に戻す場合

```
# clptoratio -i
```

例 3:現在のタイムアウト倍率を参照する場合

```
# clptoratio -s
```

```
present toratio : 2
```

現在のタイムアウト倍率は 2 で設定されていることが分かります。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data.	Cluster WebUI で正しいクラスタ構成情報を作成してください。

次のページに続く

表 2.18 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Specify a number in a valid range.	正しい範囲で数字を指定してください。
Specify a correct number.	正しい数字で指定してください。
Scale factor must be specified by integer value of 1 or more.	倍率は 1 以上の整数値で指定してください。
Specify scale factor in a range less than the maximum scale factor.	最大倍率を超えない範囲で倍率を指定してください。
Set the correct extension period. Ex) 2m, 3h, 4d	正しい延長期間の設定をしてください。
Set the extension period in a range less than the maximum extension period.	最大延長期間を超えない範囲で延長期間を設定してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。
Processing failed on some servers. Check the status of failed servers.	処理に失敗したサーバが存在します。 クラスタ内のサーバの状態を確認してください。 クラスタ内の全てのサーバが起動した状態で実行してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.10 ログレベル/サイズを変更する (clplogcf コマンド)

ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定の変更、表示を行います。

コマンドライン

```
clplogcf -t <type> -l <level> -s <size>
```

説明

ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定を変更します。

現在の設定値を表示します。

パラメータ

-t

設定を変更するモジュールタイプを指定します。

-l と -s のいずれも省略した場合は、指定したモジュールタイプに設定されている情報を表示します。

指定可能なタイプは「-t オプションに指定可能なタイプ」の表を参照してください。

-l

ログレベルを指定します。

指定可能なログレベルは以下のいずれかです。

1、2、4、8、16、32

数値が大きいほど詳細なログが出力されます。

-s

ログを出力するファイルのサイズを指定します。

単位は byte です。

なし

現在設定されている全情報を表示します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

CLUSTERPRO X SingleServerSafe が出力するログは、各タイプで 2 つのログファイルを使用します。このため -s で指定したサイズの 2 倍のディスク容量が必要です。

注意事項

本コマンドは Administrator 権限をもつユーザで実行してください。

本コマンドの実行には CLUSTERPRO Event サービスが動作している必要があります。

サーバを再起動すると変更した設定は元に戻ります。

実行例

例 1:pm のログレベルを変更する場合

```
# clplogcf -t pm -l 8
```

例 2:pm のログレベル、ログファイルサイズを参照する場合

```
# clplogcf -t pm
```

```
TYPE, LEVEL, SIZE
```

```
pm, 8, 1000000
```

例 3:現在の設定値を表示する場合

```
# clplogcf
```

```
TYPE, LEVEL, SIZE
```

```
trnsv, 4, 1000000
```

```
xml, 4, 1000000
```

```
logcf, 4, 1000000
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator ユーザで実行してください。
Invalid option.	オプションが不正です。オプションを確認してください。
Failed to change configuration. Check if the event service is running.	CLUSTERPRO Event サービスが起動されていない可能性があります。
Invalid level.	指定したレベルが不正です。
Invalid size.	指定したサイズが不正です。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to print current configuration. Check if the event service is running.	CLUSTERPRO Event サービスが起動されていない可能性があります。

[-t] オプションに指定可能なタイプ

タイプ	モジュール	説明
alert	clpaltinsert.exe	アラート
apicl	clpapiicl.dll	API クライアントライブラリ
apicl_rc	clpapiicl.dll	API クライアントライブラリ
apisv	clpapisv.dll	API サーバ
appli	clpappli.dll	アプリケーションリソース
appliw	clpappliw.dll	アプリケーション監視リソース
armdrive	armdrive.exe	ドライブ文字設定コマンド
bwctrl	clpbwctrl.exe	クラスタ起動同期待ち処理制御コマンド
cfchk	clpcfchk.exe	クラスタ構成チェックコマンド
cfctrl	clpcfctrl.exe	クラスタ生成、クラスタ情報バックアップコマンド
cl	clpcl.exe	クラスタ操作コマンド
clpdnld	clpdnld.exe	ダウンロード
clpgetsvstat	clptrns.exe	トランザクションサーバ
clpshmstat	clpshmstat.dll	ノードステータス管理ライブラリ
clsv	clpclsv.dll	クライアントサービス
commcl	clpcommcl.dll	汎用通信クライアントライブラリ
cpufreq	clpcpufreq.exe	CPU クロック制御コマンド
diskperf	clpdiskperf.dll	ディスクパフォーマンスログ出力用ライブラリ
diskutil	clpdiskutil.dll	ミラーディスク/ディスク共通ライブラリ
diskw	clpdiskw.dll	ディスク RW 監視リソース
down	clpdown.exe	サーバシャットダウンコマンド
event	clpevent.dll	イベントログ
exping	clpexpng.dll	PING 実行管理
genw	genw.dll	カスタム監視リソース
grp	clpgrp.exe	グループ起動、停止、移動、マイグレーションコマンド
hblog	clplanhb.dll	カーネルモード LAN ハートビートリソース
healthchk	clphealthchk.exe	プロセス健全性確認コマンド
ibsv	clpibsv.exe	Information Base サービス
ipw	clpipw.dll	IP 監視リソース
lankhb	clplanhb.dll	カーネルモード LAN ハートビートリソース
lcns	clplcns.dll	ライセンスライブラリ
logc	clplogc.dll	ログ収集ライブラリ
logcc	clplogcc.exe	ログ収集コマンド
logcf	clplogcf.exe	ログレベル、サイズ変更コマンド
logcmd	clplogcmd.exe	アラート出力コマンド

次のページに続く

表 2.20 – 前のページからの続き

タイプ	モジュール	説明
mail	clpmail.exe	Mail 通報
mgmtmib	clpmgmtmib.dll	SNMP 連携ライブラリ
miiw	clpmiiw.dll	NIC Link Up/Down 監視リソース
monctrl	clpmonctrl.exe	モニタリソース制御コマンド
mrw	clpmrw.dll	外部連携監視リソース
mtw	clpmtw.dll	マルチターゲット監視リソース
nm	clpnm.exe	ノードマップ管理
oldapi	clpoldapi.exe	互換 API
oldapi_cnf	clpoldapi.exe	互換 API
oldapi_evt	clpoldapi.exe	互換 API
oldapi_if	clpoldapi.exe	互換 API
oldapi_sts	clpoldapi.exe	互換 API
perfc	clpperfc.exe	クラスタ統計情報表示コマンド
pm	clppm.exe	プロセス管理
pmsvc	clppmsvc.exe	プロセス管理
psw	clppsw.dll	プロセス名監視リソース
ptun	clpptun.dll	パラメータチューニング
ptunlib	clpptun.dll	パラメータチューニング
rc	clprc.exe	グループ、グループリソース管理
rc_ex	clprc.exe	グループ、グループリソース管理
regctrl	clpregctrl.exe	再起動回数制御コマンド
resdllc	clpresdllc.dll	リソース制御ライブラリ
rm	clprm.dll	モニタ管理
script	clpscript.dll	スクリプトリソース
scrpc	clpscrpc.exe	スクリプト
scrpl	clpscrpl.exe	スクリプト
sem	clpsem.dll	セマフォライブラリ
service	clpservice.dll	サービスリソース
servicew	clpservicew.dll	サービス監視リソース
shmcm	clpshmcm.dll	共有メモリライブラリ
shmevt	clpshmevt.dll	イベントライブラリ
shmmnm	clpshmmnm.dll	共有メモリライブラリ
shmrnm	clpshmrnm.dll	共有メモリライブラリ
snmpmgr	clpsnmpmgr.dll	SNMP トラップ受信ライブラリ
startup	clpstartup.exe	スタートアップ
stat	clpstat.exe	ステータス表示コマンド
stdn	clpstdn.exe	クラスタシャットダウンコマンド

次のページに続く

表 2.20 – 前のページからの続き

タイプ	モジュール	説明
toratio	clptoratio.exe	タイムアウト倍率変更コマンド
trap	clptrap.exe	SNMP トラップ送信コマンド
trncl	clptrncl.dll	トランザクションライブラリ
trnreq	clptrnreq.exe	クラスタ間処理要求コマンド
rexec	clprexec.exe	外部監視連動処理要求コマンド
trnsv	clptrnsv.exe	トランザクションサーバ
userw	clpuserw.dll	ユーザ空間監視リソース
webalert	clpaltd.exe	アラート同期
webmgr	clpwebmc.exe	WebManager サービス
xml	xlpxml.dll	XML ライブラリ
vm	clpvm.dll	仮想マシンリソース
vmw	clpvmw.dll	仮想マシン監視リソース
vmctrl	clpvmctrl.dll	VMCTRL ライブラリ

監視オプション製品で **[-t]** オプションに指定可能なタイプ

タイプ	モジュール	説明
db2w	clp_db2w.dll	DB2 監視 (Database Agent)
ftpw	clp_ftpw.dll	FTP 監視 (Internet Server Agent)
httpw	clp_httpw.dll	HTTP 監視 (Internet Server Agent)
imap4w	clp_imap4w.dll	IMAP4 監視 (Internet Server Agent)
jra	clpjrasvc.exe	JVM 監視 (Java Resource Agent)
jraw	clpjraw.dll	JVM 監視 (Java Resource Agent)
odbcw	clp_odbcw.dll	ODBC 監視 (Database Agent)
oraclew	clp_oraclew.dll	Oracle 監視 (Database Agent)
otxw	clp_otxw.dll	WebOTX 監視 (Application Server Agent)
pop3w	clp_pop3w.dll	POP3 監視 (Internet Server Agent)
psqlw	clp_psqlw.dll	PostgreSQL 監視 (Database Agent)
smtpw	clp_smtpw.dll	SMTP 監視 (Internet Server Agent)
sqlserverw	clp_sqlserverw.dll	SQL Server 監視 (Database Agent)
sra	clpsraserviceproc.exe	システム監視/プロセスリソース監視 (System Resource Agent)
sraw	clpsraw.dll	システム監視 (System Resource Agent)
psrw	clppsraw.dll	プロセスリソース監視 (System Resource Agent)
tuxw	clp_tuxw.dll	Tuxedo 監視 (Application Server Agent)
wasw	clp_wasw.dll	WebSphere 監視 (Application Server Agent)
wls	clp_wls.dll	WebLogic 監視 (Application Server Agent)

2.11 ライセンスを管理する (clplcncs コマンド)

ライセンスの管理を行います。

コマンドライン

```
clplcncs -i [licensefile...]  
clplcncs -l [-a]  
clplcncs -d serialno [-q]  
clplcncs -d -t [-q]  
clplcncs -d -a [-q]  
clplcncs --reregister licensefile...
```

説明

本製品の製品版・試用版ライセンスの登録、参照、削除を行います。

パラメータ

-i [licensefile...]

ライセンスファイルを指定すると、そのファイルよりライセンス情報を取得し、登録します。ライセンスファイルは複数指定することができます。ワイルドカードの指定も可能です。指定しなければ、対話形式によりライセンス情報を入力し登録します。

-l [-a]

登録されているライセンスを参照します。表示する項目を以下に示します。

項目名	説明
Serial No	シリアルナンバー (製品版のみ)
User name	ユーザ名 (試用版のみ)
Key	ライセンスキー
Licensed Number of CPU	ライセンス許諾数 (CPU 単位)
Licensed Number of Computers	ライセンス許諾数 (ノード単位)
Start date	有効期間開始日 ^{*1*2}
End date	有効期間終了日 ^{*1*2}

- Status

ライセンスの状態

^{*1} 期限付きライセンスの場合に表示します。

^{*2} 試用版ライセンスの場合に表示します。

状態	説明
valid	有効
invalid	無効
unknown	不明
inactive	有効期間開始前*1*2
expired	有効期間終了後*1*2

-a オプションを指定しない場合は、ライセンスの状態が invalid, unknown, expired であるライセンスは表示しません。

-a オプションを指定した場合は、ライセンスの状態に関わらず、全てのライセンスを表示します。

-d <param>

- <param>

- serialno

指定したシリアルナンバーのライセンスを削除します。

- -t

登録されている全ての試用版ライセンスを削除します。

- -a

登録されている全てのライセンスを削除します。

-q

ライセンスを削除する時の確認メッセージを表示せずに削除します。-d オプションと一緒に指定してください。

--reregister licensefile...

期限付きライセンスを再登録します。通常、このオプションでコマンドを実行する必要はありません。

戻り値

0	正常終了
1	キャンセル
3	初期化エラー
5	オプション不正
8	その他内部エラー

実行例

- 登録

- 対話形式

```
# clplcns -i
```

製品版、製品版 (期限付き)

製品区分選択

```
Selection of License Version
  1. Product Version
  2. Trial Version
  e. Exit
Select License Version. [1, 2, or e (default:1)] ...
```

シリアルナンバー入力

```
Enter serial number [ Ex. XXXXXXXX000000 ] ...
```

ライセンスキー入力

```
Enter license key
[ Ex. XXXXXXXX-XXXXXXX-XXXXXXX-XXXXXXX ] ...
```

試用版

製品区分選択

```
Selection of License Version
  1. Product Version
  2. Trial Version
  e. Exit
Select License Version. [1, 2, or e (default:1)] ...
```

ユーザ名入力

```
Enter user name [ 1 to 63byte ] ...
```

ライセンスキー入力

```
Enter license key
[ Ex. XXXXXXXX-XXXXXXX-XXXXXXX-XXXXXXX ] ...
```

- ライセンスファイル指定


```
# clplcns -i /tmp/cpulcns.key
```

- 参照

```
# clplcns -l
```

製品版

```
< CLUSTERPRO X SingleServerSafe <PRODUCT> >

Seq... 1
Serial No..... AAAAAAAAA000001
Key..... A1234567-B1234567-C1234567-D1234567
Licensed Number of CPU... 2
Status... valid

Seq... 2
Serial No..... AAAAAAAAA000002
Key..... E1234567-F1234567-G1234567-H1234567
Licensed Number of Computers... 1
Status... valid
```

製品版 (期限付き)

```
< CLUSTERPRO X SingleServerSafe <PRODUCT> >

Seq... 1
Serial No..... AAAAAAAAA000001
Key..... A1234567-B1234567-C1234567-D1234567
Start date..... 2018/01/01
End date..... 2018/01/31
Status..... valid

Seq... 2
Serial No..... AAAAAAAAA000002
Key..... E1234567-F1234567-G1234567-H1234567
Status..... inactive
```

試用版

```
< CLUSTERPRO X SingleServerSafe <TRIAL> >

Seq... 1
Key..... A1234567-B1234567-C1234567-D1234567
User name... NEC
Start date..... 2018/01/01
End date..... 2018/02/28
Status..... valid
```

- 削除

```
# clplcns -d AAAAAAAAA000001 -q
```

- 削除

```
# clplcns -d -t -q
```

- 削除

```
# clplcns -d -a
```

削除確認

```
Are you sure to remove the license? [y/n] ...
```

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

-d オプション利用時に -a オプションを併用した場合、全ての試用版ライセンスおよび製品版ライセンスが削除されます。試用版ライセンスのみ削除する場合は -t オプションを併用してください。製品版ライセンスも含めて削除してしまった場合は製品版ライセンスの再登録をしてください。

ライセンス参照時は、あるライセンスに複数のライセンスが含まれている場合、それぞれ個別に表示されます。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Processed license num (success: %d, error: %d).	処理したライセンス数（成功: %d, 失敗: %d） 失敗が 0 でない場合は、何らかの理由でライセンス処理が失敗しています。 ライセンス情報が正しいか確認してください。
Command succeeded.	コマンドは成功しました。
Command failed.	コマンドは失敗しました。
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid cluster configuration data. Check the cluster configuration information.	クラスタ構成情報が不正です。Cluster WebUI でクラスタ構成情報を確認してください。

次のページに続く

表 2.24 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Initialization error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The command is already run.	コマンドは、既に実行されています。
The license is not registered.	ライセンスが未登録状態です。
Could not opened the license file. Check if the license file exists on the specified path.	ライセンスファイルへの I/O ができません。ライセンスファイルが指定されたパスに存在するか確認してください。
Could not read the license file. Check if the license file exists on the specified path.	ライセンスファイルへの I/O ができません。ライセンスファイルが指定されたパスに存在するか確認してください。
The field format of the license file is invalid. The license file may be corrupted. Check the destination from where the file is sent.	ライセンスファイルのフィールド形式が不正です。ライセンスファイルが壊れている可能性があります。ファイルの送付元に確認してください。
The cluster configuration data may be invalid or not registered.	クラスタ構成情報が不正または、未登録状態が考えられます。確認してください。
Failed to terminate the library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to register the license. Check if the entered license information is correct.	入力したライセンス情報が正しいか確認してください。
Failed to open the license. Check if the entered license information is correct.	入力したライセンス情報が正しいか確認してください。
Failed to remove the license.	ライセンスの削除に失敗しました。パラメータ誤り、メモリ不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
This license is already registered.	このライセンスはすでに登録されています。 登録されているライセンスを確認してください。
This license is already activated.	このライセンスはすでに使用されています。 登録されているライセンスを確認してください。
This license is unavailable for this product.	このライセンスはこの製品では使用できません。 ライセンスを確認してください。

次のページに続く

表 2.24 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
The maximum number of licenses was reached.	登録可能なライセンスの最大数に達しました。 期限切れのライセンスを削除してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.12 メッセージを出力する (clplogcmd コマンド)

指定したメッセージを アラートログに登録するコマンドです。

コマンドライン

```
clplogcmd -m message [--alert] [--mail] [-i ID] [-l level]
```

注釈: 通常の構築や運用ではこのコマンドの実行は不要です。スクリプトリソースのスクリプトに記述して使用するコマンドです。

説明

スクリプトリソースのスクリプトに記述し、任意のメッセージを出力先に出力します。

メッセージは以下の形式で出力されます。

```
[ID] message
```

パラメータ

-m message

出力するメッセージを 指定します。省略できません。メッセージ の最大サイズは 498 バイトです。

メッセージには英語、数字、記号^{*3} が使用可能です。

--alert

--mail

^{*3} メッセージに記号を含む場合の注意点は以下のとおりです。

- "" で囲む必要がある記号

```
& | < >
```

(例 "&" をメッセージに指定すると、& が出力されます。)

- \ を前につける必要がある記号

```
\
```

(例 \ をメッセージに指定すると、\ が出力されます。)

- メッセージにスペースを含む場合、"" で囲む必要があります。

alert、mail の中から出力先を指定します (複数指定可能です)。

このパラメータは省略可能です。省略時には alert が出力先になります。

出力先についての詳細は『CLUSTERPRO X メンテナンスガイド』の「保守情報」の「CLUSTERPRO のディレクトリ構成」を参照してください。

-i ID

メッセージ ID を指定します。

このパラメータは省略可能です。省略時には ID に 1 が設定されます。

-l level

出力するアラートのレベルです。

ERR、WARN、INFO のいずれかを指定します。このレベルによって Cluster WebUI でのアラートログのアイコンを指定します。

このパラメータは省略可能です。省略時には level に INFO が設定されます。

詳細はオンラインマニュアルを参照してください。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

-i オプションの仕様は Linux 版とは異なります。Windows 版ではアラートに出力されるイベント ID は固定で、変更することはできません。

実行例

例 1: メッセージ、メッセージ ID、レベルを指定する場合

スクリプトリソースのスクリプトに下記を記述した場合、アラートログにメッセージを出力します。

```
clplogcmd -m test1 -i 100 -l ERR
```

例 2: メッセージ、出力先、イベント ID、レベルを指定する場合 (出力先 mail)

スクリプトリソースのスクリプトに下記を記述した場合、Cluster WebUI のクラスタプロパティで設定したメールアドレスにメッセージが送信されます。メールアドレスの設定についての詳細は『CLUSTERPRO X リファレンスガイド』の「パラメータの詳細」 - 「クラスタプロパティ」 - 「アラートサービスタブ」を参照してください。

```
clplogcmd -m test2 --mail -i 100 -l ERR
```

mail の送信先には、下記の内容のメールが送信されます。

```
Message:test2  
Type: logcmd  
ID: 100  
Host: server1  
Date: 2019/04/10 10:00:00
```

2.13 モニタリソースを制御する (clpmonctrl コマンド)

モニタリソースの制御を行います。

コマンドライン

```
clpmonctrl -s [-m resource name] [-w wait time]  
clpmonctrl -r [-m resource name] [-w wait time]  
clpmonctrl -c [-m resource name]  
clpmonctrl -v [-m resource name]  
clpmonctrl -e -m resource_name  
clpmonctrl -n [-m resource_name]
```

説明

モニタリソースの一時停止/再開を行います。

パラメータ

-s, --suspend

監視を一時停止します。

-r, --resume

監視を再開します。

-c, --clear

回復動作の回数カウンタをリセットします。

-v, --view

回復動作の回数カウンタを表示します。

-e, --error

障害検証機能を有効にします。必ず -m オプションで監視リソース名を指定してください。

-n, --normal

障害検証機能を無効にします。-m オプションで監視リソース名を指定した場合は、そのリソースのみが対象となります。-m オプションを省略した場合は、全監視リソースが対象となります。

-m, --monitor

制御するモニタリソースを指定します。

省略可能で、省略時は全てのモニタリソースに対して制御を行います。

-w, --wait

モニタリソース単位で監視制御を待合わせます。(秒)

省略可能で、省略時は 5 秒が設定されます。

戻り値

0	正常終了
1	実行権限不正
2	オプション不正
3	初期化エラー
4	構成情報不正
5	モニタリソース未登録
6	指定モニタリソース不正
10	CLUSTERPRO 未起動状態
11	CLUSTERPRO サービスサスペンド状態
90	監視制御待ちタイムアウト
128	二重起動
255	その他内部エラー

備考

既に一時停止状態にあるモニタリソースに一時停止を行った場合や既に起動済状態にあるモニタリソースに再開を行った場合は、本コマンドはエラー終了し、モニタリソース状態は変更しません。

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

モニタリソースの状態は、状態表示コマンドまたは Cluster WebUI で確認してください。

clpstat コマンドまたは、Cluster WebUI でモニタリソースの状態が 起動済 または、一時停止 であることを確認後、実行してください。

監視タイミングが「活性時」のモニタリソースで対象リソースが活性状態の時に一時停止し、その後対象リソースの活性または、対象リソースの所属するグループの活性を行った場合、一時停止中のモニタリソースは監視を開始しないため異常を検出することはできません。

例えば、以下の場合が該当します。

1. アプリケーションリソースを監視しているアプリケーション監視を 一時停止する。

2. アプリケーションリソースまたは、アプリケーションリソースが所属するグループを再活性する。

上記は、手動による再活性を意味していますが監視異常時の回復動作による再活性も同様の動作となります。

モニタリソースの回復動作が下記のように設定されている場合、-v オプションで表示される "FinalAction Count" には「最終動作前スクリプト」の実行回数が表示されます。

- 最終動作前にスクリプトを実行する：有効
- 最終動作： "何もしない"

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Command succeeded.	コマンドは成功しました。
You are not authorized to run the command. Log in as Administrator.	コマンドの実行権がありません。Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Initialization error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Invalid cluster configuration data. Check the cluster configuration information.	クラスタ構成情報が不正です。Cluster WebUI でクラスタ構成情報を確認してください。
Monitor resource is not registered.	モニタリソースが登録されていません。
Specified monitor resource is not registered. Check the cluster configuration information.	指定されたモニタリソースは、登録されていません。 Cluster WebUI でクラスタ構成情報を確認してください。
The cluster has been stopped. Check the active status of the cluster service by using the command such as ps command.	クラスタは、停止状態です。管理ツールの [サービス] で CLUSTERPRO Server サービスの起動状態を確認してください。
The cluster has been suspended. The cluster service has been suspended. Check activation status of the cluster service by using a command such as the ps command.	CLUSTERPRO サービスは、サスペンド状態です。管理ツールの [サービス] で CLUSTERPRO Server サービスの起動状態を確認してください。

次のページに続く

表 2.25 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処
Waiting for synchronization of the cluster... The cluster is waiting for synchronization. Wait for a while and try again.	クラスタは、同期待ち状態です。 クラスタ同期待ち完了後、再度実行してください。
Monitor %1 was unregistered, ignored. The specified monitor resources %1 is not registered, but continues processing. Check the cluster configuration data.	指定されたモニタリソース中に登録されていないモニタリソースがありますが、無視して処理を続けます。 Cluster WebUI でクラスタ構成情報を確認してください。 %1 : モニタリソース名
The command is already executed. Check the execution state by using the "ps" command or some other command.	コマンドは、既に実行されています。 タスクマネージャなどで実行状態を確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

-m オプションに指定可能なモニタリソースタイプ

タイプ	監視の一時停止/再開	回復動作の 回数カウンタ/リセット	障害検証機能の 有効化/無効化
appliw	✓	✓	✓
diskw	✓	✓	✓
ipw	✓	✓	✓
miiw	✓	✓	✓
mtw	✓	✓	✓
servicew	✓	✓	✓
genw	✓	✓	✓
vmw	✓	✓	n/a
mrw	✓	✓	n/a

次のページに続く

表 2.26 – 前のページからの続き

タイプ	監視の一時停止/再開	回復動作の 回数カウンタ/リセット	障害検証機能の 有効化/無効化
db2w	✓	✓	✓
ftpw	✓	✓	✓
httpw	✓	✓	✓
imap4w	✓	✓	✓
odbcw	✓	✓	✓
oraclew	✓	✓	✓
pop3w	✓	✓	✓
psqlw	✓	✓	✓
smtpw	✓	✓	✓
sqlserverw	✓	✓	✓
tuxw	✓	✓	✓
wasw	✓	✓	✓
wlsw	✓	✓	✓
otxw	✓	✓	✓
jraw	✓	✓	✓
sraw	✓	✓	✓
psrw	✓	✓	✓
userw	✓	✓	✓
psw	✓	✓	✓

2.14 グループリソースを制御する (clprsc コマンド)

グループリソースの制御を行います。

コマンドライン

```
clprsc -s resource_name [-f] [--apito timeout]
```

```
clprsc -t resource_name [-f] [--apito timeout]
```

説明

グループリソースを起動 / 停止します。

パラメータ

-s

グループリソースを起動します。

-t

グループリソースを停止します。

-f

グループリソース起動時は、指定したグループリソースが依存する全グループリソースを起動します。
グループリソース停止時は、指定したグループリソースに依存している全グループリソースを停止します。

--apito

グループリソースの起動、停止を待ち合わせる時間（内部通信タイムアウト）を秒単位で指定します。
1-9999 の値が指定できます。

[--apito] オプション指定しない場合は、クラスタプロパティの内部通信タイムアウトに設定された値に従い、待ち合わせを行います。

戻り値

0	正常終了
0 以外	異常終了

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

グループリソースの状態は、状態表示コマンドまたは Cluster WebUI で確認してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as Administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid cluster configuration data. Check the cluster configuration information.	クラスタ構成情報が不正です。Cluster WebUI でクラスタ構成情報を確認してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not connect server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server status. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停止しているサーバがないか確認してください。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。
The group resource is busy. Try again later.	グループリソースが起動処理中、もしくは停止処理中のため、しばらく待ってから実行してください。
An error occurred on group resource. Check the status of group resource.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Could not start the group resource. Try it again after the other server is started, or after the Wait Synchronization time is timed out.	他サーバが起動するのを待つか、起動待ち時間がタイムアウトするのを待って、グループリソースを起動させてください。
No operable group resource exists in the server.	処理を要求したサーバに処理可能なグループリソースが存在するか確認してください。

次のページに続く

表 2.27 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処
The group resource has already been started on the local server.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
The group resource has already been started on the other server. To start the group resource on the local server, stop the group resource.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。 グループリソースをローカルサーバで起動するには、グループを停止してください。
The group resource has already been stopped.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Failed to start group resource. Check the status of group resource.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Failed to stop resource. Check the status of group resource.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Depending resource is not offline. Check the status of resource.	依存しているグループリソースの状態が停止済でないため、グループリソースを停止できません。依存しているグループリソースを停止するか、[-f] オプションを指定してください。
Depending resource is not online. Check the status of resource.	依存しているグループリソースの状態が起動済でないため、グループリソースを起動できません。依存しているグループリソースを起動するか、[-f] オプションを指定してください。
Invalid group resource name. Specify a valid group resource name in the cluster.	グループリソースが登録されていません。
Server is isolated.	サーバが保留 (ダウン後再起動) 状態です。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Server is not in a condition to start resource. Critical monitor error is detected.	サーバの状態を確認してください。

2.15 CPU クロックを制御する (clpcpufreq コマンド)

CPU クロックの制御を行います。

コマンドライン

```
clpcpufreq --high
clpcpufreq --low
clpcpufreq -i
clpcpufreq -s
```

説明

CPU クロック制御による省電力モードの有効化/無効化を制御します。

パラメータ

--high

CPU クロック数を最大にします。

--low

CPU クロック数を下げて省電力モードにします。

-i

CPU クロックの制御を CLUSTERPRO X SingleServerSafe に戻します。

-s

現在の設定状態を表示します。

- high クロック数を最大にしています。
- low クロック数を下げて省電力モードにしています。

戻り値

0	正常終了
0 以外	異常終了

備考

「クラスタのプロパティ」の「拡張タブ」の設定で、「CPU クロック制御機能を使用する」にチェックを入れていない場合、本コマンドを実行するとエラーとなります。

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

CPU クロック制御機能を使用する場合、BIOS の設定でクロックの変更が可能になっていることと、CPU が Windows OS の電源管理機能によるクロック制御をサポートしていることが必要となります。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as Administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
This command is already run.	本コマンドはすでに起動されています。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Invalid mode. Check if --high or --low or -i or -s option is specified.	[--high], [--low], [-I], [-s] いずれかのオプションが指定されているか確認してください。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change CPU frequency settings.	BIOS の設定、OS の設定を確認してください。 クラスタが起動しているか確認してください。 CPU クロック制御機能を使用する設定になっているか確認してください。
Failed to acquire CPU frequency settings.	BIOS の設定、OS の設定を確認してください。 クラスタが起動しているか確認してください。 CPU クロック制御機能を使用する設定になっているか確認してください。
Failed to create the mutex.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.16 クラスタ間連携を行う (clptrnreq コマンド)

サーバへ処理実行を要求します。

コマンドライン

```
clptrnreq -t request_code -h IP [-r resource_name] [-s script_file] [-w timeout]
```

説明

指定した処理実行要求を他クラスタのサーバに発行します。

パラメータ

-t request_code

実行する処理のリクエストコードを指定します。以下のリクエストコードを指定することができます。

GRP_FAILOVER グループフェイルオーバー

EXEC_SCRIPT スクリプトの実行

-h IP

処理実行要求を発行するサーバを IP アドレスで指定します。カンマ区切りで複数指定することが可能です。指定可能な IP アドレスの最大数は 32 です。

リクエストコードにグループフェイルオーバーを指定する場合、クラスタ内の全てのサーバの IP アドレスを指定してください。

-r resource_name

リクエストコードに GRP_FAILOVER を指定した場合に、処理要求の対象となるグループに属するリソース名を指定します。

GRP_FAILOVER を指定した場合、[-r] は省略 できません。

-s script_file

リクエストコードに EXEC_SCRIPT を指定した場合に、実行するスクリプト (バッチファイルや実行可能ファイル等) のファイル名 (30 文字以内) を指定します。スクリプトは [-h] で指定した各サーバの CLUSTERPRO インストールフォルダ配下の worktrnreq フォルダに作成しておく必要があります。

EXEC_SCRIPT を指定した場合、[-s] は省略 できません。

-w timeout

コマンドのタイムアウト値を秒単位で指定します。指定可能な最小値は 5 秒です。

[-w] オプションを指定しない場合、30 秒待ち合わせます。

戻り値

0	正常終了
0 以外	異常終了

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

本コマンドを実行するサーバおよび [-h] で指定する IP アドレスのサーバには、内部バージョン 10.02 以降の Windows 版 CLUSTERPRO または内部バージョン 2.0.2-1 以降の Linux 版 CLUSTERPRO がセットアップされている必要があります。

実行例

例 1: 他クラスタの appli1 リソースを持つグループを フェイルオーバー させる場合

```
# clptrnreq -t GRP_FAILOVER -h 10.0.0.1,10.0.0.2 -r appli1
GRP_FAILOVER 10.0.0.1: Success
GRP_FAILOVER 10.0.0.2: Success
```

例 2: IP アドレス 10.0.0.1 のサーバにスクリプト script1.bat を 実行させる場合

```
# clptrnreq -t EXEC_SCRIPT -h 10.0.0.1 -s script1.bat
EXEC_SCRIPT 10.0.0.1: Success
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as Administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid option.	コマンドラインオプションが不正です。正しいオプションを指定してください。
All server s are busy. Check if this command is already run.	既に本コマンドを実行している可能性があります。確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 2.29 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処
Command timeout	OS に負荷がかかっているなどの原因が考えられます。確認してください。
Failed to obtain the list of nodes. Specify a valid server name in the cluster.	ノードリストの取得に失敗しました。 有効な IP アドレスを指定してください。
Could not connect to all data transfer server. Check if the server has started up.	指定された全ての IP アドレスに接続できませんでした。IP アドレスと対象サーバの状態を確認してください。
Could not connect to the data transfer server. Check if the server has started up.	指定された IP アドレスに接続できませんでした。 IP アドレスと対象サーバの状態を確認してください。
GRP_FAILOVER IP: Group that specified resource (resource_name) belongs is offline.	指定されたリソースが属するグループが対象サーバで起動されていない為、フェイルオーバー処理は行われませんでした。
EXEC_SCRIPT IP: Specified script(script_file) is not exist.	指定したサーバにスクリプトが存在しません。 確認してください。
EXEC_SCRIPT IP:Specified script (script_file) is not executable.	指定したスクリプトが実行できませんでした。 実行権限があるか確認してください。
request_code IP : This server is not permitted to execute clptnreq.	コマンドを実行したサーバに実行権限がありません。Cluster WebUI の接続制限の IP 一覧に登録されているか確認してください。
request_code IP : REQUEST_TYPE failed in execute.	要求されたタイプの実行処理は失敗しました。 (現在の要求は Failover または Script の何れかが指定されます)

2.17 クラスタサーバに処理を要求する (clprexec コマンド)

CLUSTERPRO がインストールされた他サーバへ処理実行を要求します。

コマンドライン

```
clprexec --script script_file -h IP [-p port_number] [-w timeout] [-o logfile_path]  
clprexec --notice [mrw_name] -h IP [-k category[keyword]] [-p port_number] [-w timeout] [-o logfile_path]  
clprexec --clear [mrw_name] -h IP [-k category[keyword]] [-p port_number] [-w timeout] [-o logfile_path]
```

説明

従来の clptrnreq コマンドに外部監視から CLUSTERPRO サーバへ処理要求を発行する機能 (異常発生通知) などを追加したコマンドです。

パラメータ

--script *script_name*

スクリプト実行要求を行います。

script_name には、実行するスクリプト (シェルスクリプトや実行可能ファイル等) のファイル名を指定します。

スクリプトは -h で指定した各サーバの CLUSTERPRO インストールディレクトリ配下の worktrnreq ディレクトリ配下に作成しておく必要があります。

--notice

CLUSTERPRO サーバへ異常発生通知を行います。

mrw_name には外部連携監視リソース名を指定してください。

モニタリソース名を省略する場合、-k オプションで外部連携監視リソースの監視タイプ、監視対象を指定してください。

--clear

外部連携監視リソースのステータスを "異常" から "正常" へ変更する要求を行います。

mrw_name には外部連携監視リソース名を指定してください。

モニタリソース名を省略する場合、-k オプションで外部連携監視リソースの監視タイプ、監視対象を指定してください。

-h *IP Address*

処理要求発行先の CLUSTERPRO サーバの IP アドレスを指定してください。

カンマ区切りで複数指定可能、指定可能な IP アドレス数は 32 個です。

※ 本オプションを省略する場合、処理要求発行先は自サーバになります。

-k category[.keyword]

[--notice] または [--clear] オプションを指定する場合、[category] に外部連携監視リソースに設定しているカテゴリを指定してください。

外部連携監視リソースのキーワードを指定する場合は、[category] のあとにピリオド区切りで指定してください。

-p port_number

ポート番号を指定します。

port_number に処理要求発行先サーバに設定されているデータ転送ポート番号を指定してください。

本オプションを省略した場合、デフォルト 29002 を使用します。

-o logfile_path

logfile_path には、本コマンドの詳細ログを出力するファイル path を指定します。

ファイルにはコマンド 1 回分のログが保存されます。

※ CLUSTERPRO がインストールされていないサーバで本オプションを指定しない場合、標準出力のみとなります。

-w timeout

コマンドのタイムアウトを指定します。指定しない場合は、デフォルト 180 秒です。

5～999 まで指定可能です。

戻り値

0	正常終了
0 以外	異常終了

注意事項

[clprexec] コマンドを使って異常発生通知を発行する場合、CLUSTERPRO サーバ側で実行させたい異常時動作を設定した外部連携監視リソースを登録/起動しておく必要がある。

-h オプションで指定する IP アドレスを持つサーバは、下記の条件を満たす必要がある。

- CLUSTERPRO X 3.0 以降がインストールされていること

- CLUSTERPRO 起動していること
(--script オプション以外の場合)

- mrw が設定 / 起動されていること
(--notice, --clear オプションの場合)

[クライアント IP アドレスによる接続制限] が有効の場合、[clprexec] コマンドを実行する装置の IP アドレスを追加しておくこと。

[クライアント IP アドレスによる接続制限] は、『設定ガイド』の「その他の設定の詳細」の「クラスタプロパティ」の「WebManager タブ」を参照してください。

実行例

例 1: CLUSTERPRO サーバ 1 (10.0.0.1) に対して、スクリプト (script1.sh) 実行要求を発行する場合

```
# clprexec --script script1.bat -h 10.0.0.1
```

例 2: CLUSTERPRO サーバ 1 (10.0.0.1) に対して異常発生通知を発行する

※ mrw1 設定 監視タイプ: earthquake、監視対象: scale3

- 外部連携監視リソース名を指定する場合

```
# clprexec --notice mrw1 -h 10.0.0.1 -w 30 -p /tmp/clprexec/ lprexec.  
↪log
```

- 外部連携監視リソースに設定されている監視タイプと監視対象を指定する場合

```
# clprexec --notice -h 10.0.0.1 -k earthquake,scale3 -w 30 -p /tmp/  
↪clprexec/clprexec.log
```

例 3: CLUSTERPRO サーバ 1 (10.0.0.1) に対して mrw1 のモニタステータス変更要求を発行する

※ mrwl の設定 監視タイプ : earthquake、監視対象 : scale3

- 外部連携監視リソース名を指定する場合

```
# clprexec --clear mrwl -h 10.0.0.1
```

- 外部連携監視リソースに設定されている監視タイプと監視対象を指定する場合

```
# clprexec --clear -h 10.0.0.1 -k earthquake,scale3
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Success	-
Invalid option.	コマンドの引数を確認してください。
Could not connect to the data transfer servers. Check if the servers have started up.	指定した IP アドレスが正しいかまたは IP アドレスを持つサーバが起動しているか確認してください。
Could not connect to all data transfer server.	指定した IP アドレスが正しいかまたは IP アドレスを持つサーバが起動しているか確認してください。
Command timeout.	指定した IP アドレスを持つサーバで処理が完了しているか確認してください。
All servers are busy.Check if this command is already run.	既に本コマンドが実行されている可能性があります。確認してください。
Group (%s) is offline.	処理を要求したサーバで、グループが起動しているか確認してください。
Group that specified resource(%s) belongs to is offline.	処理を要求したサーバで、指定したリソースを含むグループが起動しているか確認してください。
Specified script(%s) does not exist.	指定したスクリプトが存在しません。
%s %s : Specified resource(%s) is not exist.	指定したリソースもしくは監視リソースが存在しません。
%s %s : Specified resource(Category:%s, Keyword:%s) is not exist.	指定したリソースもしくは監視リソースが存在しません。
Specified group(%s) does not exist.	指定したグループが存在しません。
This server is not permitted to execute clprexec.	Cluster WebUI 接続制限のクライアント IP アドレス一覧にコマンドを実行するサーバの IP アドレスが登録されているか確認してください。

次のページに続く

表 2.30 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処
%s failed in execute.	要求発行先の CLUSTERPRO サーバの状態を 確認 してください。

2.18 再起動回数を制御する (clpregctrl コマンド)

再起動回数制限の制御を行います。

コマンドライン

```
clpregctrl --get
clpregctrl -g
clpregctrl --clear -t type -r registry
clpregctrl -c -t type -r registry
```

説明

サーバ上で再起動回数の表示/初期化を行います。

パラメータ

-g, --get

再起動回数情報を表示します。

-c, --clear

再起動回数を初期化します。

-t type

再起動回数を初期化するタイプを指定します。指定可能なタイプは rc または rm です。

-r registry

レジストリ名を指定します。指定可能なレジストリ名は haltcount です。

戻り値

0	正常終了
1	実行権限不正
2	二重起動
3	オプション不正
4	構成情報不正
10~17	内部エラー
20~22	再起動回数情報取得失敗
90	メモリアロケート失敗

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

実行例

- 再起動回数情報表示

```
# clpregctrl -g
*****
-----
type : rc
registry : haltcount
comment : halt count
kind : int
value : 0
default : 0
-----
type : rm
registry : haltcount
comment : halt count
kind : int
value : 3
default : 0
*****
success.(code:0)

#
```

例 1、2 は、再起動回数を初期化します。

例 1: グループリソース異常による再起動回数を初期化する場合

```
# clpregctrl -c -t rc -r haltcount
success.(code:0)
#
```

例 2: モニタリソース異常による再起動回数を初期化する場合

```
# clpregctrl -c -t rm -r haltcount
success.(code:0)
#
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Command succeeded.	コマンドは成功しました。
Log in as Administrator.	コマンドの実行権がありません。Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
The command is already executed.	コマンドは、既に実行されています。
Invalid option.	オプションが不正です。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.19 リソース使用量を予測する (clpprer コマンド)

入力ファイルに記載されているリソース使用量データの推移より、将来的な値の推移を予測し、予測結果をファイルに出力します。また、予測したデータのしきい値判定結果を確認することもできます。

コマンドライン

```
clpprer -i <inputfile> [-o <outputfile>] [-p <number>] [-t <number>] [-l]
```

説明

与えられたリソース使用量データの傾向から将来値を予測します。

パラメータ

-i <inputfile>

将来の値を求めたいリソースデータを指定します。

-o <outputfile>

予測結果を出力するファイル名を指定します。

-p <number>

予測データ数を指定します。指定がない場合は、30 件の予測データを求めます。

-t <number>

予測データと比較するしきい値を指定します。

-l

[-t] オプションでしきい値の設定を行った場合のみ有効になるオプションです。しきい値を下回った場合を異常と判定します。

戻り値

0	しきい値判定を行わず正常終了した場合
1	異常が発生した場合
2	入力データがしきい値判定の結果、しきい値を超えたと判断した場合
3	予測データがしきい値判定の結果、しきい値を超えたと判断した場合
4	しきい値判定の結果、しきい値を超えていないと判断した場合
5	分析対象データ数が分析推奨データ数 (120) に足りていない場合に、入力データがしきい値判定の結果、しきい値を超えたと判断した場合
6	分析対象データ数が分析推奨データ数 (120) に足りていない場合に、予測データがしきい値判定の結果、しきい値を超えたと判断した場合
7	分析対象データ数が分析推奨データ数 (120) に足りていない場合に、しきい値判定の結果、しきい値を超えていないと判断した場合

注意事項

本コマンドは、システム監視リソース (System Resource Agent) のライセンスを登録している場合のみ利用することができます。(ライセンスが登録されていればクラスタ構成にシステム監視リソースを設定いただく必要はありません。)

オプション `-i` で指定するリソースデータファイルの入力データ数は最大で 500 件となります。リソース使用量の予測にはある程度の入力データ数が必要となります。ただし、入力データ数が多い場合は分析に要する処理時間も長くなるため、入力データ数は 120 件程度を推奨します。また、オプション `-p` に指定可能な出力データ数も最大で 500 件となります。

入力ファイルの時刻データが昇順に並んでいない場合は正しく予測を行うことができません。入力ファイルには昇順に並んでいる時刻データを設定してください。

入力ファイル

入力ファイルのフォーマットについて説明します。入力ファイルは予測結果を取得したいリソース使用量について、下記のフォーマット通り記載したファイルをご用意ください。

入力ファイルは CSV 形式で、1 個のデータを [日時, 数値] の形で記載します。

また、日時のフォーマットは YYYY/MM/DD hh:mm:ss です。

ファイル例

```
2012/06/14 10:00:00,10.0
2012/06/14 10:01:00,10.5
2012/06/14 10:02:00,11.0
```

実行例

将来の値の予測を簡単な例で説明します。

入力データで異常を検出した場合

入力データの最新の値がしきい値を超えていた場合は、異常と判断して戻り値 2 を返却します。入力データ数が推奨値 (=120) 未満の場合は戻り値 5 を返却します。

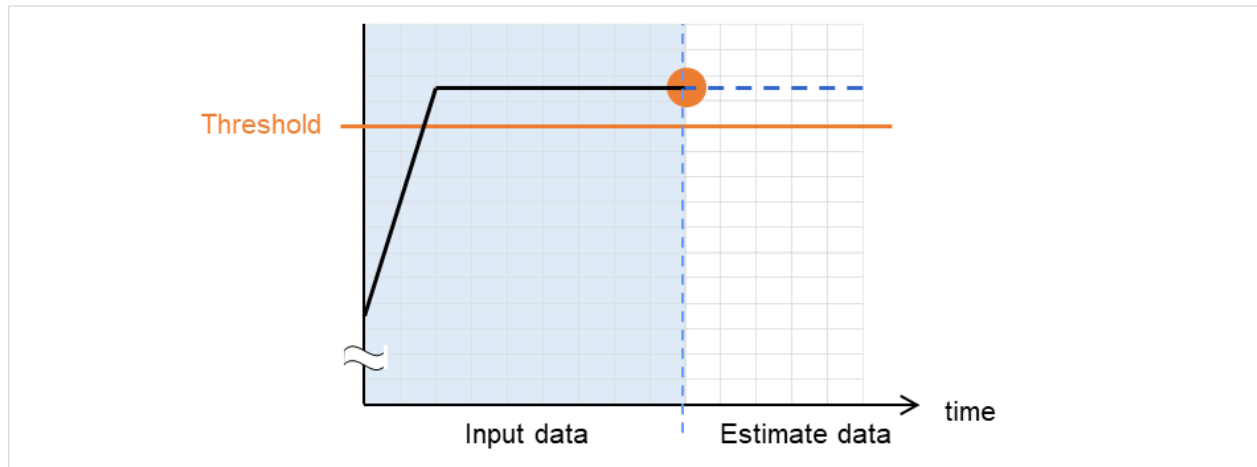


図 2.1 入力データで異常を検出

予測データで異常を検出

予測データがしきい値を超えていた場合は、異常と判断して戻り値 3 を返却します。入力データ数が推奨値 (=120) 未満の場合は戻り値 6 を返却します。

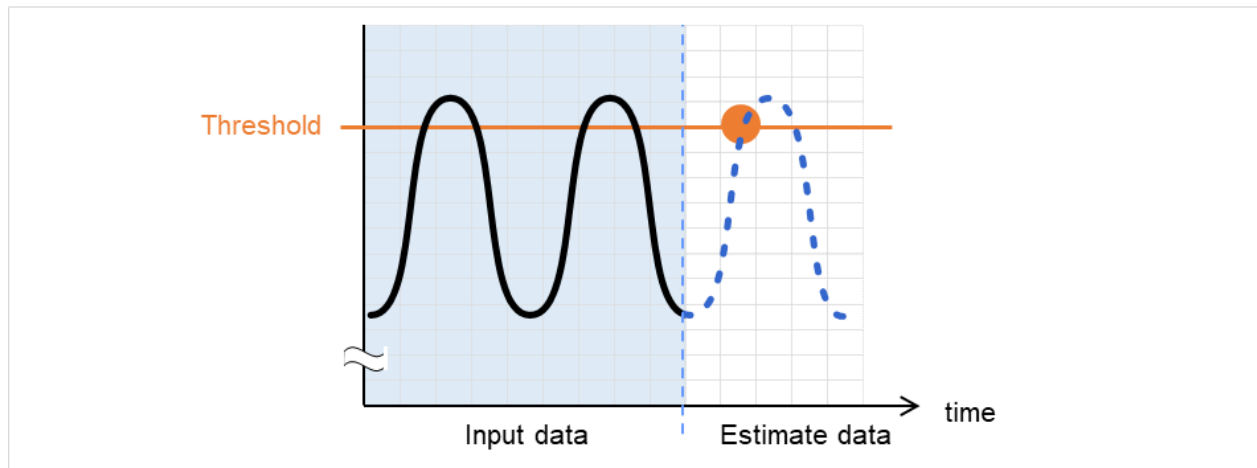


図 2.2 予測データで異常を検出

しきい値異常を検出しない

入力データ、予測データともにしきい値を超えなかった場合は、戻り値 4 を返却します。入力データ数が推奨値 (=120) 未満の場合は戻り値 7 を返却します。

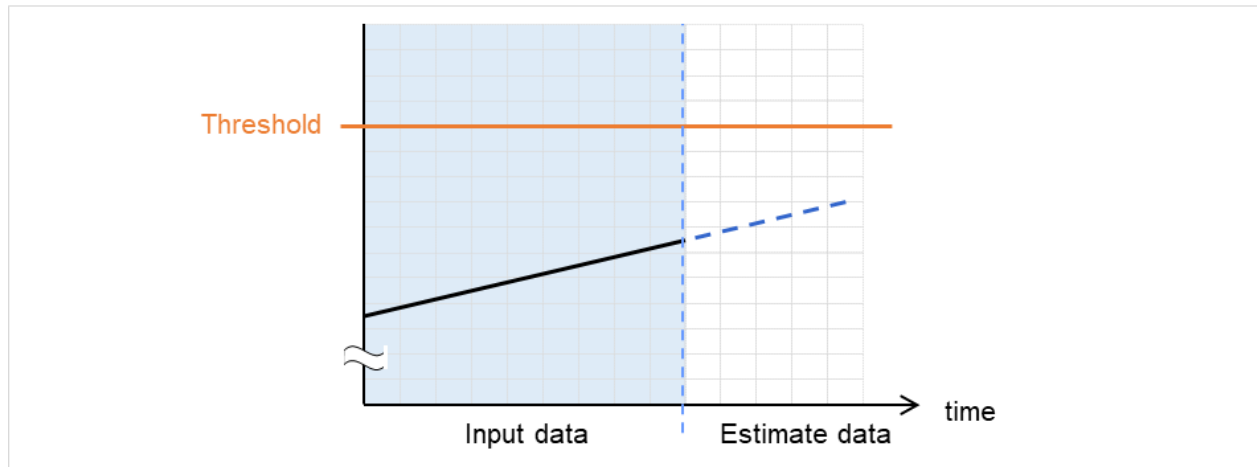


図 2.3 しきい値異常を検出しない

-l オプションを利用した場合

-l オプションを利用した場合は、しきい値を下回った場合を異常と判定します。

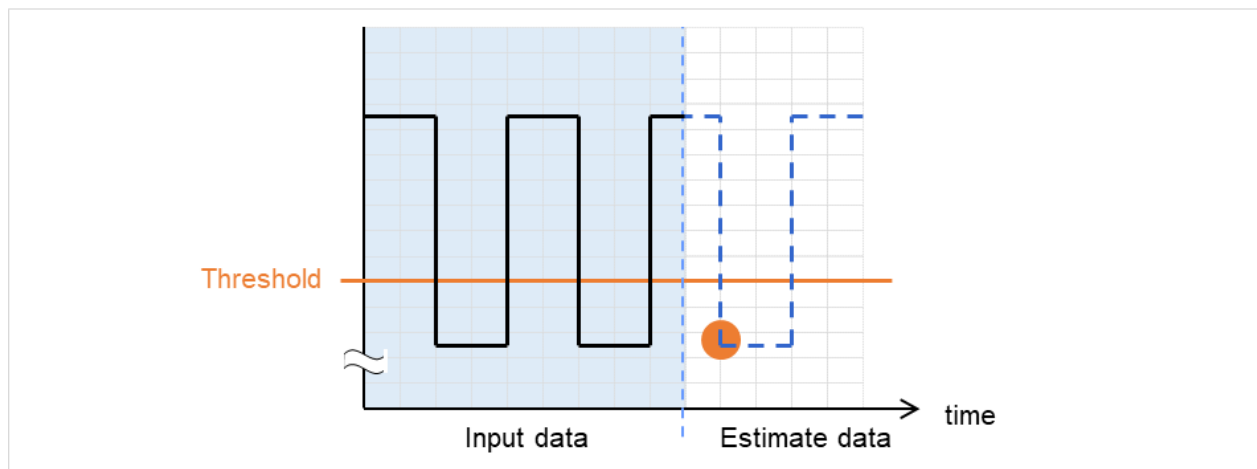


図 2.4 -l オプションを利用

実行例

フォーマットに指定された形式で記載されたファイルを準備し、clpprer コマンドを実行いただくことで予測結果を出力ファイルとして確認いただくことができます。

入力ファイル test.csv

```
2012/06/14 10:00:00,10.0
2012/06/14 10:01:00,10.5
2012/06/14 10:02:00,11.0
```

```
# clpprer -i test.csv -o result.csv
```


出力結果 result.csv

```
2012/06/14 10:03:00,11.5
2012/06/14 10:04:00,12.0
2012/06/14 10:05:00,12.5
2012/06/14 10:06:00,13.0
2012/06/14 10:07:00,13.5
:
```

また、オプションにしきい値を設定することで予測値のしきい値判定結果をコマンドプロンプト上で確認することができます。

```
# clpprer -i test.csv -o result.csv -t 12.5
```

実行結果

```
Detect over threshold. datetime = 2012/06/14 10:06:00, data = 13.00, threshold = 12.5
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Normal state.	しきい値判定の結果、しきい値を超えるデータはありませんでした。
Detect over threshold. datetime = %s, data = %s, threshold = %s	しきい値判定の結果、しきい値を超えるデータを検出しました。
Detect under threshold. datetime = %s, data = %s, threshold = %s	-l オプションによるしきい値判定の結果、しきい値を下回るデータを検出しました。
License is nothing.	有効な System Resource Agent のライセンスが登録されていません。ライセンスを確認してください。
Inputfile is none.	指定した入力データファイルが存在しません。
Inputfile length error.	指定した入力データファイルのパスが長すぎます。1023 バイト以下で指定してください。
Output directory does not exist.	出力ファイルで指定されているディレクトリが存在しません。指定したディレクトリが存在するか確認してください。
Outputfile length error.	指定した出力ファイルのパスが長すぎます。1023 バイト以下で指定してください。
Invalid number of -p.	-p オプションに指定した値が不正です。
Invalid number of -t.	-t オプションに指定した値が不正です。

次のページに続く

表 2.32 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Not analyze under threshold(not set -t).	-t オプションが指定されていません。-l オプションを使用する場合 -t オプションも指定してください。
File open error [%s]. errno = %s	ファイルオープンに失敗しました。メモリ不足や OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Inputfile is invalid. cols = %s	入力データ数が正しくありません。入力データ数は 2 件以上に設定してください。
Inputfile is invalid. rows = %s	入力データのフォーマットが正しくありません。1 行は 2 列にする必要があります。
Invalid date format. [expected YYYY/MM/DD HH:MM:SS]	入力データの日付が不正なフォーマットになっています。データを確認してください。
Invalid date format. Not sorted in ascending order.	入力データの日時が昇順に並んでいません。データを確認してください。
File read error.	入力データに不正な値が設定されています。データを確認してください。
Too large number of data [%s]. Max number of data is %s.	入力データ数が最大値 (500) を超えています。データ数を減らしてください。
Input number of data is smaller than recommendable number.	入力データ数が分析推奨データ数 (120) より少ないです。 ※分析推奨データが少ない場合でも、分析は行われます。
Internal error.	内部エラーが発生しました。

2.20 プロセスの健全性を確認する (clphealthchk コマンド)

プロセスの健全性を確認します。

コマンドライン

```
clphealthchk [ -t pm | -t rc | -t rm | -t nm | -h]
```

注釈: 本コマンドは、単一サーバ上でプロセスの健全性を確認します。健全性を確認したいサーバ上で実行する必要があります。

説明

単一サーバ上でのプロセスの健全性を確認します。

パラメータ

なし

pm/rc/rm/nm の健全性を確認します。

-t <param>

- <param>

- pm

- pm の健全性を確認します。

- rc

- rc の健全性を確認します。

- rm

- rm の健全性を確認します。

- nm

- nm の健全性を確認します。

-h

Usage を出力します。

戻り値

0	正常終了
1	実行権限不正
2	二重起動
3	初期化エラー
4	オプション不正
10	プロセスストール監視機能未設定
11	クラスタ未起動状態（クラスタ起動待ち合わせ中、クラスタ停止処理中を含む）
12	クラスタサスペンド状態
100	健全性情報が一定時間更新されていないプロセスが存在する -t オプション指定時は、指定プロセスの健全性情報が一定時間更新されていない
255	その他内部エラー

実行例

例 1: 健全な場合

```
# clphealthchk
pm OK
rc OK
rm OK
nm OK
```

例 2: clprc がストールしている場合

```
# clphealthchk
pm OK
rc NG
rm OK
nm OK
# clphealthchk -t rc
rc NG
```

例 3: クラスタが停止している場合

```
# clphealthchk
The cluster has been stopped
```

備考

クラスタが停止している場合や、サスペンドしている場合にはプロセスは停止しています。

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as Administrator.	コマンドの実行権がありません。Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Initialization error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
The function of process stall monitor is disabled.	プロセスストール監視機能が有効ではありません。
The cluster has been stopped.	クラスタは停止状態です。
The cluster has been suspended.	クラスタはサスペンド状態です。
This command is already run.	本コマンドはすでに起動されています。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.21 クラスタ外からの操作による OS シャットダウン時の動作を設定する (clpstdncnf コマンド)

クラスタ外からの操作による OS シャットダウン時の動作を設定します。

コマンドライン

```
clpstdncnf -e [time]
```

```
clpstdncnf -d
```

```
clpstdncnf -v
```

説明

クラスタ外からの操作による OS シャットダウン時の動作を設定します。

パラメータ

-e [*time*]

OS シャットダウンが実行された際に、*time* で指定した時間だけ、クラスタサービスの停止を待ち合わせるようになります。

time には、分単位で 1-1440 の値が指定できます。

初回実行時は必ず *time* を指定してください。

2 回目以降は *time* の指定を省略可能です。省略した場合は、現在の設定値を使用します。

-d

OS シャットダウンが実行された際に、クラスタサービスの停止を待ち合わせないようにします。

-v

設定内容を確認します。

戻り値

0	正常終了
0 以外	異常終了

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

クラウド環境などの仮想化環境において、仮想化基盤側からゲスト OS のシャットダウンを実行した場合、ゲスト OS のシャットダウンに時間を要すると、仮想化基盤側から強制的に仮想マシンの電源を停止することがあります。

実行例

例 1: クラスタサービスの停止を最大で 30 分待ち合わせる場合

```
# clpstdncnf -e 30
```

```
Command succeeded.
```

```
# clpstdncnf -v
```

```
Mode : wait
```

```
Timeout : 30 min
```

例 2: クラスタサービスの停止を待ち合わせない場合

```
# clpstdncnf -d
```

```
Command succeeded.
```

```
# clpstdncnf -v
```

```
Mode : no wait
```

```
Timeout : 30 min
```

2.22 クラスタ統計情報を表示する (clpperfc コマンド)

クラスタ統計情報を表示します。

コマンドライン

```
clpperfc --starttime -g group_name
```

```
clpperfc --stoptime -g group_name
```

```
clpperfc -g [group_name]
```

```
clpperfc -m monitor_name
```

説明

グループの起動、停止時間の中央値 (ミリ秒) を表示します。

モニタリソースの監視処理時間 (ミリ秒) を表示します。

オプション

--starttime -g *group_name*

グループの起動時間の中央値を表示します。

--stoptime -g *group_name*

グループの停止時間の中央値を表示します。

-g [*group_name*]

グループの起動、停止時間の中央値を表示します。

groupname を省略した場合は、全グループの起動、停止時間の中央値を表示します。

-m *monitor_name*

直近のモニタリソースの監視処理時間を表示します。

戻り値

0	正常終了
1	コマンドオプション不正
2	ユーザ認証エラー
3	構成情報ロードエラー
4	構成情報ロードエラー
5	初期化エラー
6	内部エラー
7	内部通信初期化エラー
8	内部通信接続エラー
9	内部通信処理エラー
10	対象グループチェックエラー
12	タイムアウトエラー

実行例

グループの起動時間の中央値を表示する場合

```
# clpperfc --starttime -g failover1
200
```

特定グループの起動、停止時間の中央値を表示する場合

```
# clpperfc -g failover1
           start time      stop time
failover1      200          150
```

モニタリソースの監視処理時間を表示する場合

```
# clpperfc -m monitor1
100
```

備考

本コマンドで出力する時間の単位はミリ秒です。

有効なグループの起動時間、停止時間が取得できなかった場合は - が表示されます。

有効なモニタリソースの監視時間が取得できなかった場合は 0 が表示されます。

注意事項

本コマンドは、root 権限を持つユーザで実行してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as Administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

次のページに続く

表 2.34 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処
Invalid option.	コマンドオプションが不正です。コマンドオプションを確認してください。
Command timeout.	コマンドの実行がタイムアウトしました。
Internal error.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.23 クラスタ構成情報をチェックする (clpcfchk コマンド)

クラスタ構成情報をチェックします。

コマンドライン

```
clpcfchk -o path [-i conf_path]
```

説明

クラスタ構成情報を基に設定値の妥当性を確認します。

オプション

-o path

チェック結果を保存するディレクトリを指定します。

-i conf_path

チェックする構成情報を保存したディレクトリを指定します。

省略した場合は、反映済みの構成情報をチェックします。

戻り値

0	正常終了
0 以外	エラー終了

実行例

反映済みの構成情報をチェックする場合

```
# clpcfchk -o /tmp
```

```
server1 : PASS
```

保存した構成情報をチェックする場合

```
# clpcfchk -o /tmp -i /tmp/config
```

```
server1 : PASS
```

実行結果

本コマンドの結果で表示されるチェック結果（総合結果）は以下になります。

チェック結果（総合結果）	説明
PASS	問題がありません。
FAIL	問題があります。 チェック結果を確認してください。

備考

各サーバの総合結果のみを表示します。

注意事項

本コマンドは、root 権限を持つユーザで実行してください。

Cluster WebUI でエクスポートした構成情報をチェックする場合、事前に解凍してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as Administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not opened the configuration file. Check if the configuration file exists on the specified path.	指定されたパスが存在しません。正しいパスを指定してください。
Server is busy. Check if this command is already run.	本コマンドはすでに起動されています。
Failed to obtain properties.	プロパティの取得に失敗しました。
Failed to check validation.	クラスタ構成チェックに失敗しました。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

第 3 章

注意制限事項

本章では、注意事項や既知の問題とその回避策について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 3.1. *CLUSTERPRO X SingleServerSafe* 運用後

3.1 CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用後

運用を開始した後に発生する事象で留意して頂きたい事項です。

3.1.1 回復動作中の操作制限

モニタリソースの異常検出時の設定で回復対象にグループリソース (アプリケーションリソース、サービスリソース、...) を指定し、モニタリソースが異常を検出した場合の回復動作遷移中 (再活性化 → 最終動作) には、Cluster WebUI やコマンドによる以下の操作は行わないでください。

- クラスタの停止 / サスペンド
- グループの起動 / 停止

モニタリソース異常による回復動作遷移中に上記の制御を行うと、そのグループの他のグループリソースが停止しないことがあります。

また、モニタリソース異常状態であっても最終動作実行後であれば上記制御を行うことが可能です。

3.1.2 コマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルについて

インストールディレクトリ配下にコマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルがありますが、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以外からは実行しないでください。

実行した場合の影響については、サポート対象外とします。

3.1.3 Cluster WebUI について

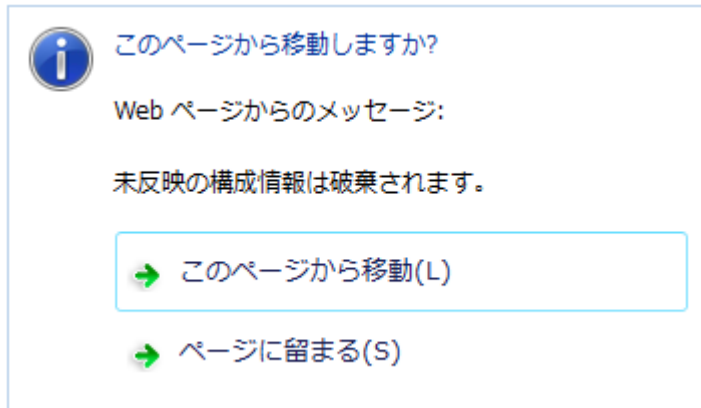
- 接続先と通信できない状態で操作を行うと、制御が戻ってくるまでしばらく時間が必要な場合があります。
- Proxy サーバを経由する場合は、Cluster WebUI のポート番号を中継できるように、Proxy サーバの設定をしてください。
- Reverse Proxy サーバを経由する場合、Cluster WebUI は正常に動作しません。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアップデートを行った場合、起動している全てのブラウザを一旦終了してください。

ブラウザ側のキャッシュをクリアして、ブラウザを起動してください。

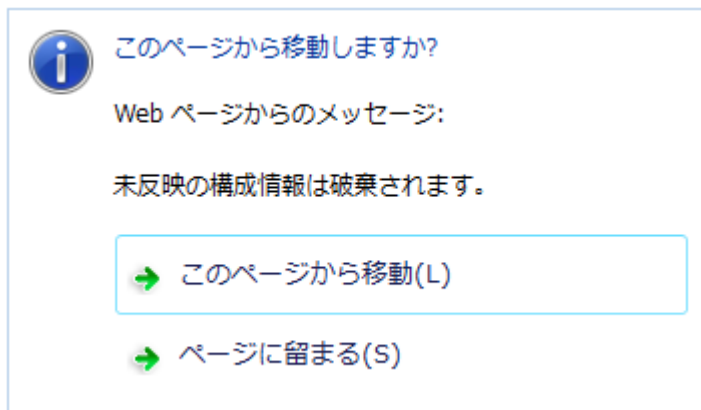
- 本製品より新しいバージョンで作成されたクラスタ構成情報は、本製品で利用することはできません。

- Web ブラウザを終了すると (ウィンドウフレームの [X] 等)、確認ダイアログが表示される場合があります。



設定を続行する場合は [ページに留まる] を選択してください。

- Web ブラウザをリロードすると (メニューの [最新の情報に更新] やツールバーの [現在のページを再読み込み] 等)、確認ダイアログが表示される場合があります。



設定を続行する場合は [ページに留まる] を選択してください。

- 上記以外の Cluster WebUI の注意制限事項についてはオンラインマニュアルを参照してください。

3.1.4 CLUSTERPRO Disk Agent サービスについて

CLUSTERPRO Disk Agent サービスは CLUSTERPRO X SingleServerSafe では使用していません。CLUSTERPRO Disk Agent サービスは起動しないでください。

3.1.5 Windows Server 2012 以降の環境におけるユーザーアカウント制御の影響について

Windows Server 2012 以降では、既定値でユーザーアカウント制御 (User Account Control, 以下 UAC と略します) が有効となっています。UAC が有効となっている場合、下記の機能に影響があります。

モニタリソース

下記のモニタリソースに影響があります。

Oracle 監視リソース

Oracle 監視リソースにおいて「認証方式」を [OS 認証] とした場合、監視ユーザに Administrators グループ以外のユーザが設定されていると、Oracle 監視の処理は失敗します。

「認証方式」に [OS 認証] を設定する場合は、「監視ユーザ」に設定するユーザは Administrators グループに属するようにしてください。

3.1.6 アプリケーションリソース / スクリプトリソースの画面表示について

CLUSTERPRO のアプリケーションリソース・スクリプトリソースから起動したプロセスはセッション 0 で実行されるため、GUI を持つプロセスを起動した場合、「対話型サービス ダイアログの検出」ポップアップが表示され、このポップアップで「メッセージを表示する」を選択しないと GUI が表示されません。

3.1.7 ネットワークインターフェイスカード (NIC) が二重化されている環境について

NIC が二重化されている環境の場合、OS 起動時の NIC の初期化に時間がかかることがあります。初期化が完了する前にクラスタが起動すると、カーネルモード LAN ハートビートリソース (lankhb) の起動に失敗することがあります。この場合、NIC の初期化が完了しても、カーネルモード LAN ハートビートリソースの状態は正常に戻りません。この状態から復旧させるためには、クラスタをサスペンドした後、クラスタをリジュームする必要があります。

また、上記の現象を回避するためにネットワーク初期化完了待ち時間の設定、または ARMDELAY コマンドでクラスタの起動を遅らせることを推奨します。

- ネットワーク初期化完了待ち時間

設定した時間に達していない場合でも、ネットワークの初期化が完了すると、クラスタの起動を開始します。

- ARMDELAY コマンド

設定した時間に達していない場合、ネットワークの初期化が完了しても、クラスタの起動を開始しません。

ネットワーク初期化完了待ち時間、ARMDELAY コマンドの詳細については、『CLUSTERPRO X 互換機能ガイド』を参照してください。

3.1.8 CLUSTERPRO のサービスのログオンアカウントについて

CLUSTERPRO のサービスのログオンアカウントは [ローカル システム アカウント] に設定されています。このログオンアカウントの設定を変更すると、クラスタとして正しく動作しない可能性があります。

3.1.9 CLUSTERPRO の常駐プロセスの監視について

プロセスを監視するようなソフトウェアにより、CLUSTERPRO の常駐プロセスを監視すること自体には問題はありませんが、プロセスの異常終了時などにプロセスの再起動などの回復動作は行わないでください。

3.1.10 JVM 監視リソースについて

- 監視対象の Java VM を再起動する場合は JVM 監視リソースをサスペンドするか、クラスタ停止を行った後に行ってください。
- 設定内容を変更時にクラスタサスペンドおよびクラスタリジュームを行う必要があります。
- モニタリソースの遅延警告には対応していません。

3.1.11 システム監視リソース、プロセスリソース監視リソースについて

- 設定内容を変更時にクラスタサスペンドを行う必要があります。
- モニタリソースの遅延警告には対応していません。
- 動作中に OS の日付/時刻を変更した場合、10 分間隔で行っている解析処理のタイミングが日付 / 時刻変更後の最初の 1 回だけずれてしまいます。以下のようなことが発生するため、必要に応じてクラスタのサスペンド・リジュームを行ってください。
 - 異常として検出する経過時間を過ぎても、異常検出が行われない。
 - 異常として検出する経過時間前に、異常検出が行われる。

- システム監視リソースのディスクリソース監視機能で同時に監視できる最大のディスク数は 26 台です。

3.1.12 [対話型サービスダイアログの検出] ポップアップ表示について

既定値で「Interactive Service Derection」サービスの起動が無効となっているため、以下の手順に従い有効化してください。

参考:

[http://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/ms683502\(v=vs.85\).aspx](http://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/ms683502(v=vs.85).aspx)

→[Using an Interactive Service]

第 4 章

エラーメッセージ一覧

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用中に表示されるエラーメッセージの一覧について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 4.1. セットアップ中のエラーメッセージ
- 4.2. イベントログ、アラートメッセージ
- 4.3. ドライブイベントログメッセージ
- 4.4. グループリソース活性/非活性時の詳細情報
- 4.5. モニタリソース異常時の詳細情報
- 4.6. ディスク RW 監視リソースの *STOP* コード一覧
- 4.7. JVM 監視リソースのログ出力メッセージ
- 4.8. ユーザ空間監視リソースの *STOP* コード一覧

4.1 セットアップ中のエラーメッセージ

モジュールタイプ	エラーメッセージ	対処説明
setup	以前のバージョンの CLUSTERPRO がインストールされています。このバージョンからのアップグレードはサポートされていません。以前のバージョンの CLUSTERPRO をアンインストール後に、再度インストールを行ってください。	以前のバージョンの CLUSTERPRO をアンインストール後に、再度インストールを行ってください。
setup	SNMP サービスが開始されています。SNMP サービスを停止してからアンインストールを行ってください。今すぐに、SNMP サービスを停止しますか？	[はい] を選択することで、CLUSTERPRO Setup が SNMP サービスを自動的に停止してインストールを続けます。または、[いいえ] を選択してインストールを中断した後、手動で SNMP サービスを停止させ、再度インストールを実施してください。
setup	セットアップに失敗しました。 エラーコード：xxx	<ul style="list-style-type: none"> － マニュアルに記載の動作環境・セットアップ手順・注意事項を確認の上、それらの記述に従っているか確認してください。 － 他に起動中のアプリケーションがあれば終了させてください。 － OS を再起動後、再度インストールを実施してください。
setup	セットアップに失敗しました (xxx)。 エラーコード：xxx 再起動後インストールしてください。	<ul style="list-style-type: none"> － マニュアルに記載の動作環境・セットアップ手順・注意事項を確認の上、それらの記述に従っているか確認してください。 － 他に起動中のアプリケーションがあれば終了させてください。 － OS を再起動後、再度インストールを実施してください。
setup	サポートされていない環境です。	動作環境を満たしている環境でインストールを実施してください。

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	エラーメッセージ	対処説明
setup	起動中の CLUSTERPRO のサービスが存在するためアンインストールできません。 CLUSTERPRO のサービスを全て停止してから再度アンインストールを実行してください。	CLUSTERPRO のサービスを全て停止してから再度アンインストールを実行してください。
setup	インストーラの起動に失敗しました。(エラーコード: xxx)	<ul style="list-style-type: none">－ マニュアルに記載の動作環境・セットアップ手順・注意事項を確認の上、それらの記述に従っているか確認してください。－ 他に起動中のアプリケーションがあれば終了させてください。－ インストーラのファイルの破損、不足の可能性がありますので確認してください。
setup	内部エラーが発生しました。(xxx)	<ul style="list-style-type: none">－ マニュアルに記載の動作環境・セットアップ手順・注意事項を確認の上、それらの記述に従っているか確認してください。－ 他に起動中のアプリケーションがあれば終了させてください。

4.2 イベントログ、アラートメッセージ

アプリケーション イベントログや、Cluster WebUI のアラートログ等に出力されるメッセージの一覧です。**Alert**、**Eventlog**、**Userlog** の各列に●印のあるメッセージが、それぞれのログに記録されます。各ログの参照方法は以下の通りです。

ログ名	参照方法	ファイル名
Alert	Cluster WebUI のアラートログに出力されます。「ログ収集ツール」を使用して収集することもできます。	Alertlog.alt
Eventlog	OS のイベントビューア (アプリケーションログ) に出力されます。イベントのソースは "CLUSTERPRO X" です。「ログ収集ツール」を使用して収集することもできますが、右記のファイル名にてバイナリ形式で収集されるため、内容を参照するには CLUSTERPRO がセットアップされた環境でイベントビューアを使ってファイルを開く必要があります。	AppEvent.Evt SysEvent.Evt
Userlog	詳細情報が記録されるテキスト形式のログです。「ログ収集ツール」を使用して収集したログの log フォルダ配下の "userlog.00.log" ファイルに出力されます。	userlog.00.log

Mail Report の列に●印のあるメッセージはアラートサービスのメール通報を設定している 場合に通報されます。

SNMP Trap の列に●印のあるメッセージはアラートサービスの SNMP Trap 送信を設定している 場合に通報されます。

通報設定 は ESM-PRO/AlertManager と連携している場合の通報の設定です。Alive は ESM-PRO/AlertManager が Alive 通報を行います。Manager は ESM-PRO/AlertManager にアラートを出力します。詳細は ESM-PRO/AlertManager のマニュアルを参照してください。

メール通報、SNMP Trap 送信については『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Windows 設定ガイド』 - 「その他の設定の詳細」 - 「クラスタプロパティ」 - 「アラートサービスタブ」を参照してください。

Message Topic の列に●印のあるメッセージは Amazon SNS 連携機能を設定している場合に通報されます。

Amazon SNS 連携機能については『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Windows 設定ガイド』 - 「その他の設定の詳細」 - 「クラスタプロパティ」 - 「クラウドタブ」を参照してください。

×印のあるメッセージは『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Windows 設定ガイド』 - 「その他の設定の詳細」 - 「クラスタプロパティ」 - 「アラートサービスタブ」による通報設定は行えません。

下表で使用する記号は以下を表します。

[1]Alert, [2]Eventlog, [3]Userlog, [4]Mail Report, [5]SNMP Trap, [6]Alive, [7]Manager, [8]Message Topic

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
nm	情報	1	サーバ %1 が起動しました。	サーバ起動	-	●	●						
nm	情報	2	サーバ %1 が停止しました。	サーバ停止	サーバのダウンを検出しました。サーバの障害を取り除いた上で、サーバをクラスタに復帰してください。	●	●		●	●	●	●	●
nm	情報	3	サーバ %1 のリソース %2 が起動しました。	リソース起動	-			●					
nm	エラー	4	サーバ %1 のリソース %2 が異常です。	リソース異常	リソース異常の要因を取り除いてください。			●					
nm	情報	5	サーバ %1 のリソース %2 が正常状態に復帰しました。	リソース復帰	-			●					
nm	エラー	6	サーバ %1 のリソース %2 の状態が不明です。	リソース状態不明	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●					●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
nm	エラー	7	ネットワーク パーティショ ンを検出 しました。デー タ保護のため サーバ %1 を シャットダウ ンします。	ネットワーク パーティショ ン検出	全てのハート ビートが使用 できない状態 です。ネット ワークアダプ タでエラーが 発生していな いか、あるい はネットワー クが正しく接 続されている か確認してく ださい。	●	●	●			●	●	
nm	エラー	8	ネットワーク パーティショ ンの確認時に 問題が発生し ました。デー タ保護のため サーバ %1 を シャットダウ ンします。	ネットワーク パーティショ ン確認不可	イベントログ を参照して リソースでエ ラーが発生し ていないか確 認してくださ い。	●	●	●			●	●	
nm	エラー	9	ネットワーク パーティショ ンの確認時 に問題が発生 しました。複 数のサーバで フェイルオー バする可能性 があるため、 サーバ %1 は フェイルオー バを保留しま した。	フェイルオー バ保留	イベントログ を参照して リソースでエ ラーが発生し ていないか確 認してくださ い。	●	●	●			●	●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
nm	情報	10	サーバ %1 は保留していたフェイルオーバを解除しました。	フェイルオーバ保留解除	-	●	●	●					
nm	エラー	11	サーバ %1 をシャットダウンします。(理由:%2)	サーバシャットダウン	全てのハートビートが使用できない状態です。ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。	●	●				●	●	
nm	エラー	12	クラスタサービスを停止します。(理由:%1)	クラスタサービス停止	理由に示す要因を取り除いてください。	●	●					●	
nm	警告	13	ネットワークパーティション解決リソースの組み合わせが不正です。(サーバ名:%1)	NP リソース組み合わせ不正	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●					●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
nm	エラー	14	ハートビート %1 の状態が異常です。	ハートビート異常	ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。	●	●				●	●	
nm	情報	15	ハートビート %1 の状態が正常状態に復帰しました。	ハートビート復帰	-	●	●						
nm	エラー	16	サーバ %1 のネットワークパーティション %2 が異常です。	ネットワークパーティション異常	イベントログを参照してリソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●				●	●	
nm	情報	17	サーバ %1 のネットワークパーティション %2 が正常状態に復帰しました。	ネットワークパーティション復帰	-	●	●						
nm	エラー	18	リソース %1 の起動に失敗しました。(サーバ名:%2)	リソース起動失敗	イベントログを参照してリソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●				●	●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
nm	情報	19	サーバの起動待ち合わせをキャンセルしました。	サーバの起動待ち合わせキャンセル	-	●	●						
nm	エラー	20	ネットワークパーティションを検出しました。データ保護のためサーバ %1 のクラスタサービスを停止します。	ネットワークパーティション検出	全てのハートビートが使用できない状態です。ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。	●	●	●					
nm	エラー	21	ネットワークパーティションの確認時に問題が発生しました。データ保護のためサーバ %1 のクラスタサービスを停止します。	ネットワークパーティション確認不可	イベントログを参照してリソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
nm	エラー	22	ネットワークパーティションを検出しました。データ保護のためサーバ %2 で %1 を実行します。	ネットワークパーティション検出	全てのハートビートが使用できない状態です。ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。	●	●	●					
nm	エラー	23	ネットワークパーティションの確認時に問題が発生しました。データ保護のためサーバ %2 で %1 を実行します。	ネットワークパーティション確認不可	イベントログを参照してリソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●	●					
nm	エラー	24	サーバ %2 で %1 を実行します。(理由:%3)	ネットワークパーティション解決不可	全てのハートビートが使用できない状態です。ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
nm	警告	25	クラスタ起動時のネットワークパーティション解決処理が無効になっています。	ネットワークパーティション解決無効化	クラスタ起動時のネットワークパーティション解決処理が無効になっています。	●	●	●					
pm	情報	501	クラスタサービスは正常に開始しました。	クラスタサービス開始	-	●	●	●					
pm	情報	502	クラスタサービスは停止しています。	クラスタサービス停止	-	●	●	●					
pm	エラー	510	クラスタサービスは既に開始しています。	クラスタサービス二重起動	クラスタサービスの状態を確認してください。	●	●	●				●	
pm	エラー	511	クラスタサービスで致命的なエラーが発生しました。	クラスタサービス致命的エラー	必要な権限を持つアカウントでサービスが起動されていないか、あるいはシステムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●	●	●		●	●
pm	エラー	512	xml ライブラリの異常を検出しました。	xml ライブラリ異常	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
pm	エラー	513	クラスタ構成情報ファイルで問題を検出しました。	コンフィグファイル異常	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●	●	●	●		●	●
pm	エラー	514	クラスタ構成情報ファイルが存在しません。	コンフィグファイル存在せず	クラスタ構成情報をアップロードしてください。	●	●	●				●	
pm	エラー	515	クラスタ構成情報ファイル内に自サーバ名のエントリが存在しません。	自ホスト名のエントリなし	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●	●				●	
pm	エラー	520	%1 プロセスが異常終了しました。	プロセス異常終了	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。 nm プロセスが異常終了した場合でも業務影響はありませんが、クラスタ停止操作を行うことができません。回復するには、Cluster WebUI や clp-down コマンドにて OS 再起動を実施してください。	●	●	●	●	●		●	●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
pm	エラー	521	クラスタサービスのプロセスがエラーを返して終了しました。(システムを停止しています)	プロセス異常終了 (システム停止)	グループリソースの非活性化失敗が考えられます。グループリソースのメッセージに従って対処を行ってください。	●	●	●					●
pm	エラー	522	%1 プロセスの初期化中にエラーが発生しました。(return code:%2)	初期化エラー	初期化エラーの要因を取り除いてください。	●	●	●	●	●		●	●
pm	情報	523	システムをシャットダウンします。	システムシャットダウン	-	●	●	●					
pm	情報	524	クラスタサービスを停止します。	クラスタサービスタ停止	-	●	●	●					
pm	情報	525	システムを再起動します。	システム再起動	-	●	●	●					
pm	情報	526	%1 プロセスを再起動します。	プロセス再起動	-	●	●	●					
pm	情報	527	緊急シャットダウンします。	緊急シャットダウン	-	●	●	●					
pm	情報	528	STOP エラーを発生させます。	STOP エラー	-	●	●	●					
pm	情報	529	ハードウェアリセットを発生させます。	ハードウェアリセット	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
pm	情報	530	%1 よりシステムのシャットダウンが要求されました。	システムシャットダウン要求	-	●	●	●					
pm	情報	531	%1 よりクラスタサービスの停止が要求されました。	クラスタサービス停止要求	-	●	●	●					
pm	情報	532	%1 よりシステムの再起動が要求されました。	システム再起動要求	-	●	●	●					
pm	情報	533	%1 よりクラスタサービスの再起動が要求されました。	クラスタサービス再起動要求	-	●	●	●					
pm	情報	534	%1 よりクラスタサービスのリジュームが要求されました。	クラスタサービスリジューム要求	-	●	●	●					
pm	情報	535	%1 よりクラスタサービスのサスペンドが要求されました。	クラスタサービスサスペンド要求	-	●	●	●					
pm	情報	536	%1 より緊急シャットダウンが要求されました。	緊急シャットダウン要求	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
pm	情報	537	%1 より STOP エラーが要求されました。	STOP エラー要求	-	●	●	●					
pm	情報	538	%1 よりハードウェアリセットが要求されました。	ハードウェアリセット要求	-	●	●	●					
pm	情報	540	自動運転ソフトウェアにシステムのシャットダウンを要求します。	自動運転ソフトウェアへのシステムシャットダウン要求	-	●	●	●					
pm	情報	541	自動運転ソフトウェアにシステムのシャットダウン (再起動) を要求します。	自動運転ソフトウェアへのシステムシャットダウン (再起動) 要求	-	●	●	●					
pm	情報	542	自動運転ソフトウェアへのシステムのシャットダウン要求を完了しました。	自動運転ソフトウェアへのシステムシャットダウン要求完了	-	●	●	●					
pm	エラー	543	自動運転ソフトウェアはシステムのシャットダウン要求に対しエラーを返しました。	自動運転ソフトウェアによるシステムシャットダウン処理失敗	自動運転ソフトウェアの設定が正しくない可能性があります。確認してください。	●	●	●					●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
pm	エラー	544	自動運転ソフトウェアとの通信に失敗しました。	自動運転ソフトウェアとの通信失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
pmsvc	エラー	801	リジュームに失敗したため、システムをシャットダウンします。	リジューム失敗によるシャットダウン	-	●	●	●					
pmsvc	エラー	802	システムのシャットダウンに失敗しました。	シャットダウン失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					
pmsvc	情報	810	クラスタサービス以外からシステムのシャットダウンが要求されました。クラスタサービスの停止完了を待ち合わせます。(約1分)	クラスタサービス停止待ち合わせ開始	-	●	●	●					
pmsvc	情報	811	クラスタサービスの停止待ち合わせが完了しました。	クラスタサービス停止待ち合わせ完了	-	●	●	●					
pmsvc	エラー	812	クラスタサービスの停止待ち合わせがタイムアウトしました。	クラスタサービス待ち合わせタイムアウト	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
pmsvc	警告	813	クラスタサービスの停止待ち合わせがキャンセルされました。	クラスタサービス停止待ち合わせキャンセル	-	●	●	●					
rc	情報	1010	グループ %1 を起動しています。	グループ起動開始	-	●	●	●					
rc	情報	1011	グループ %1 の起動が完了しました。	グループ起動完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1012	グループ %1 の起動に失敗しました。	グループ起動失敗	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●					●
rc	情報	1015	グループ %1 の起動待ち合わせ処理を開始しました。	グループ起動待ち合わせ処理開始	-	●	●	●					
rc	情報	1016	グループ %1 の起動待ち合わせ処理が完了しました。	グループ起動待ち合わせ処理完了	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1017	グループ %1 の起動待ち合 わせ処理でタ イムアウトが 発生したため グループの起 動を中止しま した。(%2)	グループ起動 待ち合わせ処 理中止	起動待ち合 わせ先グループ の状態を確認 してくだ さい。 グループが起 動されていない場合は、そ のグループを 起動後に再度 グループ操作 を実行してく ださい。	●	●	●					
rc	警告	1018	グループ %1 の起動待ち合 わせ処理でタ イムアウトが 発生しましたが、グループ の起動を継続 します。(%2)	グループ起動 処理継続	-	●	●	●					
rc	警告	1019	サーバ %1 は グループ %2 を起動できる 状態ではあり ません。	グループ起動 不可	対象サーバが 保留 (ダウン 後再起動) の 場 合 は サ ー バ 復 帰 操 作 を 行 っ て く だ さ い。保留 (NP 未解決) の 場 合 は NP リ ソースを正常 な状態にして ください。	●							

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1020	グループ %1 を停止してい ます。	グループ停止 開始	-	●	●	●					
rc	情報	1021	グループ %1 の停止が完了 しました。	グループ停止 完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1022	グループ %1 の停止に失敗 しました。	グループ停止 失敗	グループリ ソースのメッ セージに従っ た対処を行っ てください。	●	●	●				●	
rc	情報	1025	グループ %1 の停止待ち合 わせ処理を開 始しました。	グループ停止 待ち合わせ処 理開始	-	●	●	●					
rc	情報	1026	グループ %1 の停止待ち合 わせ処理が完 了しました。	グループ停止 待ち合わせ処 理完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1027	グループ %1 の停止待ち合 わせ処理でタ イムアウトが 発生したため グループの停 止を中止しま した。(%2)	グループ停止 待ち合わせ処 理中止	停止待ち合 わせ先グループ の状態を確認 してくだ さい。 グループが停 止されていない場合は、そ のグループを 停止後に再度 グループ操作 を実行してく ださい。	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	警告	1028	グループ %1 の停止待ち合 わせ処理でタ イムアウトが 発生しました が、グループ の停止を継続 します。(%2)	グループ停止 待ち合わせ処 理継続	-	●	●	●					
rc	情報	1030	リソース %1 を起動してい ます。	リソース起動 開始	-		●	●					
rc	情報	1031	リソース %1 の起動が完了 しました。	リソース起動 完了	-		●	●					
rc	エラー	1032	リソース %1 の起動に失 敗しました。 (%2 : %3)	リソース起動 失敗	リソース起動 失敗の原因を 取り除いてく ださい。 起動処理でス トールが発生 した場合には 「リソース %1 の起動に失敗 しました。 (99 : command is timeout)」が 出力され ます。	●	●	●	●	●		●	●
rc	エラー	1033	リソース %1 の復帰スクリ プト起動に失 敗しました。 (%2 : %3)	復帰スクリプ ト起動失敗	復帰スクリプ ト起動失敗 の原因を取り 除いてくださ い。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1034	サーバ %2 のリソース %1 の起動要求を開始しました。	待機系サーバへのリソース起動要求	-	●	●	●					
rc	情報	1035	サーバ %2 のリソース %1 の起動要求が完了しました。	待機系サーバへのリソース起動要求完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1036	サーバ %2 のリソース %1 の起動要求が失敗しました。	待機系サーバへのリソース起動要求失敗	ネットワークに異常が発生していないか、または相手サーバに異常が発生していないか確認してください	●	●	●					
rc	情報	1040	リソース %1 を停止しています。	リソース停止開始	-		●	●					
rc	情報	1041	リソース %1 の停止が完了しました。	リソース停止完了	-		●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベン ト分類	イベン ト ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1042	リソース %1 の停止に失 敗しました。 (%2 : %3)	リソース停止 失敗	リソース停止 失敗の原因を 取り除いてく ださい。 停止処理でス トールが発生 した場合には 「リソース %1 の停止に失敗 しました。 (99 : command is timeout)」が 出力され ます。	●	●	●	●	●		●	●
rc	情報	1044	サーバ %2 で の リ ソ ース %1 の停止要 求を開始しま した。	待機系サーバ へのリソース 停止要求	-	●	●	●					
rc	情報	1045	サーバ %2 で の リ ソ ース %1 の停止要 求が完了しま した。	待機系サーバ へのリソース 停止要求完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1046	サーバ %2 で の リ ソ ース %1 の停止要 求が失敗しま した。	待機系サーバ へのリソース 停止要求失敗	ネットワーク に異常が発生 していない か、または相 手サーバに異 常が発生して いないか確認 してください	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1050	グループ %1 を移動しています。	グループ移動開始	-	●	●	●					
rc	情報	1051	グループ %1 の移動が完了しました。	グループ移動完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1052	グループ %1 の移動に失敗しました。	グループ移動失敗	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●				●	
rc	警告	1059	サーバ %1 はグループ %2 を移動できる状態ではありません。	グループ移動不可	対象サーバが保留 (ダウン後再起動) の場合はサーバ復帰操作を行ってください。保留 (NP 未解決) の場合は NP リソースを正常な状態にしてください。	●							
rc	情報	1060	グループ %1 をフェイルオーバーしています。	グループフェイルオーバー開始	-	●	●	●					
rc	情報	1061	グループ %1 のフェイルオーバーが完了しました。	グループフェイルオーバー完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1062	グループ %1 のフェイルオーバーに失敗しました。	グループフェイルオーバー失敗	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1070	グループ %1 を再起動して います。	グループ再起 動開始	-	●	●	●					
rc	情報	1071	グループ %1 の再起動が完 了しました。	グループ再起 動完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1072	グループ %1 の再起動に失 敗しました。	グループ再起 動失敗	グループリ ソースのメッ セージに従っ た対処を行っ てください。	●	●	●				●	
rc	エラー	1077	内部通信がで きないサー バが存在する ため、グルー プのフェイ ルオーバー処 理が失敗しま した。	グループフェ イルオーバー失 敗 (内部通信 不可)	カーネルモー ド LAN ハー トビートの状 態を確認して ください。内 部通信の復旧 後、グループ を起動してく ださい。	●	●	●					
rc	情報	1080	リソース %1 を再起動して います。	リソース再起 動開始	-	●	●	●					
rc	情報	1081	リソース %1 の再起動が完 了しました。	リソース再起 動完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1082	リソース %1 の再起動に失 敗しました。	リソース再起 動失敗	グループリ ソースのメッ セージに従っ た対処を行っ てください。	●	●	●				●	
rc	情報	1090	クラスタをシャ ットダウン しています。	クラスタシャ ットダウン	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1091	サーバをシャットダウンしています。	サーバシャットダウン	-	●	●	●					
rc	エラー	1092	グループ %1 が複数のサーバで起動しました。	グループ二重起動	サーバが自動的にシャットダウンします。グループが複数のサーバで起動した原因を取り除いてください。	●	●	●	●	●		●	●
rc	エラー	1093	クラスタサービス以外からシステムのシャットダウンが実行されました。	クラスタ以外からのシャットダウン発生	クラスタサービス以外からシステムのシャットダウンが実行された場合、異常とみなされます。クラスタ環境では、所定の手順でシャットダウンを実施してください。	●	●	●				●	
rc	警告	1100	シャットダウン回数が最大値 (%1) に達しました。リソース %2 の最終動作は無視されました。	シャットダウン回数最大値到達	-	●	●	●	●	●		●	●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベン ト分類	イベン ト ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	警告	1101	正常に稼動しているサーバが他に存在しないためグループリソース %1 の活性異常の最終動作を抑制しました。	活性異常の最終動作の抑制	-	●	●	●					
rc	警告	1102	正常に稼動しているサーバが他に存在しないためグループリソース %1 の非活性異常の最終動作を抑制しました。	非活性異常の最終動作の抑制	-	●	●	●					
rc	警告	1103	%1 は両系活性検出時にシャットダウンを抑制するサーバに指定されているためシャットダウン要求を無視しました。	両系活性によるシャットダウンの抑制	-	●	●	●					
rc	警告	1104	サーバ間でグループ %1 の状態の不整合が発生しています。	グループ状態の不整合発生	グループの再起動、またはクラスタリブートを実施してください。	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1105	%1 は両系活性検出時にシャットダウンを抑制するサーバに指定されていないためシャットダウン要求を実行しました。	両系活性によるシャットダウン	-	●	●	●					
rc	情報	1110	サーバ %1 はクラスタに復帰しました。	サーバ復帰	-	●	●	●					
rc	情報	1111	サーバ %1 はクラスタから切り離されました。	サーバ切り離し	-	●	●	●					
rc	情報	1112	サーバ %1 はクラスタへの復帰を開始しました。	サーバ復帰開始	-	●	●	●					
rc	エラー	1113	サーバ %1 はクラスタへの復帰に失敗しました。	サーバ復帰失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					●
rc	情報	1120	サーバ %1 は自動運転ソフトウェアにシャットダウン開始を通知します。	シャットダウン開始の通知	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベン ト分類	イベン ト ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1121	サーバ %1 で のシャットダ ウン開始の通 知に対し、自 動運 転 ソ フ トウェアはエ ラーを返しま した。	シャットダウ ン開始の 通知 失敗	自動運転ソフ トウェアの設 定が正しくな い可能性があ ります。自動 運転ソフトウ ェアの設定を 確認してくだ さい。	●	●	●				●	
rc	情報	1122	サーバ %1 は 自動運転ソフ トウェアにシ ャットダウン 開始を通知し ました。	シャットダウ ン開始の 通知 完了	-	●	●	●					
rc	情報	1123	自動運転ソフ トウェアへ共 有ディスクの 電源投入を確 認中です。電 源投入確認後 にサーバを再 起動します。	電源投入確認 待ち	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1124	自動運転ソフトウェアからエラーが戻されました。共有ディスクの電源投入確認ができませんでした。	電源投入確認失敗	自動運転ソフトウェアの設定が正しくない可能性があります。自動運転ソフトウェアの設定を確認してください。または、自動電源制御装置に異常が発生している可能性があります。自動電源制御装置を確認してください。	●	●	●				●	
rc	エラー	1125	サーバ %1 は自動運転ソフトウェアとの通信に失敗しました。	自動運転ソフトウェアとの通信失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
rc	情報	1130	リソース %1 を単体起動しています。	リソース単体起動開始	-	●	●	●					
rc	情報	1131	リソース %1 の単体起動が完了しました。	リソース単体起動完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1132	リソース %1 の単体起動に失敗しました。	リソース単体起動失敗	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	警告	1139	サーバ %1 はリソース %2 を単体起動できる状態ではありません。	リソース単体起動不可	対象サーバが保留 (ダウン後再起動) の場合はサーバ復帰操作を行ってください。保留 (NP 未解決) の場合は NP リソースを正常な状態にしてください。	●							
rc	情報	1140	リソース %1 を単体停止しています。	リソース単体停止開始	-	●	●	●					
rc	情報	1141	リソース %1 の単体停止が完了しました。	リソース単体停止完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1142	リソース %1 の単体停止に失敗しました。	リソース単体停止失敗	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●				●	
rc	情報	1150	グループ %1 をマイグレーションしています。	グループマイグレーション開始	-	●	●	●					
rc	情報	1151	グループ %1 のマイグレーションが完了しました。	グループマイグレーション完了	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1152	グループ %1 のマイグレー ションに失敗 しました。	グループマイ グレーション 失敗	グループリ ソースのメッ セージに従っ た対処を行っ てください。	●	●	●					●
rc	警告	1159	サーバ %1 は グループ %2 をマイグレー ションできる 状態ではあり ません。	グループマイ グレーション 不可	対象サーバが 保留 (ダウン 後再起動) の 場合はサー バ復帰操作を 行ってくださ い。保留 (NP 未解決) の場 合は NP リ ソースを正常 な状態にして ください。	●	●	●					
rc	情報	1170	同一サーバグ ループ %2 内 のサーバ %1 をグループ %3 の起動先 として設定し ました。	サーバグルー プ内 フェイルオー バ	-	●	●	●					
rc	情報	1171	同一サーバグ ループ %2 外 のサーバ %1 をグループ %3 の起動先 として設定し ました。	サーバグルー プ外 フェイルオー バ	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベン ト分類	イベン ト ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	警告	1179	同一サーバグループ %2 内にフェイルオーバー可能なサーバが存在しないため、グループ %1 のフェイルオーバーを行いませんでした。	サーバグループ内 フェイルオーバー不可	サーバグループ内の他のサーバが停止済またはダウン後再起動の状態です。該当のサーバを起動またはクラスタへ復帰させてください。	●	●	●					
rc	情報	1200	リソース %1 の起動失敗によりリソース %2 を再起動します。	リソース起動 失敗によりリ ソース再起動	-	●	●	●					
rc	情報	1201	リソース %3 の起動失敗によりグループ %1 をサーバ %2 にフェイルオーバーします。	リソース起動 失敗によりグ ループフェイ ルオーバー	-	●	●	●					
rc	情報	1202	リソース %2 の起動失敗によりグループ %1 を停止します。	リソース起動 失敗によりグ ループ停止	-	●	●	●					
rc	情報	1203	リソース %1 の起動失敗によりクラスタサービスを停止します。	リソース起動 失敗によりク ラスタサービ ス停止	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1204	リソース %1 の起動失敗によりシステムをシャットダウンします。	リソース起動失敗によりシステムシャットダウン	-	●	●	●					
rc	情報	1205	リソース %1 の起動失敗によりシステムを再起動します。	リソース起動失敗によりシステム再起動	-	●	●	●					
rc	情報	1220	リソース %2 の停止失敗によりリソース %1 の停止をリトライします。	リソース停止失敗によりリソース停止リトライ	-	●	●	●					
rc	情報	1223	リソース %1 の停止失敗によりクラスタサービスを停止します。	リソース停止失敗によりクラスタサービス停止	-	●	●	●					
rc	情報	1224	リソース %1 の停止失敗によりシステムをシャットダウンします。	リソース停止失敗によりシステムシャットダウン	-	●	●	●					
rc	情報	1225	リソース %1 の停止失敗によりシステムを再起動します。	リソース停止失敗によりシステム再起動	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1241	リソース %1 の起動失敗に よりハードウ ェアリセット を発生させま す。	リソース起動 失敗により ハードウェア リセット発生	-	●	●	●					
rc	情報	1242	リソース %1 の起動失敗に より STOP エ ラーを発生さ せます。	リソース起動 失敗により STOP エラー 発生	-	●	●	●					
rc	情報	1281	リソース %1 の停止失敗に よりハードウ ェアリセット を発生させま す。	リソース停止 失敗により ハードウェア リセット発生	-	●	●	●					
rc	情報	1282	リソース %1 の停止失敗に より STOP エ ラーを発生さ せます。	リソース停止 失敗により STOP エラー 発生	-	●	●	●					
rc	情報	1300	リソース %1 の活性異常時 最終動作前ス クリプトを開 始しました。	リソース活性 異常時 最終動 作前スクリプ ト開始	-	●	●	●					
rc	情報	1301	リソース %1 の活性異常時 最終動作前ス クリプトが完 了しました。	リソース活性 異常時 最終動 作前スクリプ ト完了	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1302	リソース %1 の非活性異常時最終動作前スクリプトを開始しました。	リソース非活性異常時最終動作前スクリプト開始	-	●	●	●					
rc	情報	1303	リソース %1 の非活性異常時最終動作前スクリプトを開始しました。	リソース非活性異常時最終動作前スクリプト完了	-	●	●	●					
rc	情報	1304	リソース %1 の活性前スクリプトを開始しました。	リソース活性前スクリプト開始	-	●	●	●					
rc	情報	1305	リソース %1 の活性前スクリプトが完了しました。	リソース活性前スクリプト完了	-	●	●	●					
rc	情報	1306	リソース %1 の活性後スクリプトを開始しました。	リソース活性後スクリプト開始	-	●	●	●					
rc	情報	1307	リソース %1 の活性後スクリプトが完了しました。	リソース活性後スクリプト完了	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1308	リソース %1 の非活性前スクリプトを開始しました。	リソース非活性前 スクリプト 開始	-	●	●	●					
rc	情報	1309	リソース %1 の非活性前スクリプトが完了しました。	リソース非活性前 スクリプト 完了	-	●	●	●					
rc	情報	1310	リソース %1 の非活性後スクリプトを開始しました。	リソース非活性後 スクリプト 開始	-	●	●	●					
rc	情報	1311	リソース %1 の非活性後スクリプトが完了しました。	リソース非活性後 スクリプト 完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1340	リソース %1 の活性異常時最終動作前スクリプトが失敗しました。	リソース活性異常時最終動作前スクリプト失敗	スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●				●	
rc	エラー	1341	リソース %1 の非活性異常時最終動作前スクリプトが失敗しました。	リソース非活性異常時最終動作前スクリプト失敗	スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1342	リソース %1 の活性前スクリプトが失敗しました。	リソース活性前 スクリプト 失敗	スクリプトが 失敗した原因 を確認し、対 処を行ってくだ さい。	●	●	●				●	
rc	エラー	1343	リソース %1 の活性後スクリプトが失敗しました。	リソース活性後 スクリプト 失敗	スクリプトが 失敗した原因 を確認し、対 処を行ってくだ さい。	●	●	●				●	
rc	エラー	1344	リソース %1 の非活性前スクリプトが失敗しました。	リソース非活性前 スクリプト 失敗	スクリプトが 失敗した原因 を確認し、対 処を行ってくだ さい。	●	●	●				●	
rc	エラー	1345	リソース %1 の非活性後スクリプトが失敗しました。	リソース非活性後 スクリプト 失敗	スクリプトが 失敗した原因 を確認し、対 処を行ってくだ さい。	●	●	●				●	
rc	エラー	1346	ユーザのログ オンに失敗しました。	ユーザログオン失敗	実行ユーザの ドメイン、ア カウント、パ スワードが 正しく設定さ れているか確 認してくださ い。	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1400	サーバ %1 の強制停止 (BMC パワー オフ) を要求 しました。	強制停止 (BMC パワー オフ) 要求	-			●					
rc	情報	1401	サーバ %1 の強制停止 (BMC パワー サイクル) を 要求しまし た。	強制停止 (BMC パワー サイクル) 要 求	-			●					
rc	情報	1402	サーバ %1 の強制停止 (BMC リセッ ト) を要求し ました。	強制停止 (BMC リセッ ト) 要求	-			●					
rc	情報	1403	サーバ %1 の強制停止 (BMC NMI) を要求しまし た。	強制停止 (BMC NMI) 要求	-			●					
rc	情報	1404	強制停止を要 求しました。	強制停止 (VMware vSphere CLI) 要求	-			●					
rc	情報	1405	強制停止スク リプトを開始 しました。	強制停止スク リプト開始	-			●					
rc	情報	1406	強制停止スク リプトが完了 しました。	強制停止スク リプト完了	-			●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1420	サーバ %1 の強制停止 (BMC パワーオフ) に失敗しました。	強制停止 (BMC パワーオフ) 失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
rc	エラー	1421	サーバ %1 の強制停止 (BMC パワーサイクル) に失敗しました。	強制停止 (BMC パワーサイクル) 失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
rc	エラー	1422	サーバ %1 の強制停止 (BMC リセット) に失敗しました。	強制停止 (BMC リセット) 失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
rc	エラー	1423	サーバ %1 の強制停止 (BMC NMI) に失敗しました。	強制停止 (BMC NMI) 失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
rc	エラー	1424	強制停止に失敗しました。	強制停止 (VMware vSphere CLI) 失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
rc	エラー	1425	強制停止スクリプトが失敗しました。 (%1)	強制停止スクリプト停止	スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1426	強制停止スクリプトでタイムアウトが発生しました。	強制停止スクリプトタイムアウト	スクリプトがタイムアウトした原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●				●	
rc	警告	1427	サーバ %1 への強制停止が失敗したため、フェイルオーバーは実行しません。	強制停止失敗によるフェイルオーバー抑制	強制停止が失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●					
rc	情報	1440	CPU クロックレベルを最高に設定しました。	CPU クロックレベルを最高に設定	-	●	●	●					
rc	情報	1441	CPU クロックレベルを最低に設定しました。	CPU クロックレベルを最低に設定	-	●	●	●					
rc	情報	1442	CPU クロックレベルを %1 に設定しました。	CPU クロックレベルを設定	-	●	●	●					
rc	情報	1443	CPU クロック設定をクラスタによる自動制御に切り替えました。	CPU クロック設定をクラスタによる自動制御に切替	-	●	●	●					
rc	警告	1450	クラスタ動作が無効化されています。	クラスタ動作無効化中	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	警告	1451	グループの自動起動が無効になっているため、グループの自動起動は無視されました。	自動起動無実行	-	●	●	●					
rc	警告	1452	グループリソース活性異常時の復旧動作が無効になっているため、リソースの復旧動作は無視されました。	復旧動作無実行	-	●	●	●					
rc	警告	1453	グループリソース非活性異常時の復旧動作が無効になっているため、リソースの復旧動作は無視されました。	復旧動作無実行	-	●	●	●					
rc	情報	1454	クラスタ動作を無効にしました。	クラスタ動作を無効化	-	●	●	●					
rc	情報	1455	クラスタ動作を有効にしました。	クラスタ動作を有効化	-	●	●	●					
rc	エラー	1460	CPU クロック制御機能は使用できません。	CPU クロック制御機能は使用不可	BIOS の設定、カーネルの設定を確認してください。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1461	CPU クロック レベルを最高 に設定できま せんでした。	CPU クロック レベル (最高) の設定に失敗	BIOS の設定、 カーネルの設 定を確認して ください。ク ラスタサービ スが起動して いるか確認し てください。 CPU クロック 制御機能を使 用する設定に なっているか 確認してくだ さい。	●	●	●				●	
rc	エラー	1462	CPU クロック レベルを最低 に設定できま せんでした。	CPU クロック レベル (最低) の設定に失敗	BIOS の設定、 カーネルの設 定を確認して ください。ク ラスタサービ スが起動して いるか確認し てください。 CPU クロック 制御機能を使 用する設定に なっているか 確認してくだ さい。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1463	CPU クロック レベルを %1 に設定できま せんでした。	CPU クロック レベルの設定 に失敗	BIOS の設定、 カーネルの設 定を確認して ください。ク ラスタサービ スが起動して いるか確認し てください。 CPU クロック 制御機能を使 用する設定に なっているか 確認してくだ さい。	●	●	●				●	
rc	エラー	1464	CPU クロック 設定をクラス タによる自動 制御に切り替 えられません でした。	CPU クロック 設定のクラス タによる自動 制御切替に失 敗	クラスタサー ビスが起動 しているか確 認してくださ い。CPU クロ ック制御機能 を使用する設 定になってい るか確認して ください。	●	●	●				●	
rc	情報	1470	サーバ %1 を グループ %2 の起動先とし て設定しまし た (理由: %3) 。	起動サーバ決 定	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	警告	1471	グループ %1 の適切な起動 先がありません (理由: %2) 。	起動サーバ無 し (クラスタ起 動、フェイル オーバー)	他サーバで異 常を検出し ているモニタ リソースがあ ります。異常 の原因を取り 除くか、監視 の一時停止を 行ってくださ い。	●	●	●					
rc	警告	1472	サーバ %1 は グループ %2 を起動できる 状態ではあり ません (理由: %3)。	起動サーバ無 し (グループ起 動)	該当のサーバ で異常を検出 しているモニ タリソースが あります。異 常の原因を取 り除くか、監 視の一時停止 を行ってくだ さい。	●	●	●					
rc	エラー	1480	グループ %1 の起動待ち 合わせに失敗 したため、グ ループの起 動は中止され ました (理由: %2)。	起動待ち合 わせ失敗 (グ ループ起動中 止)	-	●	●	●					
rc	警告	1481	グループ %1 の起動待ち合 わせに失敗し ました。しか し、グループ の起動は継続 されます (理 由: %2)。	起動待ち合 わせ失敗 (グ ループ起動継 続)	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1482	グループ %1 の起動待ち合わせが中止されたため、グループの起動は中止されました。	起動待ち合わせ中止 (グループ起動中止)	-	●	●	●					
rc	警告	1483	グループ %1 の起動待ち合わせが中止されました。しかし、グループの起動は継続されます。	起動待ち合わせ中止 (グループ起動継続)	-	●	●	●					
rc	エラー	1484	グループ %1 の停止待ち合わせに失敗したため、グループの停止は中止されました (理由: %2)。	停止待ち合わせ失敗 (グループ停止中止)	-	●	●	●					
rc	警告	1485	グループ %1 の停止待ち合わせに失敗しました。しかし、グループの停止は継続されます (理由: %2)。	停止待ち合わせ失敗 (グループ停止継続)	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1486	グループ %1 の停止待ち合わせが中止されたため、グループの停止は中止されました。	停止待ち合わせ中止 (グループ停止中止)	-	●	●	●					
rc	警告	1487	グループ %1 の停止待ち合わせが中止されました。しかし、グループの停止は継続されます。	停止待ち合わせ中止 (グループ停止継続)	-	●	●	●					
rc	情報	1490	グループ %1 の両系活性チェックを開始しました。	両系活性チェック開始	-			●					
rc	情報	1491	グループ %1 の両系活性チェックが完了しました。	両系活性チェック完了	-			●					
rc	エラー	1492	グループ %1 の両系活性チェックに失敗しました。	両系活性チェック失敗	グループの状態を確認してください。	●	●	●					●
rc	情報	1493	両系活性チェックのため、グループ %1 の起動を待ち合わせています。	両系活性チェックのためグループ起動待ち合わせ	グループの状態を確認してください。	●	●	●					
rm	情報	1501	監視 %1 が起動しました。	監視起動	-	●	●	●					
rm	情報	1502	監視 %1 が停止しました。	監視停止	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	情報	1503	監視 %1 はこのサーバでは監視を行いません。	非対象サーバ	-	●	●	●					
rm	警告	1504	監視 %1 は警告の状態です。 (%2 : %3)	監視警告	警告の原因を確認してください。	●	●	●				●	
rm	警告	1505	監視リソース数が上限に達しています。(登録済みリソース数: %1)	モニタリソース数不正	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●	●				●	
rm	警告	1506	%1 の設定が有効ではありません。 (%2 : %3)	監視リソース不正	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●	●				●	
rm	エラー	1507	監視 %1 の起動に失敗しました。	監視起動失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●	●	●		●	●
rm	エラー	1508	監視 %1 の停止に失敗しました。	監視停止失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
rm	エラー	1509	監視 %1 は異常を検出しました。 (%2 : %3)	監視失敗	監視異常の原因を確認してください。	●	●	●	●	●		●	●
rm	情報	1510	監視 %1 は監視されません。	非監視	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	情報	1511	監視リソースは登録されていません。	未登録の監視リソース	-	●	●	●					
rm	情報	1512	監視 %2 が異常を検出したため、回復対象 %1 が停止されました。	回復対象停止	-	●	●	●					
rm	情報	1513	監視 %2 が異常を検出したため、回復対象 %1 が再起動されました。	回復対象再起動	-	●	●	●					
rm	情報	1514	監視 %2 が異常を検出したため、回復対象 %1 がフェイルオーバーされました。	回復対象グループフェイルオーバー	-	●	●	●					
rm	情報	1515	監視 %1 が異常を検出したため、クラスタの停止が要求されました。	クラスタ停止	-	●	●	●					
rm	情報	1516	監視 %1 が異常を検出したため、システムのシャットダウンが要求されました。	システムシャットダウン	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	情報	1517	監視 %1 が異常を検出したため、システムの再起動が要求されました。	システム再起動	-	●	●	●					
rm	エラー	1518	監視 %2 の異常検出による回復対象 %1 の停止は失敗しました。	回復対象停止失敗	リソースの状態を確認してください。	●	●	●					●
rm	エラー	1519	監視 %2 の異常検出による回復対象 %1 の再起動は失敗しました。	回復対象再起動失敗	リソースの状態を確認してください。	●	●	●					●
rm	エラー	1520	監視 %2 の異常検出による回復対象 %1 のフェイルオーバーは失敗しました。	回復対象グループフェイルオーバー失敗	リソースの状態を確認してください。	●	●	●					●
rm	エラー	1521	監視 %1 の異常検出によるクラスタの停止は失敗しました。	クラスタ停止失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					●
rm	エラー	1522	監視 %1 の異常検出によるシステムのシャットダウンは失敗しました。	OS シャットダウン失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	エラー	1523	監視 %1 の異常検出によるシステムの再起動は失敗しました。	os 再起動失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
rm	エラー	1524	監視 %1 が所属するグループが不明です。	所属グループ不明	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●	●				●	
rm	警告	1525	回復対象 %1 が起動状態ではないため、回復動作は実行されません。	回復動作無実行	-	●	●	●				●	
rm	情報	1526	監視 %1 の状態が正常に復帰しました。	ステータス正常	-	●	●	●					
rm	情報	1527	監視 %1 の状態が不明になりました。	ステータス不明	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					
rm	エラー	1528	監視の初期化でエラーが発生しました。 (%1 : %2)	プロセス初期化異常	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
rm	情報	1529	監視 %1 を一時停止しました。	監視一時停止	-	●	●	●					
rm	情報	1530	監視 %1 を再開しました。	監視再開	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	情報	1531	全ての監視を一時停止しました。	全監視一時停止	-	●	●	●					
rm	情報	1532	全ての監視を再開しました。	全監視再開	-	●	●	●					
rm	情報	1533	監視 %1 のポーリング間隔は %2*%3 に更新されました。	ポーリング間隔変更	-	●	●	●					
rm	情報	1534	全ての監視のポーリング間隔は %1 に更新されました。	ポーリング間隔変更 (全監視)	-	●	●	●					
rm	情報	1535	監視 %1 が異常を検出したため、意図的なストップエラーの発生が要求されました。	ストップエラーの発生	-	●	●	●					
rm	エラー	1536	監視 %1 の異常検出による意図的なストップエラーの発生は失敗しました。	ストップエラーの発生 失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	警告	1537	サーバの状態が保留中のため回復動作は実行されませんでした。	回復動作無実行 (サーバ保留)	サーバの状態が保留 (NP 未解決) の場合は監視リソース回復動作は実行されません。保留 (NP 未解決) になった原因を確認し、NP リソースを正常な状態にしてください。	●	●	●				●	
rm	警告	1538	いずれの回復対象も起動状態ではないため、回復動作は実行されません。	回復動作無実行 (全グループ)	-	●	●	●					
rm	警告	1539	回復対象 %1 の所属するグループが起動状態ではないため、回復動作は実行されません。	回復動作無実行 (グループ)	-	●	●	●					
rm	警告	1571	監視 %1 は遅延しています。 (timeout=%2, response time=%3, rate=%4)	監視遅延	監視遅延を検出したサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	警告	1572	監視 %1 は監視処理が実行できませんでした。	内部処理遅延	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					
rm	警告	1600	シャットダウン回数が上限(%1 回)に達しました。監視 %2 の最終動作は無視されます。	シャットダウン回数上限到達	-	●	●	●	●	●		●	●
rm	警告	1601	正常に稼動しているサーバが他に存在しないためモニタリソース %1 の異常検出による最終動作を抑制しました。	異常検出の最終動作の抑制	-	●	●	●					
rm	情報	1700	モニタリソース %2 の異常時回復動作(%1)前スク립トを開始しました。	モニタリソース異常時最終動作前スク립ト開始	-	●	●	●					
rm	情報	1701	モニタリソース %2 の異常時回復動作(%1)前スク립トが完了しました。	モニタリソース異常時最終動作前スク립ト完了	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	情報	1720	モニタリソース %2 の異常時回復動作 (%1) 前スクリプトが失敗しました。	モニタリソース異常時最終動作前スクリプト失敗	-	●	●	●					
rm	情報	1750	監視 %1 の異常検出を契機とした詳細情報の採取を開始しました。タイムアウトは %2 秒です。	詳細情報採取開始	-	●	●	●					
rm	情報	1751	監視 %1 の異常検出を契機とした詳細情報の採取が完了しました。	詳細情報採取完了	-	●	●	●					
rm	警告	1752	監視 %1 の異常検出を契機とした詳細情報の採取が失敗しました。 (%2)	詳細情報採取失敗	-	●	●	●					
rm	情報	1800	%1 サービスを開始します。	サービス開始	-	●	●	●					
rm	情報	1801	%1 サービスが停止されているため、開始します (リトライ回数: %2/%3)。	サービス開始リトライ	-	●	●	●					
rm	情報	1802	%1 サービスを再開します。	サービス再開	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	情報	1803	%1 サービスが一時停止されているため、再開します (リトライ回数: %2/%3)。	サービス再トライ	-	●	●	●					
rm	情報	1804	%1 サービスを停止します。	サービス停止	-	●	●	●					
rm	情報	1805	%1 サービスは実行中状態に移行しました。	サービス実行中状態	-	●	●	●					
rm	情報	1806	%1 サービスは停止状態に移行しました。	サービス停止状態 (正常)	-	●	●	●					
rm	警告	1811	%1 サービスの開始要求が失敗しました。サービスが開始されない可能性があります。	サービス開始要求失敗	サービスの状態を確認してください。	●	●	●					
rm	警告	1812	%1 サービスの再開要求が失敗しました。サービスが再開されない可能性があります。	サービス再開要求失敗	サービスの状態を確認してください。	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	警告	1813	%1 サービスの停止要求が失敗しました。サービスが停止されない可能性があります。	サービス停止要求失敗	サービスの状態を確認してください。	●	●	●					
rm	警告	1816	%1 サービスが停止しています。	サービス停止状態 (異常)	サービスが停止した原因を確認してください。	●	●	●					
rm	警告	1817	%1 サービスが一時停止しています。	サービス一時停止状態 (異常)	サービスが一時的に停止した原因を確認してください。	●	●	●					
rm	警告	1819	%1 サービスの再起動回数がしきい値 %2 を超えています。	サービス再起動処理リトライオーバー	サービス再起動処理リトライオーバー	●	●	●					
rm	情報	1820	%1 サービス監視処理でエラーが発生したため、クラスタサービスを停止します。	クラスタサービス停止 (サービス監視エラー)	-	●	●	●					
rm	情報	1821	%1 サービス監視処理でエラーが発生したため、システムをシャットダウンします。	システムシャットダウン (サービス監視エラー)	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	情報	1822	%1 サービス監視処理でエラーが発生したため、システムを再起動します。	システム再起動 (サービス監視エラー)	-	●	●	●					
rm	エラー	1870	ライセンス不正のため、監視 %1 を操作できません。	操作不可 (ライセンス不正)	ライセンスの登録状況を確認してください。	●	●	●					
rm	情報	1890	監視 %1 が異常を検出したため、回復スクリプトが実行されました。	回復スクリプト完了	-	●	●	●					
rm	エラー	1891	監視 %1 の異常検出による回復スクリプトの実行は失敗しました。	回復スクリプト失敗	回復スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●					
rm	エラー	1892	ユーザのログオンに失敗しました。	ユーザログオン失敗	実行ユーザのドメイン、アカウント、パスワードが正しく設定されているか確認してください。	●	●	●					
rm	情報	1910	監視 %1 の擬似障害が発生しました。	擬似障害発生	-	●	●	●					
rm	情報	1911	監視 %1 の擬似障害を解除しました。	擬似障害解除	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	情報	1912	全 モニタリソースで擬似障害が発生します。	全 モニタリソースの擬似障害発生	-	●	●	●					
rm	情報	1913	全 モニタリソースの擬似障害を解除します。	全 モニタリソースの擬似障害解除	-	●	●	●					
rm	警告	1914	監視 %1 の擬似障害の発生に失敗しました。	擬似障害発生失敗	モニタリソース %1 が障害検証機能に対応しているか確認してください。	●	●	●					
rm	警告	1915	監視 %1 の擬似障害の解除に失敗しました。	擬似障害解除失敗	モニタリソース %1 が障害検証機能に対応しているか確認してください。	●	●	●					
rm	情報	1930	モニタリソース異常時の回復動作を無効にしました。	モニタリソース異常時回復動作無効	-	●	●	●					
rm	情報	1931	モニタリソース異常時の回復動作を有効にしました。	モニタリソース異常時回復動作有効	-	●	●	●					
rm	警告	1932	モニタリソース異常時の回復動作が無効になっているため、監視 %1 の回復動作は無視されました。	回復動作無実行 (回復動作抑制中)	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	警告	1933	タイムアウト発生時の回復動作が無効であるため、監視 %1 の回復動作は実行されませんでした。	モニタリソースタイムアウト時回復動作無効	-	●	●	●					
event	情報	2101	%1 サービスが開始されました。	サービス開始	-		●						
event	情報	2102	%1 サービスが停止されました。	サービス停止	-		●						
event	警告	2130	内部スレッドの終了待ちでタイムアウト、またはその他異常が発生しました。内部エラー %1 を検出しました。	終了待ちタイムアウト	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●						●
event	エラー	2150	不正なパラメータが指定されました。パラメータを確認してください。	構成情報異常	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●						●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
event	エラー	2151	ポリシー情報の取得に失敗しました。ポリシーファイルの存在または、構成内容を確認してください。	構成情報異常	ポリシーファイルの存在または、構成内容を確認してください。	●	●					●	
event	エラー	2152	レジストリ情報の取得に失敗しました。システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	レジストリ異常	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります	●	●					●	
event	エラー	2153	サービスマネージャへのディスパッチに失敗しました。システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	ディスパッチ異常	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります	●	●					●	
event	エラー	2154	内部リソースの作成に失敗しました。システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	リソース生成失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります	●	●					●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
event	エラー	2155	通信ソケットの作成に失敗しました。システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	ソケット生成失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります	●	●					●	
event	エラー	2156	共有メモリの制御に失敗しました。システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	共有メモリ制御失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります	●	●					●	
event	エラー	2157	内部スレッドの生成に失敗しました。システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	スレッド生成失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります	●	●					●	
event	エラー	2199	その他、内部エラーが発生しました。システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	内部エラー	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります	●	●					●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
trnsv	エラー	2301	%1 から通知を受付ましたが、許可されませんでした。	クライアント IP アドレスによる接続制限	接続を許可するクライアント IP アドレスを確認してください。	●	●	●					
trnsv	情報	2310	%2 から通知 (%1) を受け付けました。	外部から異常発生通知を受信	-	●	●	●					
trnsv	情報	2320	外部通知により監視 %2 の異常時動作 (%1) の実行を開始しました。	異常発生時の回復動作を実行	-	●	●	●					
trnsv	情報	2321	監視 %2 の異常時動作 (%1) が成功しました。	異常発生時の回復動作が完了	-	●	●	●					
trnsv	エラー	2322	監視 %2 の異常時動作 (%1) を実行しましたが、失敗しました。	異常発生時の回復動作が失敗	回復動作が実行可能な環境か確認してください。	●	●	●					
trnsv	情報	2330	動作 (%1) の実行に成功しました。	要求された動作が完了	-	●	●	●					
trnsv	エラー	2331	動作 (%1) を実行しましたが、失敗しました。	要求された動作が失敗	要求された動作が実行可能な環境か確認してください。	●	●	●					
trnsv	情報	2340	監視 (%1) の異常時動作前スクリプトを実行しました。	スクリプトの実行を開始	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
trnsv	情報	2341	監視 (%1) の異常時動作前スクリプトの実行に成功しました。	スクリプトの実行が完了	-	●	●	●					
trnsv	エラー	2342	監視 (%1) の異常時動作前スクリプトの実行に失敗しました。	スクリプトの実行が失敗	スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●					
trnsv	エラー	2350	リジュームに失敗したため、システムをシャットダウンします。	リジューム失敗によるシャットダウン	-	●	●	●					
trnsv	エラー	2351	システムのシャットダウンに失敗しました。	シャットダウン失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					
lankhb	エラー	2851	サーバ %1 でキープアライブタイムアウトが検出されました。	キープアライブタイムアウト	キープアライブタイムアウトを検出したサーバが存在しています。サーバの障害を取り除いてください。	●	●						●
lankhb	エラー	2852	サーバ %1 で STOP エラーが発生しました。(ソース:%2, 終了コード:%3)	STOP エラー	STOP エラーが発生したサーバが存在しています。サーバの障害を取り除いてください。	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
lankhb	エラー	2853	サーバ %1 で ハードウェア リセットが 発生しました。 (ソース:%2, 終了 コード:%3)	ハードウェア リセット	ハードウェア リセットが発 生したサーバ が存在してい ます。サーバ の障害を取り 除いてくださ い。	●	●	●					
ptun	警告	3301	パラメータ (%1) がしきい 値 (%2 パー セント) を超 えました。タ イムアウト値 =%3 データ =%4	遅延警告	パラメータが しきい値を超 えています。 パラメータを 適正な値に設 定してくだ さい。	●	●	●				●	
ptun	警告	3302	パラメータ (%1) がしきい 値 (%2 パー セント) を超 えました。タ イムアウト値 =%3 データ =%4 サーバ =%5 リソース =%6	遅延警告	パラメータが しきい値を超 えています。 パラメータを 適正な値に設 定してくだ さい。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
armcmd	エラー	3501	ARMLOAD は グ ル ー プ %1 のアプ リケーション (監視 ID=%2) の終了を検 出しました。 フェイルオー バ回数は最大 回数に到達し ています。ア プリケーショ ンが終了した 原因を調査し て取り除いて ください。	アプリケーション 異常	アプリケーション が終了した 原因を調査 して取り除い てください。	●	●						●
armcmd	エラー	3502	ARMLOAD は グ ル ー プ %1 のアプ リケーション (監視 ID=%2) の終了を検出 しました。ス クリプトを再 起動します。 ア プ リ ケ ー ションが終了 した原因を調 査して取り除 いてください。	アプリケーション 異常	アプリケーション が終了した 原因を調査 して取り除い てください。	●	●						●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
armcmd	エラー	3503	ARMLOAD はグループ %1 のアプリケーション (監視 ID=%2) の終了を検出しました。アプリケーションを再起動します。アプリケーションが終了した原因を調査して取り除いてください。	アプリケーション異常	アプリケーションが終了した原因を調査して取り除いてください。	●	●						●
armcmd	エラー	3504	ARMLOAD はグループ %1 のアプリケーション (監視 ID=%2) の終了を検出しました。グループをフェイルオーバーします。アプリケーションが終了した原因を調査して取り除いてください。	アプリケーション異常	アプリケーションが終了した原因を調査して取り除いてください。	●	●						●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
armcmd	エラー	3505	ARMLOAD はグループ %1 のアプリケーション (監視 ID=%2) の終了を検出しました。サーバをシャットダウンします。アプリケーションが終了した原因を調査して取り除いてください。	アプリケーション異常	アプリケーションが終了した原因を調査して取り除いてください。	●	●						●
armcmd	エラー	3506	ARMLOAD はグループ %1 のサービス (監視 ID=%2) の停止を検出しました。フェイルオーバー回数は最大回数に到達しています。サービスが停止した原因を調査して取り除いてください。	サービス異常	サービスが停止した原因を調査して取り除いてください。	●	●						●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
armcmd	エラー	3507	ARMLOAD は グ ル ー プ %1 のサー ビ ス (監 視 ID=%2) の 停 止を検出しま した。スクリ プトを再起動 します。サー ビスが停止し た原因を調査 して取り除い てください。	サービス異常	サービスが停 止した原因を 調査して取り 除いてくださ い。	●	●						●
armcmd	エラー	3508	ARMLOAD は グ ル ー プ %1 のサー ビ ス (監 視 ID=%2) の 停 止を検出しま した。サービ スを再起動し ます。サービ スが停止した 原因を調査し て取り除いて ください。	サービス異常	サービスが停 止した原因を 調査して取り 除いてくださ い。	●	●						●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
armcmd	エラー	3509	ARMLOAD は グ ル ー プ %1 のサー ビス (監 視 ID=%2) の 停 止を検出しま した。グルー プをフェイル オーバしま す。サービス が停止した原 因を調査して 取り除いてく ださい。	サービス異常	サービスが停 止した原因を 調査して取り 除いてくださ い。	●	●					●	
armcmd	エラー	3510	ARMLOAD は グ ル ー プ %1 のサー ビス (監 視 ID=%2) の 停 止を検出しま した。サーバ をシャットダ ウンします。 サービスが停 止した原因を 調査して取り 除いてくださ い。	サービス異常	サービスが停 止した原因を 調査して取り 除いてくださ い。	●	●					●	
armcmd	エラー	3513	コマンド %1 に 異 常 が 発 生しました。 サーバをシャ ットダウンし ます。	コマンド異常	システムが正 しく 動 作 で きない状態に なっている可 能性がありま す。	●	●					●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
armcmd	警告	3514	共有名 (%1) への接続異常を検出しました。	共有名異常	共有名は使用できない状態です。共有名に対応するデバイスの復旧を行ってください。(1) OS が不安定な状態です。確認してください。(2) 該当デバイスに電源が投入されているか確認してください。(3) 該当デバイスとサーバが正しく接続されているか確認してください。	●	●					●	
armcmd	情報	3515	共有名 (%1) への接続が復旧しました。	共有名回復	-	●	●						
armcmd	警告	3516	グループ %1 のアプリケーション (監視 ID=%2) の起動に失敗しました。	アプリケーション起動失敗	アプリケーション起動失敗の要因を取り除いてください。	●	●					●	
armcmd	情報	3517	グループ %1 のアプリケーション (監視 ID=%2) を再起動しました。	アプリケーション再起動	-	●	●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
armcmd	警告	3518	グループ %1 のサービス (監視 ID=%2) の起動に失敗しました。	サービス起動失敗	サービス起動失敗の要因を取り除いてください。	●	●						●
armcmd	情報	3519	グループ %1 のサービス (監視 ID=%2) を再起動しました。	サービス再起動	-	●	●						
armcmd	エラー	3520	グループ %1 のフェイルオーバーに失敗しました。グループをフェイルオーバーできるサーバが存在しない可能性があります。確認してください。	グループフェイルオーバー失敗	グループをフェイルオーバーできるサーバが存在しない可能性があります。確認してください。	●	●						●
lcns	情報	3551	試用期間は %1 までです。(製品名:%2)	試用版ライセンス (正常)	-	●	●						
lcns	エラー	3552	試用期間が %1 に切れしました。(製品名:%2)	試用版ライセンス (期限切れ)	ライセンスを登録してください。	●	●	●					●
lcns	警告	3553	ライセンスが不足しています。不足ライセンス数は %1 です。(製品名:%2)	ライセンス不足	ライセンスを登録してください。	●	●						●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
lcns	エラー	3554	ライセンスが登録されていません。(製品名:%1)	ライセンス未登録	ライセンスを登録してください。	●	●	●				●	
lcns	エラー	3555	同じライセンスが他のサーバで登録されています。(製品名:%1)	ライセンス重複登録	重複ライセンスを削除してください。	●	●	●				●	
lcns	エラー	3556	このサーバの製造元、型番が不正です。	製造元、型番不正	製造元、型番を確認してください。	●	●	●				●	
lcns	エラー	3558	登録されているライセンスが無効な状態です。(製品名:%1、シリアルナンバー:%2)	ライセンス無効	有効なライセンスを登録してください。	●	●	●				●	
lcns	情報	3559	期限付きライセンスの有効期間は %1 までです。(製品名:%2)	期限付きライセンス (正常)	-	●	●						
lcns	エラー	3560	期限付きライセンスの有効期間は %1 で切れしました。(製品名:%2)	期限付きライセンス (期限切れ)	ライセンスを登録してください。	●	●	●				●	
logcmd	情報	3601		ログコマンド	-	●	×	×	×	×	×	×	×

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
diskw	警告	3701	監視 %1 は遅延し ています。 (timeout=%2 response time=%3 rate=%4)	監視遅延	-	●	●	●					●
userw	警告	3711	監視 %1 は遅延し ています。 (timeout=%2 response time=%3 rate=%4)	監視遅延	-	●	●	●					●
mail	エラー	4101	メール通報が 失敗しました (%1)。(SMTP サーバ: %2)	メール通報失 敗	SMTP サーバ にエラーが発 生していない か、あるいは SMTP サーバ との通信に問 題がないか確 認してくださ い。	●	●	●					●
mail	情報	4102	メール通報 が成功しま した。(SMTP サーバ: %1)	メール通報成 功	-		●	●					
apisv	情報	4301	%1(IP=%2) よりクラスタ 停止が要求さ れました。	クラスタ停止	-	●		●					
apisv	情報	4302	%1(IP=%2) よりクラスタ シャットダウ ンが要求され ました。	クラスタシャ ットダウン	-	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
apisv	情報	4303	%1(IP=%2)よりクラスタ再起動が要求されました。	クラスタ再起動	-	●		●					
apisv	情報	4304	%1(IP=%2)よりクラスタサスペンドが要求されました。	クラスタサスペンド	-	●		●					
apisv	情報	4310	%1(IP=%2)よりクラスタサービスの停止が要求されました。	クラスタサービス停止	-	●		●					
apisv	情報	4311	%1(IP=%2)よりサーバのシャットダウンが要求されました。	シャットダウン	-	●		●					
apisv	情報	4312	%1(IP=%2)よりサーバの再起動が要求されました。	再起動	-	●		●					
apisv	情報	4330	%2(IP=%3)よりグループ(%1)の起動が要求されました。	グループ起動	-	●		●					
apisv	情報	4331	%1(IP=%2)より全グループの起動が要求されました。	全グループ起動	-	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
apisv	情報	4332	%2(IP=%3)よりグループ(%1)の停止が要求されました。	グループ停止	-	●		●					
apisv	情報	4333	%1(IP=%2)より全グループの停止が要求されました。	全グループ停止	-	●		●					
apisv	情報	4334	%2(IP=%3)よりグループ(%1)の再起動が要求されました。	グループ再起動	-	●		●					
apisv	情報	4335	%1(IP=%2)より全グループの再起動が要求されました。	全グループ再起動	-	●		●					
apisv	情報	4336	%2(IP=%3)よりグループ(%1)の移動が要求されました。	グループ移動	-	●		●					
apisv	情報	4337	%1(IP=%2)より全グループの移動が要求されました。	全グループ移動	-	●		●					
apisv	情報	4338	%2(IP=%3)よりグループ(%1)のフェイルオーバーが要求されました。	グループフェイルオーバー	-	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
apisv	情報	4339	%1(IP=%2)より全グループのフェイルオーバーが要求されました。	全グループフェイルオーバー	-	●		●					
apisv	情報	4340	%2(IP=%3)よりグループ(%1)のマイグレーションが要求されました。	グループマイグレーション	-	●		●					
apisv	情報	4341	%1(IP=%2)より全グループのマイグレーションが要求されました。	全グループマイグレーション	-	●		●					
apisv	情報	4342	%1(IP=%2)より全グループのフェイルオーバーが要求されました。	全グループフェイルオーバー	-	●		●					
apisv	情報	4343	%1 からグループ %2 の依存先グループ待ち合わせ処理のキャンセル要求がありました。	待ち合わせキャンセル	-	●		●					
apisv	情報	4350	%2(IP=%3)よりリソース(%1)の開始が要求されました。	リソース開始	-	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
apisv	情報	4351	%1(IP=%2) より全リソースの開始が要求されました。	全リソース開始	-	●		●					
apisv	情報	4352	%2(IP=%3) よりリソース(%1)の停止が要求されました。	リソース停止	-	●		●					
apisv	情報	4353	%1(IP=%2) より全リソースの停止が要求されました。	全リソース停止	-	●		●					
apisv	情報	4354	%2(IP=%3) よりリソース(%1)の再起動が要求されました。	リソース再起動	-	●		●					
apisv	情報	4355	%1(IP=%2) より全リソースの再起動が要求されました。	全リソース再起動	-	●		●					
apisv	情報	4360	%1(IP=%2) より監視の一時停止が要求されました。	監視一時停止	-	●		●					
apisv	情報	4361	%1(IP=%2) より監視の再開が要求されました。	監視再開	-	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
apisv	情報	4362	%2(IP=%3)より監視 %1の擬似障害開始が要求されました。	擬似障害開始	-	●		●					
apisv	情報	4363	%2(IP=%3)から監視 %1の擬似障害停止が要求されました。	擬似障害停止	-	●		●					
apisv	情報	4364	%1(IP=%2)から全監視の擬似障害停止が要求されました。	全擬似障害停止	-	●		●					
apisv	情報	4370	%1(IP=%2)より CPU クロック制御が要求されました。	CPU クロック制御	-	●		●					
apisv	エラー	4401	クラスタ停止要求が失敗しました (%1)。	クラスタ停止失敗	クラスタの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4402	クラスタシャットダウン要求が失敗しました (%1)。	クラスタシャットダウン失敗	クラスタの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4403	クラスタ再起動要求が失敗しました (%1)。	クラスタ再起動失敗	クラスタの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4404	クラスタサスペンド要求が失敗しました (%1)。	クラスタサスペンド失敗	クラスタの状態を確認してください。	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
apisv	エラー	4410	クラスタサービスの停止要求が失敗しました (%1)。	クラスタサービス停止失敗	クラスタの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4411	サーバのシャットダウン要求が失敗しました (%1)。	サーバシャットダウン 失敗	サーバの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4412	サーバの再起動要求が失敗しました (%1)。	サーバ再起動 失敗	サーバの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4430	グループ (%1) の開始要求が失敗しました (%2)。	グループ開始 失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4431	全グループの開始要求が失敗しました (%1)。	全グループ開始 失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4432	グループ (%1) の停止要求が失敗しました (%2)。	グループ停止 失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4433	全グループの停止要求が失敗しました (%1)。	全グループ停止 失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4434	グループ (%1) の再起動要求が失敗しました (%2)。	グループ再起動 失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4435	全グループの再起動要求が失敗しました (%1)。	全グループ再起動 失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
apisv	エラー	4436	グループ (%1) の移動要求が失敗しました (%2)。	グループ移動失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4437	全グループの移動要求が失敗しました (%1)。	全グループ移動失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4438	グループ (%1) のフェイルオーバー要求が失敗しました (%2)。	グループフェイルオーバー失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4439	全グループのフェイルオーバー要求が失敗しました (%1)。	全グループフェイルオーバー失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4440	グループ (%1) のマイグレート要求が失敗しました (%2)。	グループマイグレーション失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4441	全グループのマイグレート要求が失敗しました (%1)。	全グループマイグレーション失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4442	全グループのフェイルオーバー要求が失敗しました (%1)。	全グループフェイルオーバー失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
apisv	エラー	4443	グループ %1 の依存先グループ待ち合わせ処理のキャンセル要求が失敗しました。	待ち合わせキャンセル失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4450	リソース (%1) の開始要求が失敗しました (%2)。	リソース開始失敗	リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4451	全リソースの開始要求が失敗しました (%1)。	全リソース開始失敗	リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4452	リソース (%1) の停止要求が失敗しました (%2)。	リソース停止失敗	リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4453	全リソースの停止要求が失敗しました (%1)。	全リソース停止失敗	リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4454	リソース (%1) の再起動要求が失敗しました (%2)。	リソース再起動失敗	リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4455	全リソースの再起動要求が失敗しました (%1)。	全リソース再起動失敗	リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4460	監視の一時停止要求が失敗しました (%1)。	監視一時停止失敗	監視リソースの状態を確認してください。	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
apisv	エラー	4461	監視の再開要求が失敗しました (%1)。	監視再開失敗	監視リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4462	監視 %1 の擬似障害開始が失敗しました (%2)。	擬似障害開始失敗	監視リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4463	監視 %1 の擬似障害停止が失敗しました (%2)。	擬似障害停止失敗	監視リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4464	全監視の擬似障害停止が失敗しました (%1)。	全擬似障害停止失敗	監視リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4470	CPU クロック制御要求が失敗しました (%1)。	CPU クロック制御失敗	サーバが CPU クロック制御に対応しているか確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4480	内部通信 (%1) の初期化に失敗しました (port=%2)。	内部通信初期化失敗	内部通信の初期化に失敗しました。 CLUSTERPRO 以外のアプリケーションが該当のポートを使用していないか確認してください。	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
userw	警告	5001	監視 %1 は遅延しています。 (timeout=%2 response time=%3 rate=%4)	監視遅延	-	●	●	●					●
genw	警告	5151	対象スクリプト (%1) の消滅を検出したため、再起動しました。	対象スクリプト再起動 %1: スクリプト名	-	●	●						
db2 ftp http imap4 odbc oracle otx pop3 psql smtp sqlserver tux was wls	警告	10001	%1	各被監視アプリケーションのエラーメッセージです。	メッセージを元にアプリケーションの障害を調査してください。	●	×	×	×	×	×	×	×

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
db2w ftpw httpw imap4w odbcw oraclew otxw pop3w psqlw smtpw sqlserverw tuxw wasw wls db2 ftp http imap4 odbc oracle otx pop3 psql smtp sqlserver tux was wls	警告	10002	Windows の API エラーが発生しました.%1	アプリケーション監視時に Windows の API で障害が起きました。%1 は API のエラーコードです。	エラーコードを元に OS の障害を取り除いてください。	●	×	×	×	×	×	×	×

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
mrw	警告	4901	監視 %1 は警告の状態です。 (%2 : %3)	監視警告	警告の原因を確認してください。	●	●	●				●	
mrw	警告	4902	%1 の設定が有効ではありません。 (%2 : %3)	監視リソース不正	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●	●				●	
mrw	エラー	4903	監視 %1 の起動に失敗しました。	監視起動失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●	●	●		●	●
mrw	エラー	4904	監視 %1 の停止に失敗しました。	監視停止失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
mrw	エラー	4905	監視 %1 は異常を検出しました。 (%2 : %3)	監視失敗	監視異常の原因を確認してください。	●	●	●	●	●		●	●
mrw	情報	4906	監視リソースは登録されていません。	未登録の監視リソース	-	●	●	●					
mrw	情報	4907	監視 %2 が異常を検出したため、回復対象 %1 が停止されました。	回復対象停止	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベン ト分類	イベン ト ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
mrw	情報	4908	監視 %2 が異常を検出したため、回復対象 %1 が再起動されました。	回復対象再起動	-	●	●	●					
mrw	情報	4909	監視 %2 が異常を検出したため、回復対象 %1 がフェイルオーバーされました。	回復対象グループフェイルオーバー	-	●	●	●					
mrw	情報	4910	監視 %1 が異常を検出したため、クラスタの停止が要求されました。	クラスタ停止	-	●	●	●					
mrw	情報	4911	監視 %1 が異常を検出したため、システムのシャットダウンが要求されました。	システムシャットダウン	-	●	●	●					
mrw	情報	4912	監視 %1 が異常を検出したため、システムの再起動が要求されました。	システム再起動	-	●	●	●					
mrw	エラー	4913	監視 %2 の異常検出による回復対象 %1 の停止は失敗しました。	回復対象停止失敗	リソースの状態を確認してください。	●	●	●					●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
mrw	エラー	4914	監視 %2 の異常検出による回復対象 %1 の再起動は失敗しました。	回復対象再起動失敗	リソースの状態を確認してください。	●	●	●				●	
mrw	エラー	4915	監視 %2 の異常検出による回復対象 %1 のフェイルオーバーは失敗しました。	回復対象グループフェイルオーバー失敗	リソースの状態を確認してください。	●	●	●				●	
mrw	エラー	4916	監視 %1 の異常検出によるクラスタの停止は失敗しました。	クラスタ停止失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
mrw	エラー	4917	監視 %1 の異常検出によるシステムのシャットダウンは失敗しました。	OS シャットダウン失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
mrw	エラー	4918	監視 %1 の異常検出によるシステムの再起動は失敗しました。	os 再起動失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
mrw	エラー	4919	監視 %1 が所属するグループが不明です。	所属グループ不明	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
mrw	警告	4920	回復対象 %1 が起動状態ではないため、回復動作は実行されません。	回復動作無実行	-	●	●	●				●	
mrw	情報	4921	監視 %1 の状態が正常に復帰しました。	ステータス正常	-	●	●	●					
mrw	情報	4922	監視 %1 の状態が不明になりました。	ステータス不明	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					
mrw	エラー	4923	監視の初期化でエラーが発生しました。 (%1 : %2)	プロセス初期化異常	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
mrw	情報	4924	監視 %1 が異常を検出したため、意図的なストップエラーの発生が要求されました。	ストップエラーの発生	-	●	●	●					
mrw	エラー	4925	監視 %1 の異常検出による意図的なストップエラーの発生は失敗しました。	ストップエラーの発生失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
mrw	警告	4926	サーバの状態が保留中のため回復動作は実行されませんでした。	回復動作無実行 (サーバ保留)	サーバの状態が保留 (NP 未解決) の場合は監視リソース回復動作は実行されません。保留 (NP 未解決) になった原因を確認し、NP リソースを正常な状態にしてください。	●	●	●					●
mrw	警告	4927	シャットダウン回数が上限 (%1 回) に達しました。監視 %2 の最終動作は無視されます。	シャットダウン回数上限到達	-	●	●	●	●	●			● ●
mrw	情報	4928	モニタリソース %2 の異常時回復動作 (%1) 前スクリプトを開始しました。	モニタリソース異常時最終動作前スクリプト開始	-	●	●	●					
mrw	情報	4929	モニタリソース %2 の異常時回復動作 (%1) 前スクリプトが完了しました。	モニタリソース異常時最終動作前スクリプト完了	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
mrw	情報	4930	モニタリソース %2 の異常時回復動作 (%1) 前スクリプトが失敗しました。	モニタリソース異常時最終動作前スクリプト失敗	-	●	●	●					
mrw	情報	4931	監視 %1 が異常を検出したため、回復スクリプトが実行されました。	回復スクリプト完了	-	●	●	●					
mrw	エラー	4932	監視 %1 の異常検出による回復スクリプトの実行は失敗しました。	回復スクリプト失敗	回復スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●					
mrw	警告	4933	モニタリソース異常時の回復動作が無効になっているため、監視 %1 の回復動作は無視されました。	モニタリソース異常時の回復動作を抑制しているため、回復動作は実行されません。	-	●	●	●					
mrw	情報	4934	外部より通知 (%1) を受け付けました。(詳細情報: %2)	外部から異常発生通知を受信	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
tuxw	警告	10004	アプリケーションの API エラーが発生しました.%1	アプリケーション監視時にアプリケーションの API で障害が起きました。%1 は API のエラーコードです。	エラーコードを元にアプリケーションの障害を調査してください。	●							
jra	エラー	20251	内部処理に失敗しました。(%1)	内部エラーが発生しました。 %1:内部エラーコード	JVM 監視リソースが動作していることを確認してください。JVM 監視リソースが起動していない場合は、サーバを再起動してください。		●						
jra	エラー	20252	設定値誤りにより起動に失敗しました。(%1)	指定された設定値が不正です。 %1:内部エラーコード	設定した Java インストールパスが正しいか確認してください。		●						
sra	エラー	20301	設定ファイル読み込みに失敗したため、サービスが停止しました。	設定ファイルの読み込み処理で異常がありました。	別途出力されているメッセージを確認してください		●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sra	エラー	20302	インストールフォルダ名を取得できませんでした。	インストールフォルダ名の取得に失敗しました。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●						
sra	エラー	20305	いくつかのモジュールの読み込みに失敗しました。	本製品の実行に必要なファイルの一部が存在しないため、起動することができませんでした。	本製品をインストールしなおしてください。		●						
sra	エラー	20306	予期せぬエラーが発生しました。	本製品を起動しようとしたが、何らかの理由により起動することができませんでした。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●						
sra	エラー	20307	内部エラーが発生しました。	本製品が異常終了しました。	直前に出力されているシステムログメッセージを参照してください。		●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sra	エラー	20308	WMI の発行でエラーが発生しました。 (%1、エラー ID: 0x%2、クラス名: %3) %1 : メッセージ %2 : エラーコード %3 : 取得できなかった情報	統計情報が取得できませんでした。 %1 : メッセージ %2 : エラーコード %3 : 取得できなかった情報	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●						
sra	警告	20336	スクリプトがタイムアウトしました。 (%1 %2) %1:スクリプトファイル名 %2 : 引数	内部エラーが発生しました。	サーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。		●						
sra	情報	20346	%1 イベントに成功しました。 %1 : イベント種別 (Boot、Shutdown、Stop、Start、Flush)	運用管理コマンドを実行しました。 %1 は実行したイベント種別 (Boot、Shutdown、Stop、Start、Flush) が出力されます。	-		●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sra	警告	20347	%1 が %2 より小さい値であったため、%2(%3) の値に変更しました。	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定項目 %2 : 設定項目 %3 : 設定値	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						
sra	警告	20348	%1 が %2 と比較し制限値を超えていたため、%2 を %3 に変更しました。	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定項目 %2 : 設定項目 %3 : 設定値	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						
sra	警告	20349	%1 が %2 より小さかったため、%2(%3) に変更しました。	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定項目 %2 : 設定項目 %3 : 設定値	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						
sra	警告	20350	%1 が %2 より大きかったため、%2(%3) に変更しました。	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定項目 %2 : 設定項目 %3 : 設定値	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sra	警告	20351	%1 がディスク総容量を超えています。 %2	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定項目 %2 : 設定値	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						
sra	警告	20352	%1 がディスク総容量を超えています。 %2	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定項目 %2 : 設定値	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						
sra	警告	20353	ディスク監視対象リストから MOUNT[%1] を削除しました	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定値	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						
sra	警告	20354	%1 に不正な値 (%2) が設定されています。	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定項目 %2 : 設定値	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						
sra	警告	20355	%1 に指定されたドライブのドライブ種別が固定ディスクではありません。(ドライブレター=%2)	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定項目 %2 : 設定値	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sra	エラー	20358	プロセスリソース異常を検出しました (type = cpu, pid = %1, %2)。	特定プロセスの CPU 使用率監視で異常を検出しました。 %1 : プロセス ID %2 : プロセス名	監視異常の原因を確認してください。	●	●						
sra	エラー	20358	プロセスリソース異常を検出しました (type = memory leak, pid = %1, %2)。	特定プロセスのメモリ使用量監視で異常を検出しました。 %1 : プロセス ID %2 : プロセス名	監視異常の原因を確認してください。	●	●						
sra	エラー	20358	プロセスリソース異常を検出しました (type = file leak, pid = %1, %2)。	特定プロセスのオープンファイル数監視で異常を検出しました。 %1 : プロセス ID %2 : プロセス名	監視異常の原因を確認してください。	●	●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sra	エラー	20358	プロセスリソース異常を検出しました (type = thread leak, pid = %1, %2)。	特定プロセスのスレッド数監視で異常を検出しました。 %1 : プロセス ID %2 : プロセス名	監視異常の原因を確認してください。	●	●						
sra	エラー	20358	プロセスリソース異常を検出しました (type = same name process, pid = %1, %2)。	同一名プロセス監視で異常を検出しました。 %1 : プロセス ID %2 : プロセス名	監視異常の原因を確認してください。	●	●						
sra	エラー	20359	システムリソース異常を検出しました (type = cpu)。	システムの CPU 使用率監視で異常を検出しました。	監視異常の原因を確認してください。	●	●						
sra	エラー	20359	システムリソース異常を検出しました (type = memory)。	システムの総メモリ使用量監視で異常を検出しました。	監視異常の原因を確認してください。	●	●						
sra	エラー	20359	システムリソース異常を検出しました (type = swap)。	システムの総仮想メモリ使用量監視で異常を検出しました。	監視異常の原因を確認してください。	●	●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sra	エラー	20360	ディスクリソース異常を検出しました (type = used rate, level = NOTICE, %1)。	ディスク使用率監視で通知レベルの異常を検出しました。 %1 : 論理ドライブ	監視異常の原因を確認してください。	●	●						
sra	エラー	20360	ディスクリソース異常を検出しました (type = used rate, level = WARNING, %1)。	ディスク使用率監視で警告レベルの異常を検出しました。 %1 : 論理ドライブ	監視異常の原因を確認してください。	●	●						
sra	エラー	20360	ディスクリソース異常を検出しました (type = free space, level = NOTICE, %1)。	ディスク空き容量監視で通知レベルの異常を検出しました。 %1 : 論理ドライブ	監視異常の原因を確認してください。	●	●						
sra	エラー	20360	ディスクリソース異常を検出しました (type = free space, level = WARNING, %1)。	ディスク空き容量監視で警告レベルの異常を検出しました。 %1 : 論理ドライブ	監視異常の原因を確認してください。	●	●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
webmgr	警告	5121	HTTPS の設定が正しくないため、HTTPS で WebManager を利用できません。WebManager へは HTTP で接続してください。	HTTPS 設定不正	-	●	●	●					
SSS	エラー	20004	システムドライブ文字の取得が失敗しました。	システムドライブ文字の取得が失敗しました。	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。			●					
SSS	エラー	20005	サーバ名の取得が失敗しました。	サーバ名の取得が失敗しました。	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。			●					
SSS	情報	20006	サーバ名が更新されました。	サーバ名が更新されました。	-	●		●					
SSS	エラー	20007	コンフィグファイルの更新が失敗しました。	コンフィグファイルの更新が失敗しました。	構成情報を確認してください。	●		●					
SSS	情報	20008	コンフィグファイルが更新されました。	コンフィグファイルが更新されました。	-			●					
SSS	エラー	20009	コンフィグファイルの内容が不正です。	コンフィグファイルの内容が不正です。	構成情報を確認してください。			●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sss	エラー	20010	%1 サービスが開始できませんでした。	%1 サービスが開始できませんでした。	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●		●					
sss	情報	20012	%1 サービスが開始されました。	%1 サービスが開始されました。	-			●					
sss	情報	20013	%1 サービスが停止されました。	%1 サービスが停止されました。	-			●					
sss	情報	20014	LAN ボードの二重化モジュールが起動されました。	LAN ボードの二重化モジュールが起動されました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。			●					
sss	エラー	20015	LAN ボードの二重化モジュールが起動されませんでした。	LAN ボードの二重化モジュールが起動されませんでした。	-	●		●					
ncctl	エラー	20101	LAN ボード %1 の異常を検出しました。	LAN ボード %1 の異常を検出しました。	待機中の LAN ボードの設定が適切であるかどうか確認してください。	●		●					
ncctl	警告	20102	LAN ボード %1 を LAN ボード %2 に切り替えます。	LAN ボード %1 を LAN ボード %2 に切り替えます。	-	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
ncctl	エラー	20103	LAN ボード %1 の操作に 失敗しました。	LAN ボード %1 の操作に 失敗しました。	-	●		●					

4.3 ドライバイベントログメッセージ

4.3.1 カーネルモード LAN ハートビートドライバ

以下のイベントはシステムイベントログにソース "clphb" で記録されます。

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clphb	エラー	3001	ドライバ内部で致命的エラーが発生しました。	ドライバ内部で致命的エラーが発生しました。	カーネルメモリ不足・OS リソース不足が考えられます。パフォーマンスモニタで確認してください。
clphb	情報	1001	キープアライブタイムアウトにより緊急シャットダウンイベントをシグナル状態にセットしました。	ユーザ空間がストール状態です。	メモリ不足・OS リソース不足が考えられます。確認してください。
clphb	情報	1002	FILTER 口閉じのアクションにより緊急シャットダウンイベントをシグナル状態にセットしました。	FILTER 口閉じのアクションを受け取りました。	カーネルメモリ不足・OS リソース不足が考えられます。パフォーマンスモニタで確認してください。

4.4 グループリソース活性/非活性時の詳細情報

以下の情報はリソース活性/非活性処理が失敗した際にイベントログやアラートログに記録されるメッセージの文中に詳細情報として表示されます。

4.4.1 アプリケーションリソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
appli	エラー	5	アプリケーションのパスが不正です。	アプリケーションのパスが不正です。	アプリケーションのパスが正しいか確認してください。
appli	エラー	7	アプリケーションの起動に失敗しました。	アプリケーションの起動に失敗しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
appli	エラー	8	アプリケーションの停止に失敗しました。	アプリケーションの停止に失敗しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
appli	エラー	10	タイムアウトが発生しました。	タイムアウトが発生しました。	アプリケーションがタイムアウト時間以内に終了するか確認してください。
appli	エラー	11	ユーザのログオンに失敗しました。	ユーザのログオンに失敗しました。	実行ユーザのドメイン、アカウント、パスワードが正しく設定されているか確認してください。
appli	エラー	12	終了コード %1 を返しました。	非常駐タイプのアプリケーションが不正な終了コードを返却しました。	アプリケーションが不正な終了コードを返却した原因を確認してください。

次のページに続く

表 4.5 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
appli	エラー	その他	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.4.2 スクリプトリソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
script	エラー	6	開始スクリプトの起動に失敗しました。	開始スクリプトの起動に失敗しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
script	エラー	7	終了スクリプトの起動に失敗しました。	終了スクリプトの起動に失敗しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
script	エラー	8	終了コード %1 を返しました。	同期タイプのスクリプトが不正な終了コードを返却しました。	スクリプトが不正な終了コードを返却した原因を確認してください。
script	エラー	9	タイムアウトが発生しました。	タイムアウトが発生しました。	スクリプトがタイムアウト時間以内に終了するか確認してください。
script	エラー	10	ユーザのログオンに失敗しました。	ユーザのログオンに失敗しました。	実行ユーザのドメイン、アカウント、パスワードが正しく設定されているか確認してください。

次のページに続く

表 4.6 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
script	エラー	その他	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.4.3 サービスリソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
service	エラー	5	サービス制御権の取得に失敗しました。	サービス制御権の取得に失敗しました。	サービス名が正しいか確認してください。
service	エラー	6	サービスの起動に失敗しました。	サービスの起動に失敗しました。	サービスの状態を確認してください。
service	エラー	7	サービスの停止に失敗しました。	サービスの停止に失敗しました。	サービスの状態を確認してください。
service	エラー	8	サービスは既に起動しています。	サービスは既に起動しています。	サービスの状態を確認してください。サービスが起動済みの場合、エラーとしない設定をすることも可能です。
service	エラー	10	タイムアウトが発生しました。	タイムアウトが発生しました。	サービスがタイムアウト 時間以内に開始/停止するか確認してください。

次のページに続く

表 4.7 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
service	エラー	13	起動中のサービスに関連付けられているコンピュータ名が、対象 VCOM リソースの仮想コンピュータ名と異なります。	起動中のサービスに関連付けられているコンピュータ名が、対象 VCOM リソースの仮想コンピュータ名と異なります。	複数のサービスリソースに、同じサービスを設定する場合は、対象 VCOM リソース名を設定しないでください。
service	エラー	その他	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.4.4 仮想マシンリソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
vm	エラー	5	仮想マシン構成情報が不正です。	仮想マシンの構成ファイルが破損している可能性があります。	[VM 構成ファイルのパス] で設定された仮想マシンの構成ファイルを確認してください。
vm	エラー	6	仮想マシンは既に起動しました。	仮想マシンが既に起動しているため、起動に失敗しました。	仮想マシンの状態を確認してください。
vm	エラー	7	Hyper-V Virtual Machine Management サービスが開始していません。	Hyper-V Virtual Machine Management サービスが停止しています。	Hyper-V Virtual Machine Management サービスの状態を確認してください。

次のページに続く

表 4.8 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
vm	エラー	8	仮想マシン起動に失敗しました。	仮想マシンの起動に失敗しました。	仮想マシンの状態と構成ファイルが正常か確認してください。
vm	エラー	9	仮想マシン停止に失敗しました。	仮想マシンの停止に失敗しました。	仮想マシンの状態を確認してください。
vm	エラー	10	仮想マシン状態保存に失敗しました。	仮想マシンの一時停止・エクスポートが失敗しました。	Hyper-V マネージャで、仮想マシンが [実行中] の状態であるか確認してください。
vm	エラー	11	仮想マシン状態復元に失敗しました。	仮想マシンのインポート・再開が失敗しました。	[VM 構成ファイルのパス] で設定されたパスに構成ファイルが正しく出力されているか確認してください。
vm	エラー	13	タイムアウトが発生しました。	仮想マシンのインポート、エクスポート、起動、停止などに時間がかかりました。	タイムアウト時間の設定値が適切か確認してください。
vm	エラー	その他	内部エラーが発生しました	内部エラーが発生しました	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5 モニタリソース異常時の詳細情報

以下の情報はモニタリソースが異常を検出した際にイベントログやアラートログに記録されるメッセージの文中に詳細情報として表示されます。

4.5.1 アプリケーション監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
appliw	エラー	9	プロセスが存在しませんでした。(終了コード: %1)	プロセスが存在しませんでした。(終了コードについては取得できた場合のみ表示します。)	監視対象アプリケーションリソースのプロセスが何らかの原因により消滅しました。確認して下さい。
appliw	エラー	11	ユーザのログオンに失敗しました。	ユーザのログオンに失敗しました。	実行ユーザのドメイン、アカウント、パスワードが正しく設定されているか確認してください。
appliw	警告	その他	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.2 DB2 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
db2w	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗と考えられます。	OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。 %1 に初期化の内容が示されることがあります。
db2w	警告	102	設定値が正しくありません。	監視の設定値が正しくありません。	Cluster WebUI での設定値が正しくないと考えられるため、設定値を確認してください。
db2w	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
db2w	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (データベース名など) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。
db2w	警告	112	ユーザ認証で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。
db2w	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	データベースの異常を検出しました。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。

次のページに続く

表 4.10 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
db2w	エラー	14	SQL 文実行時の異常を検出しました [%1]。	SQL 文の実行に失敗しています。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。 %1 に実行した SQL 文が表示されます。
db2w	エラー	15	データの異常を検出しました。	データベースのテーブル内の値が異常です。	データベースが壊れている可能性がありますので、データベースの運用を中止し、調査してください。なお、同じ監視テーブル名で複数同時に監視を行っても、このエラーになることがあります。特に 双方向環境での設定値に問題がないか確認してください。
db2w	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
db2w	警告	160	設定情報の取得に失敗しました。	設定値を取得できなかったことを示します。	OS が異常状態になっていると考えられるため、サーバの再起動などを行ってください。
db2w	警告	190	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.3 ディスク RW 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	5	ファイルオープン処理に失敗しました。	ファイルオープン処理に失敗しました。	<p>監視対象ディスクのデバイスドライバがロードされているか、監視対象ディスクのデバイスが存在するか、監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が [ON] になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。</p> <p>メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。</p>

次のページに続く

表 4.11 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	6	ファイル書き込み処理に失敗しました。	ファイル書き込み処理に失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が [ON] になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	7	ファイルのディスク同期 処理に失敗しました。	ファイルのディスク同期 処理に失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が [ON] になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.11 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	8	ファイルクローズ処理に失敗しました。	ファイルクローズ処理に失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が [ON] になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	71	ファイルオープン処理で タイムアウトを検出しました。	ファイルオープン処理で タイムアウトを検出しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が [ON] になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.11 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	72	ファイル書き込み処理でタイムアウトを検出しました。	ファイル書き込み処理でタイムアウトを検出しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が [ON] になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	73	ファイルのディスク同期処理でタイムアウトを検出しました。	ファイルのディスク同期処理でタイムアウトを検出しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が [ON] になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.11 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	74	ファイルクローズ処理で タイムアウトを検出しました。	ファイルクローズ処理で タイムアウトを検出しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が [ON] になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ 不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	警告	100	キープアライブドライバの初期化処理でキープアライブの追加に失敗しました。	キープアライブドライバの初期化処理でキープアライブの追加に失敗しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	警告	101	ディスクに十分な空き容量がありません。	ディスクに十分な空き容量がありません。	監視対象ディスクの空き容量を確保してください。
diskw	警告	102	内部リソースの初期化処理でタイムアウトを検出しました。	内部リソースの初期化処理でタイムアウトを検出しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	警告	103	その他不整合によるタイムアウトを検出しました。	その他不整合によるタイムアウトを検出しました。	システム高負荷、メモリ 不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.11 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	警告	104	メモリ領域の確保に失敗しました。	メモリ領域の確保に失敗しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	警告	105	その他内部異常を検出しました。	その他内部異常を検出しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	警告	190	内部リソースの初期化異常が発生しました。	内部リソースの初期化異常が発生しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.4 FTP 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
ftpw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (IP アドレスなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。

次のページに続く

表 4.12 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
ftpw	エラー	12	ユーザ認証で異常を検出しました。	ユーザ認証に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
ftpw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
ftpw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
ftpw	警告	115	データの異常を検出しました。	レスポンスデータの値が異常です。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
ftpw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
ftpw	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.12 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
ftpw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。 %1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.5 カスタム監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
genw	エラー	5	スクリプトの起動に失敗しました。	スクリプトの起動に失敗した。	スクリプトが起動可能か確認してください。
genw	エラー	6	スクリプトが存在しませんでした。	非同期タイプのスクリプトが異常終了しました	スクリプトが終了した原因を確認してください。
genw	エラー	8	終了コード %1 を返しました。	同期タイプのスクリプトが不正な終了コードを返却しました。	スクリプトが不正な終了コードを返却した原因を確認してください。
genw	エラー	9	ユーザのログオンに失敗しました。	ユーザのログオンに失敗しました。	実行ユーザのドメイン、アカウント、パスワードが正しく設定されているか確認してください。

次のページに続く

表 4.13 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
genw	警告	100	スクリプトの起動に失敗しました。	スクリプトの起動に失敗した。	スクリプトが起動可能か確認してください。
genw	警告	100	終了コード %1 を返しました。	同期タイプのスクリプトが不正な終了コードを返却しました。	スクリプトが不正な終了コードを返却した原因を確認してください。
genw	警告	100 または 190	スクリプトのパスが不正です。	スクリプトのパスが不正です。	Cluster WebUI で設定値を確認してください。
genw	警告	100 または 190	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
genw	警告	190	パラメータが不正です。	監視の設定値が不正です。	Cluster WebUI で設定値を確認してください。
genw	警告	190	リソースがクラスタ構成情報に存在しません。	クラスタ構成情報が不正です。	Cluster WebUI で構成情報を確認してください。
genw	警告	190	クラスタ構成情報から値の取得に失敗しました。	クラスタ構成情報が不正です。	Cluster WebUI で構成情報を確認してください。
genw	警告	190	スクリプトが存在しませんでした。	非同期タイプのスクリプトが異常終了しました	スクリプトが終了した原因を確認してください。
genw	エラー	200	タイムアウトが発生しました。	同期タイプのスクリプトがタイムアウト時間内に終了しませんでした。	スクリプトの終了が遅延した原因を確認してください。

4.5.6 HTTP 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
httpw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (IP アドレスなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
httpw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
httpw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
httpw	警告	115	データの異常を検出しました。	レスポンスデータの値が異常です。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
httpw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
httpw	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.14 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
httpw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。 %1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.7 IMAP4 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
imap4w	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (IP アドレスなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
imap4w	エラー	12	ユーザ認証で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。

次のページに続く

表 4.15 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
imap4w	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
imap4w	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
imap4w	警告	115	データの異常を検出しました。	レスポンスデータの値が異常です。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
imap4w	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
imap4w	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
imap4w	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。%1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.8 IP 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
ipw	エラー	4	Ping が届きませんでした。	Ping が届きませんでした。	該当 IP アドレスへの [ping] コマンドが成功するか確認して下さい。 [ping] コマンドが失敗した場合は、該当 IP アドレスをもつ機器の状態、あるいはネットワークインタフェースの状態を確認してください。
ipw	警告	105	タイムアウトが発生しました。	タイムアウトが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
ipw	警告	189	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.9 NIC Link Up/Down 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
miiw	エラー	4	IP アドレスが存在しません。	IP アドレスが存在しません。	NIC の無効化を実行した可能性があります。 [ipconfig] コマンドで、指定 NIC の IP アドレスが存在するか確認してください。
miiw	エラー	8	NIC の Link Down を検出しました。	NIC の Link Down を検出しました。	LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
miiw	警告	105	IP アドレス一覧の取得に失敗しました。	IP アドレス一覧の取得に失敗しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
miiw	警告	106	NIC インターフェース名の取得に失敗しました。	NIC インターフェース名の取得に失敗しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
miiw	警告	107	NIC の状態取得に失敗しました。	NIC の状態取得に失敗しました。	NIC のデバイスがデバイス I/O コントロールに対応しているか確認してください。
miiw	警告	189	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.10 マルチターゲット監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
mtw	エラー	その他	内部エラーが発生しました。(status:%1)	内部エラーが発生しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
mtw	エラー	5	リソースのステータスが異常です。	リソースのステータスが異常です。	監視リソース一覧に設定された監視リソースの状態を確認してください。
mtw	エラー	1	無効なオプションです。	無効なオプションです。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.11 プロセス名監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
psw	エラー	4	監視対象プロセス (%1, pid=%2) の消滅を検知しました。	監視対象プロセスの消滅を検出しました。	監視対象プロセスが正しく動作しているか確認してください。
psw	エラー	5	監視対象プロセスは下限値を下回っています。プロセス数 %1/%2 (%3)	監視対象プロセスの起動プロセス数が指定された下限値未満になっています。	監視対象プロセスが正しく動作しているか確認してください。
psw	警告	100	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.19 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
psw	警告	190	パラメータが不正です。	監視の設定値が正しくない。	Cluster WebUI での設定値が正しくないと考えられるため、設定値を確認してください。

4.5.12 ODBC 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
odbcw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗と考えられます。 %1 に初期化の内容が示されることがあります。	OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。
odbcw	警告	102	設定値が正しくありません。	監視の設定値が正しくない。	Cluster WebUI での設定値が正しくないと考えられるため、設定値を確認してください。
odbcw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
odbcw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (データベース名など) をまず 確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか 確認してください。
odbcw	警告	112	ユーザ認証で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。
odbcw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	データベースの異常を検出しました。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
odbcw	エラー	14	SQL 文実行時の異常を検出しました [%1]。	SQL 文の実行に失敗しています。 %1 に実行した SQL 文が表示されます。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
odbcw	エラー	15	データの異常を検出しました。	データベースのテーブル内の値が異常です。	データベースが壊れている可能性がありますので、データベースの運用を中止し、調査してください。なお、同じ監視テーブル名で複数同時に監視を行っても、このエラーになることがあります。特に双方向環境での設定値に問題がないか確認してください。
odbcw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
odbcw	警告	160	設定情報の取得に失敗しました。	設定値を取得できなかったことを示します。	OS が異常状態になっていると考えられるため、サーバの再起動などを行ってください。
odbcw	警告	190	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.13 Oracle 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
oraclew	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗と考えられます。 %1 に初期化の内容が示されることがあります。	OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。
oraclew	警告	102	設定値が正しくありません。	監視の設定値が正しくありません。	Cluster WebUI での設定値が正しくないと考えられるため、設定値を確認してください。
oraclew	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
oraclew	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (データベース名など) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。
oraclew	警告	112	ユーザ認証で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。
oraclew	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	データベースの異常を検出しました。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。

次のページに続く

表 4.21 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
oraclew	エラー	14	SQL 文実行時の異常を検出しました [%1]。	SQL 文の実行に失敗しています。 %1 に実行した SQL 文が表示されます。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
oraclew	エラー	15	データの異常を検出しました。	データベースのテーブル内の値が異常です。	データベースが壊れている可能性がありますので、データベースの運用を中止し、調査してください。なお、同じ監視テーブル名で複数同時に監視を行っても、このエラーになることがあります。特に双方向環境での設定値に問題がないか確認してください。
oraclew	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
oraclew	警告	160	設定情報の取得に失敗しました。	設定値を取得できなかったことを示します。	OS が異常状態になっていると考えられるため、サーバの再起動などを行ってください。
oraclew	警告	190	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.14 POP3 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
pop3w	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (IP アドレスなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
pop3w	エラー	12	ユーザ認証で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
pop3w	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
pop3w	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
pop3w	警告	115	データの異常を検出しました。	レスポンスデータの値が異常です。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
pop3w	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。

次のページに続く

表 4.22 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
pop3w	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
pop3w	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。 %1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.15 PostgreSQL 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
psqlw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗と考えられます。 %1 に初期化の内容が示されることがあります。	OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

次のページに続く

表 4.23 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
psqlw	警告	102	設定値が正しくありません。	監視の設定値が正しくありません。	Cluster WebUI での設定値が正しくないと考えられるため、設定値を確認してください。
psqlw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
psqlw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (データベース名など) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。
psqlw	警告	112	ユーザ認証で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。
psqlw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	データベースの異常を検出しました。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
psqlw	エラー	14	SQL 文実行時の異常を検出しました [%1]。	SQL 文の実行に失敗しています。 %1 に実行した SQL 文が表示されます。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。

次のページに続く

表 4.23 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
psqlw	エラー	15	データの異常を検出しました。	データベースのテーブル内の値が異常です。	データベースが壊れている可能性がありますので、データベースの運用を中止し、調査してください。なお、同じ監視テーブル名で複数同時に監視を行っても、このエラーになることがあります。特に双方向環境での設定値に問題がないか確認してください。
psqlw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
psqlw	警告	160	設定情報の取得に失敗しました。	設定値を取得できなかったことを示します。	OS が異常状態になっていると考えられるため、サーバの再起動などを行ってください。
psqlw	警告	190	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.16 サービス監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
servicew	エラー	9	サービスが停止状態です。	サービスが停止状態です。	サービスの状態を確認してください。
servicew	警告	100	サービス制御権の取得に失敗しました。	サービス制御権の取得に失敗しました。	サービス名が正しいか確認してください。
servicew	警告	その他	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.17 SMTP 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
smtpw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (IP アドレスなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
smtpw	エラー	12	ユーザ認証で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。

次のページに続く

表 4.25 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
smtpw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
smtpw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
smtpw	警告	115	データの異常を検出しました。	レスポンスデータの値が異常です。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
smtpw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
smtpw	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
smtpw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。%1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.18 SQL Server 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
sqlserverw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗と考えられます。 %1 に初期化の内容が示されることがあります。	OS 自体が異常状態になっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。
sqlserverw	警告	102	設定値が正しくありません。	監視の設定値が正しくありません。	Cluster WebUI での設定値が正しくないと考えられるため、設定値を確認してください。
sqlserverw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
sqlserverw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (データベース名など) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。

次のページに続く

表 4.26 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
sqlserverw	警告	112	ユーザ認証で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。
sqlserverw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	データベースの異常を検出しました。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
sqlserverw	エラー	14	SQL 文実行時の異常を検出しました [%1]。	SQL 文の実行に失敗しています。 %1 に実行した SQL 文が表示されます。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
sqlserverw	エラー	15	データの異常を検出しました。	データベースのテーブル内の値が異常です。	データベースが壊れている可能性がありますので、データベースの運用を中止し、調査してください。なお、同じ監視テーブル名で複数同時に監視を行っても、このエラーになることがあります。特に双方向環境での設定値に問題がないか確認してください。
sqlserverw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。

次のページに続く

表 4.26 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
sqlserverw	警告	160	設定情報の取得に失敗しました。	設定値を取得できなかったことを示します。	OS が異常状態になっていると考えられるため、サーバの再起動などを行ってください。
sqlserverw	警告	190	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.19 Tuxedo 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
tuxw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (TUXCONFIG ファイルなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
tuxw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。

次のページに続く

表 4.27 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
tuxw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
tuxw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
tuxw	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
tuxw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。%1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.20 仮想マシン監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
vmw	エラー	12	仮想マシン状態異常	仮想マシンが [実行中] 以外の状態です。	Hyper-V マネージャで仮想マシンの状態を確認してください。
vmw	エラー	その他	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.21 WebSphere 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
wasw	エラー	12	ユーザ認証で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
wasw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
wasw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。

次のページに続く

表 4.29 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
wasw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
wasw	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
wasw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。%1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.22 WebLogic 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
wlsw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (IP アドレスなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。

次のページに続く

表 4.30 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
wlsw	エラー	12	ユーザ認証で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
wlsw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
wlsw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
wlsw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
wlsw	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
wlsw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。%1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.23 WebOTX 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
otxw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (サーバ名など) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
otxw	エラー	12	ユーザ認証で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
otxw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
otxw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
otxw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
otxw	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.31 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
otxw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。 %1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.24 JVM 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
jraw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視対象への接続が失敗しました。	監視対象の Java VM が起動されていることを確認してください。
jraw	エラー	12	監視対象の %1 が異常状態になりました。 %1 : 異常発生原因	監視対象の障害を検出しました。	メッセージを元に監視対象の Java VM 上で動作している Java アプリケーションを確認してください。
jraw	警告	192	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	クラスタサスペンドおよびクラスタリジュームを実行してください。

4.5.25 システム監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
sraw	エラー	11	監視 sraw は異常を検出しました。(11 : system resource 異常を検出しました)	システムリソースの監視で異常を検出しました。	リソースに関する何らかの異常が考えられます。確認してください。

4.5.26 プロセスリソース監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
psrw	エラー	11	監視 psrw は異常を検出しました。(11 : process resource 異常を検出しました)	プロセスリソースの監視で異常を検出しました	リソースに関する何らかの異常が考えられます。確認してください。

4.5.27 ユーザ空間監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
userw	エラー	71	ダミースレッド作成処理でタイムアウトを検出しました。	ダミースレッド作成処理でタイムアウトを検出しました。	システム高負荷、メモリ不足、またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
userw	警告	100	内部リソースの初期化処理でタイムアウトを検出しました。	内部リソースの初期化処理でタイムアウトを検出しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
userw	警告	101	ダミースレッドハンドルのクローズ処理でタイムアウトを検出しました。	ダミースレッドハンドルのクローズ処理でタイムアウトを検出しました。	システム高負荷、メモリ不足、またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
userw	警告	102	その他不整合によるタイムアウトを検出しました。	その他不整合によるタイムアウトを検出しました。	システム高負荷、メモリ不足、またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
userw	警告	190	内部リソースの初期化異常が発生しました。	内部リソースの初期化異常が発生しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

4.6 ディスク RW 監視リソースの STOP コード一覧

以下の情報はディスク RW 監視リソースの『ストール異常検出時動作』で

「意図的なストップエラーの発生」を選択した場合に発生させる STOP コードの一覧です。

STOP コード	内容
0xE0000000	グループリソースの活性/非活性失敗時、モニタリソースの異常検出時の最終動作として発生させた STOP エラー
0xE000FF**	キープアライブタイムアウト (ディスク RW 監視のタイムアウト) により発生させた STOP エラー 下位 8 ビット (** の部分) は、下記のチェックポイント (タイムアウト時に実行されていた可能性が高い処理) を示す。
0xE000FF00	CLUSTERPRO の内部処理
0xE000FF01	free(), SetWaitableTimer(), GetTickCount(), WaitForMultipleObjects()
0xE000FF02	CreateFile(), _beginthreadex()
0xE000FF03	malloc(), WriteFile()
0xE000FF04	FlushFileBuffers()
0xE000FF05	CloseHandle()
0xE000FF06	CLUSTERPRO の内部処理

4.7 JVM 監視リソースのログ出力メッセージ

以下のメッセージは JVM 監視リソース独自のログファイルである JVM 運用ログ、JVM ロードバランサ連携ログのメッセージ一覧です。

作成場所は以下のとおりです。

JVM 運用ログ

<CLUSTERPRO インストールパス>\log\ha\jra\jragent*.log(*は 0 から始まる数字)

JVM ロードバランサ連携ログ

<CLUSTERPRO インストールパス>\log\ha\jra\lbadmin.log

4.7.1 JVM 運用ログ

メッセージ	発生原因	対処方法
Failed to write the %1.stat.	JVM 統計ログファイルの書き込みに失敗しました。 %1.stat : JVM 統計ログファイル名	ディスク空き容量が十分か確認してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: analyze finish[%4]. state = %2, cause = %3	(監視対象の Java VM の状態が異常時) 監視対象の Java VM でリソース使用量がしきい値を超えました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:監視対象の Java VM の状態 (1=正常,0=異常) %3:異常発生時のエラー発生箇所 %4:計測スレッド名	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
thread stopped by UncaughtException.	JVM 監視リソースのスレッドが停止しました。	クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、JVM 監視リソースを再起動してください。
thread wait stopped by Exception.	JVM 監視リソースのスレッドが停止しました。	クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、JVM 監視リソースを再起動してください。
%1: monitor thread can't connect to JVM.	監視対象の Java VM へ接続できませんでした。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM が起動されていることを確認してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: monitor thread can't get the JVM state.	監視対象の Java VM からリソース使用量が取得できませんでした。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM が起動されていることを確認してください。
%1: JVM state is changed [abnormal -> normal].	監視対象の Java VM の状態が異常から正常へ変化しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	-
%1: JVM state is changed [normal -> abnormal].	監視対象の Java VM の状態が正常から異常へ変化しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1: Failed to connect to JVM.	監視対象の Java VM へ接続できませんでした。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM が起動されていることを確認してください。
Failed to write exit code.	JVM 監視リソースが終了コードを記録するファイルに書き込みできませんでした。	ディスク空き容量が十分か確認してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
Failed to be started JVM Monitor.	JVM 監視リソースの起動に失敗しました。	JVM 運用ログを確認して開始できない原因を取り除いてから、クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、JVM 監視リソースを再起動してください。
JVM Monitor already started.	JVM 監視リソースはすでに起動しています。	クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、JVM 監視リソースを再起動してください。
%1: GARBAGE_COLLECTOR_MXBEAN_DOMAIN_TYPE is invalid.	監視対象の Java VM から GC 情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1: GarbageCollectorMXBean is invalid.	監視対象の Java VM から GC 情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の作環境が正しいか確認してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: Failed to measure the GC stat.	監視対象の Java VM から GC 情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1: GC stat is invalid. last.getCount = %2, last.getTime = %3, now.getCount = %4, now.getTime = %5.	監視対象の Java VM から GC 発生回数、GC 実行時間の計測に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:前回計測時点の GC 発生回数 %3:前回計測時点の GC 総実行時間 %4:今回計測時点の GC 発生回数 %5:今回計測時点の GC 総実行時間	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: GC average time is too long. av = %6, last.getCount = %2, last.getTime = %3, now.getCount = %4, now.getTime = %5.	監視対象の Java VM で GC 実行時間の平均がしきい値を超えています。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:前回計測時点の GC 発生回数 %3:前回計測時点の GC 総実行時間 %4:今回計測時点の GC 発生回数 %5:今回計測時点の GC 総実行時間 %6:前回計測時点から今回計測時点までに実行された GC 実行時間の平均	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: GC average time is too long compared with the last connection. av = %6, last.getCount = %2, last.getTime = %3, now.getCount = %4, now.getTime = %5.	監視対象の Java VM へ再接続した後、監視対象の Java VM で GC 実行時間の平均がしきい値を超えています。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:前回計測時点の GC 発生回数 %3:前回計測時点の GC 総実行時間 %4:今回計測時点の GC 発生回数 %5:今回計測時点の GC 総実行時間 %6:前回計測時点から今回計測時点までに実行された GC 実行時間の平均	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: GC count is too frequently. count = %4 last.getCount = %2, now.getCount = %3.	監視対象の Java VM で GC 発生回数がしきい値を超えています。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:前回計測時点の GC 発生回数 %3:今回計測時点の GC 発生回数 %4:前回計測時点から今回計測時点までの GC 発生回数	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1: GC count is too frequently compared with the last connection. count = %4 last.getCount = %2, now.getCount = %3.	監視対象の Java VM へ再接続した後、監視対象の Java VM で GC 発生回数がしきい値を超えています。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:前回計測時点の GC 発生回数 %3:今回計測時点の GC 発生回数 %4:前回計測時点から今回計測時点までの GC 発生回数	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: RuntimeMXBean is invalid.	監視対象の Java VM から情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1: Failed to measure the runtime stat.	監視対象の Java VM から情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。 監視対象の Java VM で処理負荷が高くなっていないかを確認してください。
%1: MEMORY_MXBEAN_NAME is invalid. %2, %3.	監視対象の Java VM からメモリ情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:メモリプールの名称 %3:メモリの名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1: MemoryMXBean is invalid.	監視対象の Java VM からメモリ情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: Failed to measure the memory stat.	監視対象の Java VM からメモリ情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。 監視対象の Java VM で処理負荷が高くなっていないかを確認してください。
%1: MemoryPool name is undefined. memory_name = %2.	監視対象の Java VM からメモリ情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:計測対象の Java メモリプール名	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: MemoryPool capacity is too little. memory_name = %2, used = %3, max = %4, ratio = %5.	監視対象の Java VM の Java メモリプールの空き容量がしきい値を下回りました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:計測対象の Java メモリプール名 %3:Java メモリプールの使用量 %4:Java メモリプールの使用可能な最大量 %5:Java メモリプールの利用率	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1: THREAD_MXBEAN_NAME is invalid.	監視対象の Java VM からスレッド情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1: ThreadMXBean is invalid.	監視対象の Java VM からスレッド情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: Failed to measure the thread stat.	監視対象の Java VM からスレッド情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1: Detect Deadlock. threads = %2.	監視対象の Java VM でスレッドのデッドロックが発生しました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:デッドロックしたスレッドの ID	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1: Thread count is too much(%2).	監視対象の Java VM でスレッドの起動数がしきい値を超えました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:計測時点でのスレッド起動数	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: ThreadInfo is null.Thread count = %2.	監視対象の Java VM でスレッドの情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:計測時点でのスレッド起動数	監視対象の Java VM のバージョンの動作環境が正しいか確認してください
%1: Failed to disconnect.	監視対象の Java VM からの切断に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	-
%1: Failed to connect to WebLogicServer.	監視対象の WebLogic Server の接続に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1: Failed to connect to Sun JVM.	監視対象の Java VM、WebOTX の接続に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM、WebOTX 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
Failed to open the %1.	JVM 統計ログの出力に失敗しました。 %1:HA/JVMSaverJVM統計ログファイル名称	ディスク空き容量が十分か、オープン済みのファイル数が上限を超えていないか確認してください。
%1: Can't find monitor file.	監視をしません。 %1:監視対象のJava VM 名称	-
%1: Can't find monitor file, monitor stopped[thread:%2].	監視を停止します。 %1:監視対象のJava VM 名称 %2:計測スレッドの種類	-
%1: Failed to create monitor status file.	内部ファイルの作成に失敗しました。 %1:監視対象のJava VM 名称	ディスク空き容量やボリュームのファイル最大数が十分か確認してください。
%1: Failed to delete monitor status file.	内部ファイルの削除に失敗しました。 %1:監視対象のJava VM 名称	ハードディスクに問題がないか確認してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: com.bea.Type=ServerRuntime is invalid.	監視対象の Java VM から情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1: WorkManagerRuntimeMBean or ThreadPoolRuntimeMBean is invalid.	監視対象の WebLogic Server から情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の WebLogic Server の動作環境が正しいか確認してください。
%1: Failed to measure the WorkManager or ThreadPool stat.	監視対象の WebLogic Server から情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の WebLogic Server の動作環境が正しいか確認してください。
%1: ThreadPool stat is invalid. last.pending = %2, now.pending = %3.	監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで待機リクエスト数の計測に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:前回計測時点の待機リクエスト数 %3:今回計測時点の待機リクエスト数	監視対象の WebLogic Server のバージョンの動作環境が正しいか確認してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: WorkManager stat is invalid. last.pending = %2, now.pending = %3.	監視対象の WebLogic Server のワークマネージャで待機リクエスト数の計測に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:前回計測時点の待機リクエスト数 %3:今回計測時点の待機リクエスト数	監視対象の WebLogic Server のバージョンの動作環境が正しいか確認してください。
%1: PendingRequest count is too much. count = %2.	監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで待機リクエスト数が、しきい値を超えています。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:今回計測時点の待機リクエスト数	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: PendingRequest increment is too much. increment = %4, last.pending = %2, now.pending = %3.	監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで待機リクエスト数の増分が、しきい値を超えています。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:前回計測時点の待機リクエスト数 %3:今回計測時点の待機リクエスト数 %4:前回計測時点から今回計測時点までの待機リクエスト数の増分	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: PendingRequest increment is too much compared with the last connection. increment = %4, last.pending = %2, now.pending = %3.	<p>監視対象の WebLogic Server へ再接続した後、監視対象の Weblogic Server のスレッドプールで待機リクエスト数の増分が、しきい値を超えています。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称</p> <p>%2:前回計測時点の待機リクエスト数</p> <p>%3:今回計測時点の待機リクエスト数</p> <p>%4:前回計測時点から今回計測時点までの待機リクエスト数の増分</p>	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1: Throughput count is too much. count = %2.	<p>監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで単位時間あたりに実行したリクエスト数が、しきい値を超えています。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称</p> <p>%2:今回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数</p>	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: Throughput increment is too much. increment = %4, last.throughput = %2, now.throughput = %3.	<p>監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで単位時間あたりに実行したリクエスト数の増分が、しきい値を超えています。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称</p> <p>%2:前回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数</p> <p>%3:今回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数</p> <p>%4:前回計測時点から今回計測時点までの単位時間あたりに実行したリクエスト数の増分</p>	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: Throughput increment is too much compared with the last connection. increment = %4:, last.throughput = %2, now.throughput = %3.	監視対象の WebLogic Server へ再接続した後、監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで単位時間あたりに実行したリクエスト数の増分が、しきい値を超えています。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:前回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数 %3:今回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数 %4:前回計測時点から今回計測時点までの単位時間あたりに実行したリクエスト数の増分	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: PendingRequest count is too much. appName = %2, name = %3, count = %4.	監視対象の WebLogic Server のワークマネージャで待機リクエスト数が、しきい値を超えています。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:アプリケーション名 %3:ワークマネージャ名 %4:待機リクエスト数	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: PendingRequest increment is too much. appName = %2, name = %3, increment = %6, last.pending = %4, now.pending = %5.	監視対象の WebLogic Server のワークマネージャで待機リクエストの数の増分が、しきい値を超えています。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:アプリケーション名 %3:ワークマネージャ名 %4:前回計測時点の待機リクエスト数 %5:今回計測時点の待機リクエスト数 %6:前回計測時点から今回計測時点までの待機リクエスト数の増分	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: PendingRequest increment is too much compared with the last connection. AppName = %2, Name = %3, increment = %6, last.pending = %4, now.pending = %5.	監視対象の WebLogic Server へ再接続した後、監視対象の WebLogic Server のワークマネージャで待機リクエスト数の増分が、しきい値を超えています。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:アプリケーション名 %3:ワークマネージャ名 %4:前回計測時点の待機リクエストの数 %5:今回計測時点の待機リクエストの数 %6:前回計測時点から今回計測時点までの待機リクエスト数の増分	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: Can't find WorkManager. appName = %2, name = %3.	設定したワークマネージャが WebLogic Server から取得できません。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:アプリケーション名 %3:ワークマネージャ名	[監視対象の WebLogic ワークマネージャ] の設定を見直してください。
%1: analyze of average start[%2].	平均値の分析を開始しました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:スレッド名	-
%1: analyze of average finish[%2].state = %3.	平均値の分析が終了しました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:スレッド名 %3:監視対象の状態	-

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: Average of PendingRequest count is too much. count = %2.	監視対象の Weblogic Server のスレッドプールで待機リクエスト数の平均値が、しきい値を超えています。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:今回計測時点の待機リクエスト数	監視対象の Weblogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1: Average of Throughput count is too much. count = %2.	監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで単位時間あたりに実行したリクエスト数の平均値が、しきい値を超えています。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:今回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.37 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: Average of PendingRequest count is too much. AppName = %2, Name = %3, count = %4.	監視対象の WebLogic Server のワークマネージャで待機リクエスト数の平均値が、しきい値を超えています。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:アプリケーション名 %3:ワークマネージャ名 %4:今回計測時点の待機リクエスト数	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
Error: Failed to operate clpjra_bigip.[%1]	%1:エラーコード	設定内容を見直してください。

4.7.2 JVM ロードバランサ連携ログ

メッセージ	発生原因	対処方法
lbadmin command start.	ロードバランサ連携のコマンドの実行を開始しました。	-
lbadmin command finish.	ロードバランサ連携のコマンドの実行が終了しました。	-
Into HealthCheck mode.	ヘルスチェック機能が有効です。	-
Into Weight mode.	監視対象 Java VM の負荷算出機能が有効です。	-
The PID of lbadmin.jar is "%1".	ロードバランサ連携関連のプロセスのプロセス ID です。 %1 : lbadmin.jar のプロセス ID	-

次のページに続く

表 4.38 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
Thread wait stopped by Exception	ダウン判定の待機を中止しました。	-
Rename Command succeeded.	HTML ファイルのリネーム処理が成功しました。	-
Rename Command failed.	HTML ファイルのリネーム処理が失敗しました。	HTML ファイル名と HTML リネーム先ファイル名を確認してください。
%1 doesn't exist.	リネーム元の HTML ファイルが存在しません。 %1:HTML ファイル名	HTML ファイル名を確認してください。
%1 already exists.	リネーム先の HTML ファイルが既に存在します。 %1:HTML リネーム先ファイル名	HTML リネーム先ファイル名を確認してください。
Can't rename file:%1.	HTML ファイルのリネーム処理に失敗しました。 %1:HTML ファイル名	HTML リネーム先ファイル名を確認してください
The number of retries exceeded the limit.	HTML ファイルリネーム処理のリトライ回数が上限を超えました。	HTML リネーム先ファイル名を確認してください。
The percent of the load is "%1".	監視対象 Java VM の負荷算出に成功しました。 %1:監視対象 Java VM の負荷	-
stat log (%1) doesn't exist.	JVM 統計ログファイルがありません。 %1:JVM 統計ログファイル名	クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、JVM 監視リソースを再起動してください。

次のページに続く

表 4.38 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
stat log(%1:) cannot be opened for reading.	JVM 統計ログファイルのオープンに失敗しました。 %1:JVM 統計ログファイル名	クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、JVM 監視リソースを再起動してください。
format of stat log (%1) is wrong.	JVM 統計ログファイルの中身が不正です。 %1:JVM 統計ログファイル名	JVM 統計ログファイルを削除した後、クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、JVM 監視リソースを再起動してください。
Failed to get load of application server.	JVM 統計ログファイルから負荷算出のためのデータ取得に失敗しました。	監視対象 Java VM の負荷算出設定が正しいか見直してください。
Can't find lock file(%1s*.stat.lck), maybe HA/JVMSaver did not start yet.	JVM j 監視が起動していません。 %1:内部ファイル名	JVM 監視リソースを起動してください。

4.8 ユーザ空間監視リソースの **STOP** コード一覧

以下の情報はユーザ空間監視リソースの『ストール異常検出時動作』で

「意図的なストップエラーの発生」を選択した場合に発生させる **STOP** コードの一覧です。

STOP コード	内容
0xE0000000	モニタリソースの異常検出時の最終動作として発生させた STOP エラー
0xE000FF** 下位 8 ビット (** の部分) は、 下記のチェック ポイント (タイム アウト時に実行 されていた可 能性が高い処 理) を示す。	キープアライブタイムアウト (ユーザ空間監視のタイムアウト) により発生させた STOP エラー
0xE000FF00	CLUSTERPRO の内部処理
0xE000FF01	SetWaitableTimer(), GetTickCount(), WaitForMultipleObjects()
0xE000FF02	_beginthreadex(), WaitForMultipleObjects()
0xE000FF05	CloseHandle()
0xE000FF06	CLUSTERPRO の内部処理

第 5 章

免責・法的通知

5.1 免責事項

- 本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。
- 日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいせん。また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。
- 本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

5.2 商標情報

- CLUSTERPRO® は、日本電気株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Server、Internet Explorer、Azure、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標です。
- Oracle、Oracle Database、Solaris、MySQL、Tuxedo、WebLogic Server、Container、Java およびすべての Java 関連の商標は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- WebOTX は、日本電気株式会社の登録商標です。
- F5、F5 Networks、BIG-IP、および iControl は、米国および他の国における F5 Networks, Inc. の商標または登録商標です。
- IBM、DB2、WebSphere は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- PostgreSQL は、PostgreSQL Global Development Group の登録商標です。
- 本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

第 6 章

改版履歴

版数	改版日付	内容
1	2021/04/09	新規作成
2	2021/07/26	誤記修正
3	2021/10/15	誤記修正
4	2022/02/25	誤記修正
5	2022/11/04	誤記修正

© Copyright NEC Corporation 2021. All rights reserved.